

年 報

—平成30年度—



No. 8

八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館

目 次

I	沿革	1
II	施設概要	
	1. 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（本館）	2
	2. 八戸市縄文学習館（是川縄文館 分館）	3
III	教育普及等	
	1. 常設展示	4
	2. 企画展示	6
	3. 教育普及の実績	11
	4. 八戸圏域広域的体験学習支援事業（はっふる隊）	16
	5. 地域連携	16
	6. 世界遺産登録へ向けた取り組み	18
	7. 調査研究	19
	8. 広報・情報発信	21
	9. ミュージアムショップ・喫茶コーナー「これカフェ」	22
IV	埋蔵文化財調査等	
	1. 発掘調査事業概要	23
	2. 調査概要	27
	3. 発掘調査報告書	35
	4. 情報公開	36
	5. 是川遺跡美術工芸品保存修理事業	37
	6. 埋蔵文化財活用活性化事業	37
V	史跡整備	
	1. 史跡是川石器時代遺跡第1期整備事業	38
	2. 史跡維持管理	39
VI	管理運営概要	
	1. 協議会等	40
	2. 日記抄	41
	3. 来館者利用状況	44
	4. 市内小中学校利用状況	45
	5. 資料利用状況	45
	6. 資料収蔵	49
	7. 予算概要	49
VII	組織・関係団体	
	1. 組織及び職員構成	50
	2. 八戸縄文保存協会	50
	3. 是川文化財愛護会	50
	4. 是川縄文隊	51
	5. 縄文是川ボランティア	51
	利用案内	52

I 沿革

是川縄文館は、市内の遺跡から出土した埋蔵文化財の積極的な公開・活用、適切な保存管理に努め、埋蔵文化財保護の重要性を伝えるため、埋蔵文化財センターとして平成23年（2011）に開館した。是川遺跡、風張1遺跡等の発掘成果をふまえた展示や体験交流等を通して、市民や来館者が地域文化の魅力を再発見し、誇りや愛着が感じられる郷土づくりに資する。

また、八戸市縄文学習館は、考古館・歴史民俗資料館とともに是川遺跡と一体となって活用を図る「是川遺跡文化学習ゾーン」の中核施設として、平成6年（1994）に開館した。平成23年（2011）5月に一時休館し、展示リニューアルを経て、同年7月10日に改めて開館した。なお平成23年度機構改革により、八戸市縄文学習館は八戸市博物館分館から八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館分館へ所管替えとなった。

- 昭和32年（1957）： 「是川石器時代遺跡」国史跡指定。
- 昭和36年（1961）： 泉山岩次郎氏、斐次郎氏ご兄弟から出土品の寄贈を受ける。
- 昭和37年（1962）： 寄贈品のうち、中居遺跡出土品633点が重要文化財に指定。
- 昭和38年（1963）： 「考古館」完成（9月30日）。
- 昭和49年（1974）： 「歴史民俗資料館」完成（3月30日）。
- 昭和50年（1975）： 「歴史民俗資料館」開館（5月10日）。
- 平成5年（1993）： 3月「縄文学習館」基本設計完成。 4月 縄文学習館展示指導員会議実施。
5月 建築予定地発掘調査実施（8月終了）・地質調査完了。
6月 映像展示ソフト制作委託実施。 7月 建築実施設計完成。
8月 展示実施設計完成。
- 平成6年（1994）： 3月 建築・設備・展示各工事完成。
6月「縄文学習館」開館（6月24日、八戸市博物館分館）。
- 平成7年（1995）： 是川遺跡文化学習ゾーンオープン（2月22日）。
- 平成9年（1997）： 「是川縄文の里整備基本構想」を策定。
- 平成15年（2003）： 「是川縄文の里整備検討委員会」を設置し、基本構想見直し。
- 平成16年（2004）： 「是川縄文の里整備検討委員会」が（仮称）是川縄文博物館の建設に向けて建設計画等を検討。史跡追加指定。
- 平成17年（2005）： （仮称）是川縄文博物館の建設用地取得。
- 平成18年（2006）： 施設の機能にあわせ（仮称）是川縄文館と改める。プロポーザル方式で設計業者を選定し、基本設計を実施。
- 平成19年（2007）： 実施設計を実施。
- 平成20年（2008）： 造成工事を実施し、建設工事に着手。
- 平成21年（2009）： 建設工事及び展示設備Ⅰ期工事を実施。
- 平成22年（2010）： 展示設備Ⅱ期工事及び外構・駐車場工事を実施。
- 平成23年（2011）： 4月 機構改革により縄文学習館が「八戸市博物館分館」から「八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館分館」に所管替え。
5月 「考古館」・「歴史民俗資料館」閉館、「縄文学習館」一時休館、縄文学習館展示等改修業務委託実施。
6月 縄文学習館展示等改修業務委託完成。
中居遺跡出土品330点が重要文化財に追加指定（総数963点）。
7月 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館開館（7月10日）。
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館条例及び施行規則、組織等規則施行。
開館記念企画展「八戸の埋蔵文化財」開催（7月10日～9月25日）。
開館記念講演会「是川遺跡の現在と未来」開催（7月17日）。
8月 来館者1万人達成。 ※本館観覧者数
10月 開館記念特別展「縄文至宝展」開催（10月15日～11月13日）。
- 平成24年（2012）： 7月 開館1周年行事開催（7月7日～7月24日）。 来館者5万人達成。 ※本館入館者総数
- 平成25年（2013）： 10月 史跡追加指定（史跡総面積213,497㎡、遺跡全体の56.78%）。
- 平成26年（2014）： 6月 来館者10万人達成。 ※本館入館者総数
- 平成28年（2016）： 5月 来館者15万人達成。 ※本館入館者総数
7月 開館5周年行事開催（7月9日～7月10日）。
10月 史跡追加指定（史跡総面積219,009㎡、遺跡全体の58.24%）。
- 平成30年（2018）： 1月 来館者20万人達成。 ※本館入館者総数
3月 「史跡是川石器時代遺跡第1期整備基本計画」を策定。

II 施設概要

1. 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（本館）

(1) 施設の名称と位置

- 名称：八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館
- 住所：青森県八戸市大字是川字横山1

(2) 施設の概要

- 構造：1階鉄筋コンクリート造+2階鉄骨造
- 敷地面積：13,752.55㎡ ○建築面積：2,602.98㎡ ○延床面積：4,593.82㎡
- 建築基本・実施設計：(株)岡設計 ○展示基本・実施設計及び施工：(株)丹青社

(3) 主要施設・面積 ※床面積 1階：2,408.19㎡ 2階：2,185.63㎡

階	室名	面積(㎡)	階	室名	面積(㎡)	階	室名	面積(㎡)
1F	体験交流室	142.8	1F	館長室(応接室)	36.87	2F	図書閲覧コーナー	91.19
	アプローチ展示	229.53		事務室	79.12		研修室	62.12
	特別収蔵庫	139.49		会議室	51.12		調査記録保管室	39.78
	特別収蔵庫前室	22.70		スタッフルーム	46.51		書庫	133.42
	一般収蔵庫	473.06		器材庫	56.25		研究室	151.13
	荷解場	104.62	常設展示室	503.01	出土品整理室		143.47	
	保存科学室	55.90	国宝展示室	46.60	図面整理室		87.86	
	作業室	54.90	企画展示室	178.37	写真撮影室		41.66	
	ミュージアムショップ	78.59	展示準備室	81.94	ベビーコーナー		4.48	

○駐車場：普通車86台、大型バス6台、障がい者用3台 ○トイレ：2か所（障がい者用含む、職員用除く）

(4) 建設事業費 ※総事業費：2,242,439千円

- 基本・実施設計：87,740千円 ○外構工事等：189,120千円 ○本棟工事等：1,628,434千円
- 器材庫建築工事等：50,012千円 ○展示工事：287,133千円



八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

2. 八戸市縄文学習館（是川縄文館 分館）

(1) 施設の名称と位置

- 名称：八戸市縄文学習館（八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 分館）
- 住所：青森県八戸市大字是川字中居3-1

(2) 施設の概要

- 構造：1階・2階鉄筋コンクリート造
- 敷地面積：15,668.10㎡ ○建築面積：526.34㎡ ○延床面積：623.82㎡
- 建築基本・実施設計：(株) 武田菱設計事務所 ○建築工事：(株) 大入建設
- 展示基本・実施設計及び施工：アール・エー・ビー開発(株)

(3) 主要施設・面積 ※床面積 1階：519.940㎡ 2階：103.880㎡

階	室名	面積(㎡)	階	室名	面積(㎡)	階	室名	面積(㎡)
1F	事務室	29.975	1F	常設展示室	118.673	2F	資料整理室	34.504
	情報資料室	29.635		体験学習室	80.750		収蔵庫	46.216

- 駐車場：普通車8台 ○トイレ：1か所（障がい者用含む）

(4) 建設事業費 ※総事業費：341,671千円

- 基本・実施設計：11,845千円 ○外構工事等：5,789千円 ○本棟工事等：241,665千円
- 展示工事・映像資料製作：68,644千円 ○その他：13,728千円

(5) 展示改修等事業費

- 事業費：8,810千円 ○展示改修等委託受託者：アール・エー・ビー開発(株)



八戸市縄文学習館
（八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 分館）

III 教育普及等

1. 常設展示

(1) 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

常設展示は、直感的な手法で是川遺跡を印象付け（右脳）、論理的な手法で詳しい解説を行う（左脳）、対比的なコンセプトとしており、「縄文の美と謎を探る」ことをテーマとしている。

導入部のイメージョン・シアターは、来館者に是川遺跡の特徴を印象付け、体験できるシアター空間。漆塗り遺物の赤と黒や縄文文様をテーマとする神秘的な「縄文への道」に続き、豊かな自然の中で植物を多様に利用したくらしを紹介する「縄文くらしシアター」で構成する。続く「縄文の美」は、「漆の美」「是川の美」「風張の美」の3コーナーからなり、縄文人が作り出した造形美をじっくりと鑑賞できる空間とした。

左脳ゾーンとなる「縄文の謎」では、是川中居遺跡の発掘現場から、調査研究成果として「環境」「くらし」「わざ」「漆文化の広がり」という4つのテーマから紹介している。

続く「最新研究報告」は、埋蔵文化財センターの調査・研究成果を更新しながら展示する常新展示を目指している。平成30年度は、新たに第6回「貝塚を発掘する『一王寺遺跡』」を公開した。合掌土偶は「国宝展示室」の免震・密閉式展示ケースにて展示されている。

なお、1階アトリウムはガイダンス展示となっており、八戸市の遺跡や、全国の縄文遺跡について調べることができる体験型の端末「はちのへ遺跡ログ」・「是川羅針盤」を設置している。

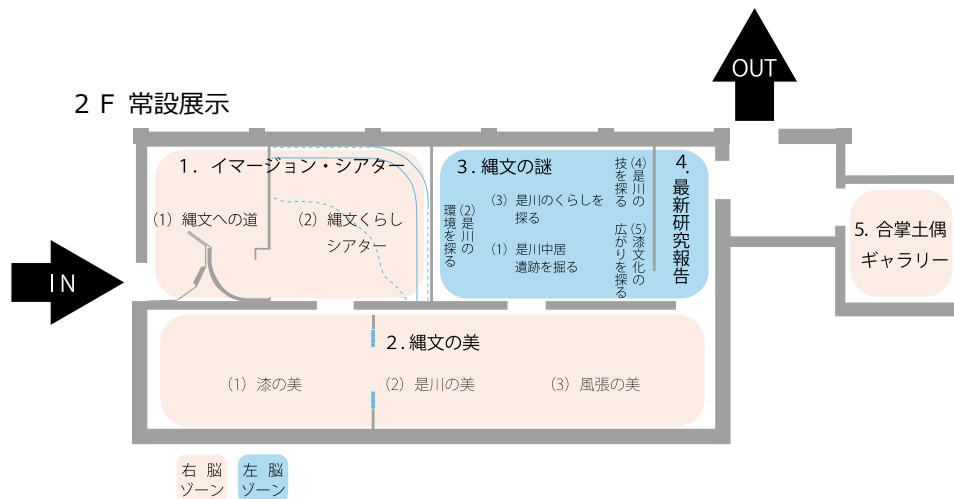
展示室	展示品	重要文化財	指定外	レプリカ	復元品	民俗資料
漆の美	50	48	2	-	-	-
是川の美	219	175	44	-	-	-
風張の美	203	203	-	-	-	-
縄文の謎	74	41	4	-	22	7
最新研究報告	40	-	40	-	-	-
国宝展示室	1	※国宝1	-	-	-	-
計	587	468	90	0	22	7



縄文の美

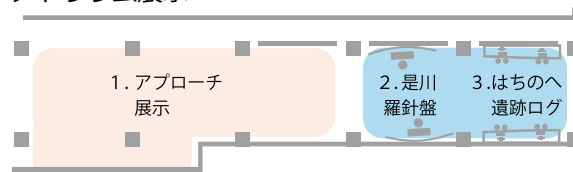
常設展示品（平成30年度）

※考古資料のうち国指定重要文化財が占める割合は約8割



国宝展示室

1F アトリウム展示



是川羅針盤

展示構成

(2) 八戸市縄文学習館（是川縄文館 分館）

是川縄文館分館の常設展示では、是川遺跡の学史的背景や概要について紹介するとともに、埋蔵文化財センターの役割について解説しており、本館常設展示へのプロローグとなっている。

I 是川遺跡と泉山兄弟

是川遺跡の発掘と保存に大きな功績を残した泉山岩次郎、斐次郎ご兄弟を顕彰し、泉山ご兄弟による是川遺跡発掘の歴史や、考古学研究者たちとの関わり等について紹介する。

II 是川遺跡

是川遺跡を構成する一王寺遺跡（縄文時代前期～中期）、堀田遺跡（縄文時代中期）、中居遺跡（縄文時代晩期）について概要を紹介する。また各遺跡の日本考古学史に残る貴重な発見について解説している。

III 是川遺跡の環境

中居遺跡の花粉分析の成果をもとに、縄文時代晩期の頃の環境について紹介する。また屋外に植栽した縄文時代の植物を散策してもらうよう、植物の種類・地点を図表で示しており、フィールドミュージアムの要素を盛り込んでいる。

IV 埋蔵文化財センターの役割

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館の機能・役割について紹介する。展示は「埋蔵文化財の保護」、「発掘調査」、「整理作業」、「発掘調査報告書の作成」、「埋蔵文化財の活用と普及」の5項目で構成し、埋蔵文化財保護意識の啓発に努める。また、これまで作成・刊行した八戸市内の遺跡の発掘調査報告書を設置し、閲覧できるようになっている。

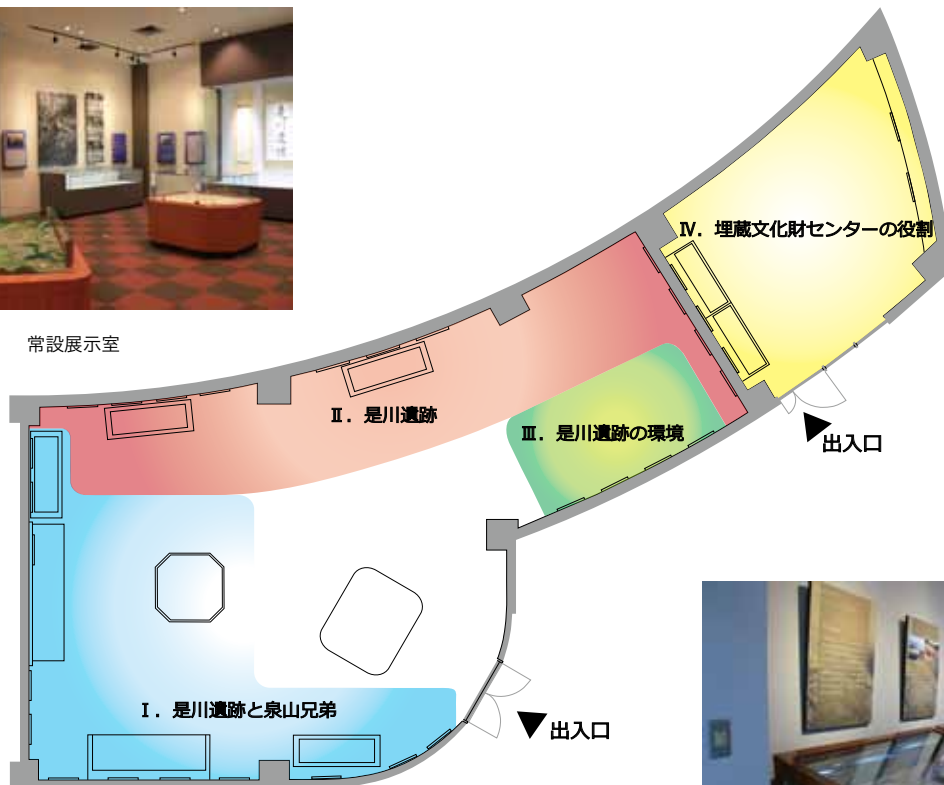
展示室	展示品	文献史料	民俗資料
是川遺跡と泉山兄弟	61	51	10
是川遺跡	3	3	-
埋蔵文化財センターの役割	6	6	-
計	70	60	10

常設展示品（平成30年度）

※埋蔵文化財の展示公開はしていない



常設展示室



展示構成



IV 埋蔵文化財センターの役割

2. 企画展示

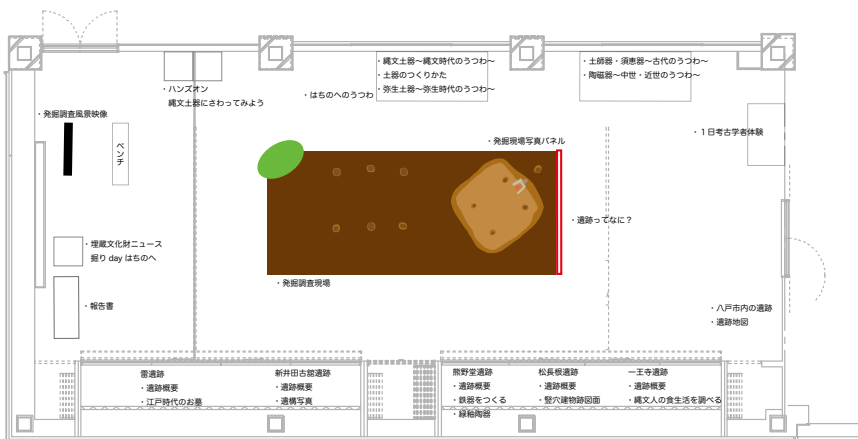
平成 30 年度は、春季企画展「掘り day はちのへ～平成 29 年度発掘資料展～」、特別展「海をわたる縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～」、秋季企画展「どうぶつと縄文人」のほか、冬季にパネル展「伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真 vol.4-」を開催した。

また、平成 30 年度の企画展・特別展は、ポスター及びリーフレットのデザイン製作を業者へ委託する試みを行った。今回の委託業者は、フリーペーパー『縄文 ZINE』を発行している株式会社ニルソンデザイン事務所である。

(1) 春季企画展「掘り day はちのへ～平成 29 年度発掘資料展～」

開催期間	4月28日(土)～6月24日(日) 53日間
観覧者数	4,354人(82人/日)
展示資料数	210点
印刷物	ポスター(B2版)500枚 リーフレット(A4版)45,000枚 解説リーフレット(A3版)5,000枚 用語解説・展示品一覧(A3版)5,000枚、招待券670枚
主な展示品	縄文土器(一王寺遺跡)、弥生土器(松長根遺跡)、緑釉陶器(熊野堂遺跡)、 陶磁器(新井田古館遺跡)、須恵器(田面木遺跡)、骨角製品(一王寺遺跡)
併催行事	一日考古学者体験 4/28 午前10時～・午後2時～ ギャラリートーク 5/12、6/9 各日とも午前10時半

平成 29 年度に八戸市内で行われた、主要な発掘調査の成果及び出土品を紹介した。会期中には、調査を担当した学芸員によるギャラリートークのほか、「一日考古学者体験～いろいろな時代の器を調べよう～」を開催した。



展示構成



春季企画展リーフレット



展示状況



ギャラリートーク

(2) 特別展「海をわたる縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～」

開催期間 7月21日(土)～9月2日(日) 43日間(休館日を除く)

観覧者数 5,440人(126人/日)

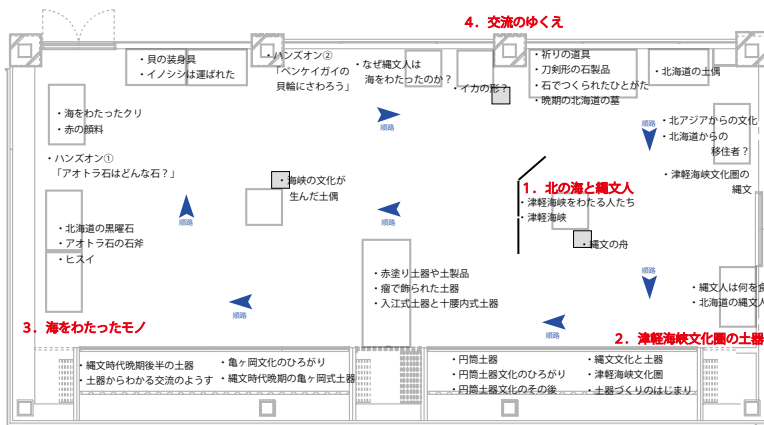
展示資料数 215点

印刷物 ポスター(B2版)500枚 リーフレット(A4版)50,000枚

解説リーフレット(A3版)5,000枚 招待券2,000枚 図録(A4カラー88ページ)500部
 主な展示品 縄文土器(北海道中野A遺跡・中野B遺跡・サイベ沢遺跡・キウス4遺跡・聖山遺跡・札苺遺跡、青森県亀ヶ岡遺跡・二枚橋(2)遺跡)、石器(青森県水木沢遺跡・一王寺遺跡・田向冷水遺跡)、土偶(北海道鳥崎・N30遺跡・キウス4遺跡・サイベ沢遺跡)、舟形土製品(北海道戸井貝塚、青森県水木沢遺跡)、イカ形土製品(北海道鷺ノ木4遺跡)、骨角器(北海道入江貝塚・戸井貝塚、青森県田小屋野貝塚)、クリ炭化種実(北海道鶴岡2遺跡)、刀剣形石製品(北海道札苺遺跡、青森県二枚橋(2)遺跡)、ヒスイ玉(北海道美々4遺跡・入江貝塚)

併催行事 企画展ギャラリートーク 7/21,28, 8/4,11,18,25, 9/ 1 午後2時～(8/25は午前10時～)
 特別展考古学講座 8/25 午後2時～

この展示では、津軽海峡をはさんで向かい合う北海道南部と東北北部の遺跡から出土した、地域間の交流を示す資料を中心に取り上げ、海の道によって育まれた文化や、海を介した縄文人の活動について紹介した。会期中は毎週土曜日にギャラリートークを開催したほか、展示の内容について、デーリー東北紙上にて連載記事を執筆した。



展示構成



特別展リーフレット



展示状況



ギャラリートーク

(3) 秋季企画展「どうぶつと縄文人」

開催期間 10月6日(土)～11月25日(日) 45日間

観覧者数 4,009名(89人/日)

展示資料数 243点

印刷物 ポスター(B2版)500枚 リーフレット(A4版)50,000枚

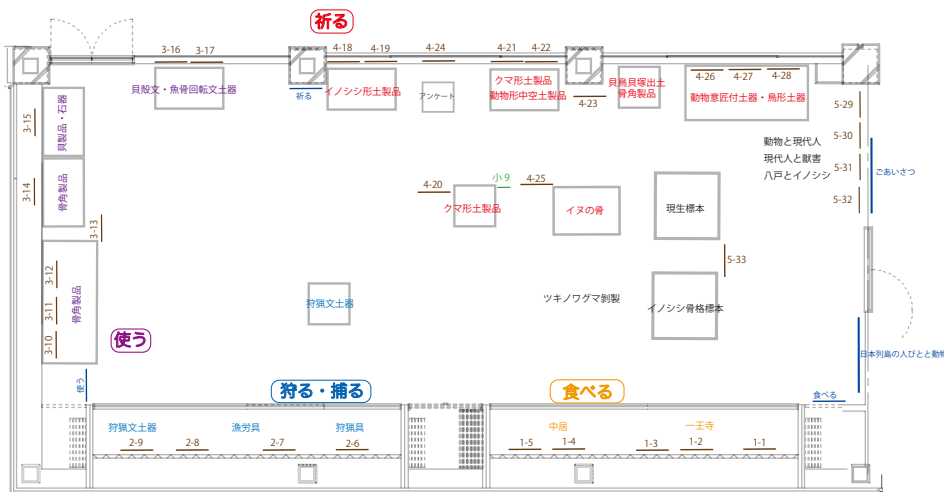
解説リーフレット(A3版)5,000枚 秋季企画展図録(A4版50ページ)500部

主な展示品 動物意匠付土器(青森県三内丸山(6)遺跡・二ツ石遺跡)、狩猟文土器(岩手県馬立II遺跡・青森県川原平(6)遺跡・稲山遺跡)、石器(岩手県金附遺跡・和野I遺跡・青森県東道ノ上(3)遺跡・滝端遺跡・風張I遺跡・中居遺跡)、骨角製品(岩手県貝島貝塚・青森県長七谷地貝塚・二ツ森貝塚・東道ノ上(3)遺跡・一王寺遺跡)、貝製品(青森県東道ノ上(3)遺跡・二ツ森貝塚)、動物形土製品(岩手県手代森遺跡・本宮熊堂B遺跡・草ヶ沢遺跡・青森県尾上山遺跡・葦窪遺跡)、動物形石製品(岩手県手代森遺跡)、動物遺存体(青森県一王寺遺跡・中居遺跡)

併催行事 企画展ギャラリートーク 10/6,13,20,27,11/3,10,17,24

企画展考古学講座 10/27 午後2時～

「食べる」、「狩る・捕る」、「使う」、「祈る」の4つの視点から、動物と縄文人とのかかわりを考えることをテーマとした展示。遺跡からみつかった動物遺存体や、狩猟具・漁労具、動物を表した土製品などを展示し、当時の人々が動物をどのようにとらえ、利用したのかについて紹介した。また、縄文人にとって動物はどのような存在であったのかについても触れた。



展示構成



秋季企画展リーフレット



展示状況

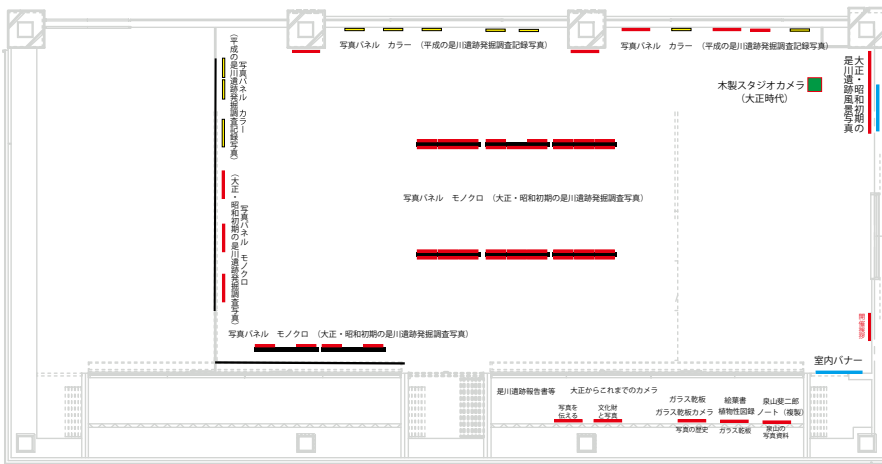


クマ形土製品(尾上山遺跡出土)

(4) パネル展「伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真 vol.4-」

- 開催期間 平成30年12月15日(土)～平成31年3月21日(木) 75日間
- 観覧者数 2,254名(30人/日)
- 展示資料数 78点
- 印刷物 ブックレット(A5版32ページ)300部
- 主な展示品 写真パネル(原版:大正・昭和初期のガラス乾板、平成の中判・35mmフィルム)、
泉山斐次郎氏の調査ノート(大正・昭和初期)、絵葉書(昭和5年発行)、
ガラス乾板、大正時代から現代までのカメラ(組立暗箱、ボックスカメラ、ハンドカメラ、ロール
フィルムカメラ、35mmフィルムカメラなど)、フィルム・写真保管包材(シートファイル)など
- 併催行事 特別講演会 12/15 午後2時～

平成26年度より実施している写真パネル展の最終回。大正・昭和初期の是川遺跡を記録したガラス乾板写真(泉山コレクション)を高精度デジタル化によって製作した写真パネルのほか、当時の調査ノートや絵葉書により、およそ100年前の発掘調査を回顧した。そして大正・昭和・平成に使われた各時代のカメラの展示により、その技術の移り変わりと、写真記録を保存する意義と重要性を紹介した。



展示構成



パネル展ポスター



写真パネル展示状況



大正・昭和初期の木製スタジオカメラと是川遺跡風景

III 教育普及等

開催年度	特別展・企画展	名 称	開催期間	日数	入館者数	人 / 日	資料数
平成 23 年	開館記念企画展	八戸の埋蔵文化財	7/10～9/25	77	19,245	275	222
平成 23 年	開館記念特別展	縄文至宝展	10/15～11/13	27	7,509	278	358
平成 24 年	春季企画展	掘り day はちのへ～平成 23 年度発掘資料展～	4/28～6/24	53	6,632	125	56
平成 24 年	特別展	発掘された日本列島 2012 新発見考古速報	8/8～9/17	38	7,723	203	600
平成 24 年	秋季企画展	縄文のストーンサークル	10/13～11/25	39	3,037	77	169
平成 25 年	春季企画展	掘り day はちのへ～平成 24 年度発掘資料展～	4/27～6/23	52	4,135	79	120
平成 25 年	特別展	みみずく土偶と縄文人-関東の晩期安行文化-	7/20～9/2	41	4,577	111	203
平成 25 年	秋季企画展	縄文時代の津軽半島	10/12～11/24	38	2,884	74	235
平成 26 年	春季企画展	掘り day はちのへ～平成 25 年度発掘資料展～	4/26～6/22	52	3,630	69	138
平成 26 年	特別展	トーテムポールの人びと～漁労・狩猟採集民の暮らし～	8/1～9/15	42	5,364	128	115
平成 26 年	秋季企画展	海と火山と縄文人-是川縄文館・東京大学共同研究展示-	10/11～11/24	39	3,168	81	179
平成 27 年	春季企画展	掘り day はちのへ～平成 26 年度発掘資料展～	4/26～6/22	51	4,477	88	190
平成 27 年	特別展	漆と縄文人	7/25～9/6	39	5,753	148	162
平成 27 年	秋季企画展	小川原湖周辺の縄文文化	10/10～11/23	39	3,782	97	221
平成 27 年	パネル展	伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真-	12/19～3/21	74	2,775	38	24
平成 28 年	春季企画展	掘り day はちのへ～平成 27 年度発掘資料展～	4/29～6/26	52	4,532	88	190
平成 28 年	特別展	山の縄文世界-中部高地の縄文時代-	7/23～9/4	39	5,320	136	122
平成 28 年	秋季企画展	馬淵川流域の縄文時代	10/8～11/20	38	3,446	91	172
平成 28 年	パネル展	伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真 vol.2-	12/17～3/20	75	2,336	32	38
平成 29 年	春季企画展	掘り day はちのへ～平成 28 年度発掘資料展～	4/29～6/25	52	4,187	80	138
平成 29 年	特別展	発掘された日本列島 2017 新発見考古速報	8/5～9/18	42	7,600	180	497
平成 29 年	地域展	八戸の土偶	8/5～9/18	42	-	-	467
平成 29 年	秋季企画展	是川縄文ムラを観る・描く-人と風と草木のものがたり-	10/14～11/26	38	2,653	69	112
平成 29 年	パネル展	伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真 vol.3-	12/16～3/21	75	1,948	25	43
平成 30 年	春季企画展	掘り day はちのへ～平成 29 年度発掘資料展～	4/28～6/24	53	4,354	82	210
平成 30 年	特別展	海をわたる縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～	7/21～9/2	43	5,440	126	215
平成 30 年	秋季企画展	どうぶつと縄文人	10/6～11/25	45	4,009	89	243
平成 30 年	パネル展	伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真 vol.4-	12/15～3/21	75	2,254	30	78

過去 8 年間の特別展・企画展一覧

3. 教育普及の実績

春季企画展一日考古学者体験

実施	講師	参加者(人)
4/28(土)	午前・午後2回 小保内裕之・横山寛剛・田中美穂・芋坪祐樹(当館学芸員)	27
合計		27

企画展「掘り day はちのへ」ギャラリートーク(展示解説)

実施	講師	参加者(人)
5/12(土)	田中美穂(当館学芸員)	18
6/9(土)	横山寛剛(当館学芸員)	5
合計		23

考古学講座

実施	内容	講師	参加者(人)
5/12(土)	縄文文化の顕著で世界的な価値とは?	菊池徹夫氏(福島県文化財センター白河館まほろん 館長)	63
6/17(土)	世界遺産をめざす垣ノ島遺跡	福田裕二氏(函館市教育委員会 世界遺産登録推進室 主査)	71
	亀ヶ岡遺跡にみる縄文時代のお墓	羽石智治氏(つがる市教育委員会 社会教育文化課 文化財保護係長)	
7/14(土)	OUVはどこにある?~世界遺産をめぐる最近の動向~	鈴木地平氏(文化庁 記念物課 文化財調査官)	57
12/8(土)	岩木山を望むまつりの場	岩井浩介氏(弘前市教育委員会 文化財課 埋蔵文化財係長)	44
	貝塚からみる人々の暮らし	高部由夏氏(七戸町教育委員会 世界遺産対策室 主事)	
1/19(土)	土屋根住居のある風景	菅野紀子氏(一戸町教育委員会 世界遺産登録推進室 文化財主任)	59
	大湯環状列石 87年のあゆみ	赤坂朋美氏(鹿角市教育委員会 大湯ストーンサークル館 主任)	
2/2(土)	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群、世界遺産登録のあゆみ	大高広和氏(福岡県文化振興課 世界遺産室 主任技師)	54
合計			348

これかわ考古学クラブ

実施	内容	講師	参加者(人)
5/26(土)	開講式	小久保拓也・市川健夫・上ノ山拓己(当館学芸員)	3
6/2(土)	是川の縄文を探検しよう	小久保拓也・上ノ山拓己(当館学芸員)	5
8/4(土)	遺跡を見る・測る	小久保拓也・上ノ山拓己(当館学芸員)	6
10/6(土)	遺跡を見る・測る	小久保拓也・上ノ山拓己(当館学芸員)	4
12/22(土)	遺物を復元する・使ってみる	小久保拓也・上ノ山拓己(当館学芸員)	3
2/9(土)	修了式	小久保拓也・上ノ山拓己(当館学芸員)	3
合計			24

特別展ギャラリートーク

実施	講師	参加者(人)
7/21(土)	上ノ山拓己(当館学芸員)	13
7/28(土)	上ノ山拓己(当館学芸員)	14
8/4(土)	上ノ山拓己(当館学芸員)	12
8/11(土)	市川健夫(当館学芸員)	5
8/18(土)	市川健夫(当館学芸員)	10
8/25(土)	上ノ山拓己(当館学芸員)	10
9/1(土)	上ノ山拓己(当館学芸員)	20
合計		84

発掘調査現地説明会

実施	内容	講師	参加者(人)
8/11(土)	新田城跡	田中美穂(当館学芸員)・ 小笠原善範(当館臨時職員)	32
合 計			32

特別展考古学講座

実施	内 容	講 師	参加者(人)
8/25(土)	北からみる縄文～くらしと交流～	長沼孝氏((公財)北海道埋蔵文化財 センター 常務理事兼第1調査部長)	82
合 計			82

縄文の布を編む講座

実施	内 容	講 師	参加者(人)
9/1(土)	解説「縄文の布について」	上ノ山拓己(当館学芸員)	12
	実習「縄文の布を編む」	縄文是川ボランティア	
合 計			12

縄文土器作り講座

実施	内 容	講 師	参加者(人)
10/13(土)	素地土作り	上ノ山拓己(当館学芸員)・縄文是川ボランティア	6
10/20(土)	縄文土器作り(成形作業)	上ノ山拓己(当館学芸員)・縄文是川ボランティア	11
11/24(土)	縄文土器野焼き	上ノ山拓己(当館学芸員)・縄文是川ボランティア	18
合 計			35

企画展ギャラリートーク(展示解説)

実施	講 師	参加者(人)
10/6(土)	佐藤ちひろ(当館学芸員)	5
10/13(土)	佐藤ちひろ(当館学芸員)	8
10/20(土)	上ノ山拓己(当館学芸員)	1
10/27(土)	上ノ山拓己(当館学芸員)	3
11/3(土)	佐藤ちひろ(当館学芸員)	2
11/10(土)	上ノ山拓己(当館学芸員)	1
11/17(土)	佐藤ちひろ(当館学芸員)	2
11/24(土)	市川健夫(当館学芸員)	16
合 計		38

企画展考古学講座

実施	内容	講師	参加者(人)
10/27(土)	動物と縄文人	樋泉岳二氏(明治大学黒耀石研究セン ター センター員)	59
合 計			59

遺跡調査報告会

実施	内 容	講 師	参加者(人)
11/10(土)	雷遺跡	横山寛剛(当館学芸員)	93
	櫛引遺跡	苧坪祐樹(当館学芸員)	
	新田城跡	田中美穂(当館学芸員)	
	三戸城跡	野田尚志氏(三戸町教育委員会)	
合 計			93

サポートスタッフ研修会 (5～6月)

実施	内 容	講 師	参加者(人)
5/19(土)	オリエンテーション	佐藤ちひろ(当館学芸員)	14
5/26(土)	是川遺跡と風張1遺跡について	市川健夫(当館学芸員)	26
6/2(土)	是川縄文館常設展示解説	佐藤ちひろ(当館学芸員)	23
6/9(土)	是川遺跡・縄文学習館のガイドについて	佐藤ちひろ(当館学芸員)	20
6/23(土)	縄文土器づくり実習	佐藤ちひろ(当館学芸員)	13
6/29(土)	博物館研修	佐藤ちひろ(当館学芸員)	18
合 計			114

サポートスタッフ研修会 (1～2月)

実施	内 容	講 師	参加者(人)
1/12(土)	オリエンテーション	上ノ山拓己(当館学芸員)	15
1/26(土)	滑石の勾玉づくり・火起こし	上ノ山拓己(当館学芸員)	9
2/9(土)	考古資料でたどる八戸の歴史	工藤竹久氏(青森県文化財保護審議会 委員)	19
2/16(土)	AED講習	八戸消防署 救急隊	12
2/22(金)	博物館研修(岩手県平泉町・一関市)	上ノ山拓己(当館学芸員)	12
2/23(土)	丹後平古墳群出土品について	船場昌子氏(八戸市博物館主査兼学芸員)	19
合 計			86

日曜日縄文体験コーナー 体験学習指導：縄文是川ボランティア

実施	内 容	参加者(人)
夏季前期：4/8(日)～7/15(日)	火起こし・縄文土器作り・縄文土偶作り・土製耳飾り作り・ 滑石勾玉作り・文様拓本・縄文の布を編む	258
夏季後期：8/26(日)～10/28(日)		134
冬 季：11/4(日)～3/31(日)		211
合 計		603

夏休み縄文体験コーナー 体験学習指導：縄文是川ボランティア

実施	内 容	参加者(人)
7/21(土)～ 8/12(日)	火起こし・縄文土器作り・縄文土偶作り・土製耳飾り作り・滑石勾玉作り・ 文様拓本・縄文の布を編む	246
合 計		246

これかわ縄文まつり体験コーナー 体験学習指導：縄文是川ボランティア

実施	内 容	参加者(人)
8/19(日)	火起こし・縄文土器作り・縄文土偶作り・土製ペンダント作り・縄文の布を編む	387
合 計		387

土曜体験教室

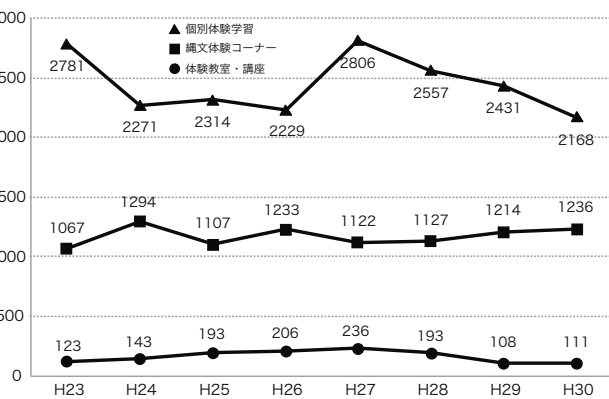
実施	内 容	講 師	参加者(人)
5/ 5(土)	滑石でペンダント作り	佐藤ちひろ(当館学芸員)・ 縄文是川ボランティア	8
7/ 7(土)	合掌土偶作り	佐藤ちひろ(当館学芸員)・ 縄文是川ボランティア	11
9/15(土)	シカの角でペンダント作り	上ノ山拓己(当館学芸員)・ 縄文是川ボランティア	12
11/17(土)	ドングリで縄文 cooking(於:分館)	上ノ山拓己(当館学芸員)・縄文是川 ボランティア	12
1/26(土)	縄文土器の拓本作り	上ノ山拓己(当館学芸員)・縄文是川 ボランティア	6
3/ 9(土)	縄文土偶作り	佐藤ちひろ(当館学芸員)・ 縄文是川ボランティア	15
合 計			64

学芸員による講話

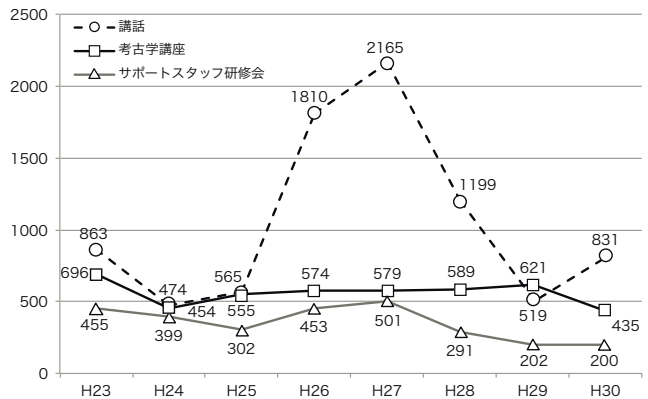
実施	内 容	団体・場所	参加者(人)
5/16(水)	講話「一王寺遺跡について」	下長公民館是川遺跡講座(於:下長公 民館)	10
6/27(水)	講話「是川遺跡からみた縄文時代のくらしと文化」	くろいし市民大学(於:黒石市産業会 館)	70
7/ 6(金)	講話「八戸の歴史と縄文文化」	八戸市総合教育センター(於:是川縄 文館)	34
9/ 7(金)	講話「縄文について」	八戸市鷗盟大学(於:是川縄文館)	71
9/27(水)	講話「中振軽石と円筒土器文化」	パミス会(於:是川縄文館)	20
9/30(土)	映画『縄文にハマる人々』上映後トークイベント	(於:フォーラム八戸)	80
10/12(金)	講話「是川縄文館について」	一葉会(於:八戸グランドホテル)	50
10/13(土)	講話「是川遺跡と北海道・北東北の縄文遺跡群」	平成30年度日本伝熱学会東北支部秋 季伝熱セミナー(於:八戸シーガルビ ューホテル)	37
10/14(日)	講話「縄文の漆工芸」	森のめぐみ展 in はっち vol.8(於:八 戸ポータルミュージアムはっち)	50
11/11(日)	講話「北東北縄文中期の土器」	「繫遺跡-繫遺跡出土深鉢形土器国重要 文化財指定30周年-」特別講演(於: 盛岡市遺跡の学び館)	39
11/25(日)	講話「時を越える縄文」	はっち市2018「ちっちゃな街のまな び舎」(於:八戸ポータルミュージア ムはっち)	40
12/ 1(土)	面接授業「是川遺跡からわかる縄文文化」	放送大学青森学習センター八戸SS(於: 是川縄文館)	31
12/ 2(日)	面接授業「是川遺跡からわかる縄文文化」	放送大学青森学習センター八戸SS(於: 是川縄文館)	31
12/ 8(土)	講話「遺跡が語る縄文人のくらしと文化」	平成30年度「北海道・北東北の縄文 遺跡群」世界遺産登録推進フォーラム (於:岩手教育会館)	220
12/16(日)	講話「古代エミシ社会の南北交流—古墳文化と縄文文化の接点」	平成30年度埋蔵文化財講座(於:滝 沢市埋蔵文化財センター)	70
12/19(水)	講話「持続可能な地域社会の実現に向けて—縄文ゆたかな暮らしと文化に学ぶ—」	八戸工業大学地域学第13回授業(於: 八戸工業大学)	131
合 計			914

ボランティアによる体験学習の指導 ※参加者数は、各団体来館者のうち実際の体験参加者数を記載する

月日	体験内容	団体名	参加者	月日	体験内容	団体名	参加者
4/20	合掌土偶作り	中居林小学校6年	64	9/6	板状土偶作り	是川小学校2年	23
4/27	滑石の勾玉作り	階上町立赤保内小学校6年	32	9/11	土製耳飾作り	是川小学校1年	30
5/1	土製耳飾作り	旭ヶ丘小学校6年	69	9/14	土器の拓本作り	古代史探訪会	8
5/2	滑石の勾玉作り	白銀南小学校6年	79	9/28	滑石の勾玉作り	洋野町立中野小学校4年	20
5/8	琥珀の勾玉作り	根岸公民館 (於:根岸公民館)	8	10/4	縄文土器作り	大久喜小学校6年	6
5/17	縄文土器作り	下長公民館 (於:下長公民館)	11	10/5	琥珀の勾玉作り	鶴盟大学34期 とんとの会	10
5/30	縄文土器作り	城下小学校6年	39	10/6	滑石の勾玉作り	八食わくわくフェスタ2018 (於:八食センター)	67
6/1	火起こし	田子町立上郷小学校3・4・5・6年	16	10/7	滑石の勾玉作り	八食わくわくフェスタ2018 (於:八食センター)	81
6/5	縄文土器作り	湊小学校6年	43	〃	縄文の布を編む	八食わくわくフェスタ2018 (於:八食センター)	1
6/8	縄文土器作り	おいらせ町立百石小学校6年	42	10/8	滑石の勾玉作り	八食わくわくフェスタ2018 (於:八食センター)	80
〃	縄文の布を編む	伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ	13	〃	縄文の布を編む	八食わくわくフェスタ2018 (於:八食センター)	2
6/15	滑石の勾玉作り	新郷村立戸来小学校6年	9	10/10	滑石の勾玉作り	青森県立八戸高等学校	30
6/19	縄文土器作り	南部町立剣吉小学校6年	17	10/13	滑石の勾玉作り	下長公民館 (於:下長公民館)	17
6/28	縄文土器作り	八戸第二養護学校6年	9	10/26	テラコッタ野焼き	是川中学校	95
7/1	滑石の勾玉作り	あおり JOMON フェスタ (於:イオンモール下田)	97	11/1	火起こし	桔梗野小学校5年	6
7/2	縄文土器作り	日計ヶ丘小学校6年	13	11/6	縄文土器作り	根城小学校6年	86
7/3	縄文土器作り	吹上小学校6年	109	11/9	滑石の勾玉作り	長者小学校6学年	66
7/6	合掌土偶作り	初任者研修	31	11/14	火起こし	吹上小学校5年	16
7/10	滑石の勾玉作り	田子町立田子小学校6年	36	11/15	滑石の勾玉作り	多賀台小学校6学年	20
7/12	滑石の勾玉作り	階上町立石鉢小学校6年	40	〃	縄文土器作り	青森県立青森響学校中学部2年	3
7/28	滑石の勾玉作り	東公民館 (於:東公民館)	10	11/16	火起こし	株式会社メダリオンエンタープライズ	6
8/1	板状土偶作り	根岸公民館 (於:根岸公民館)	11	11/20	滑石の勾玉作り	階上町立小舟渡小学校	9
〃	滑石の勾玉作り	はちのへ Local 旅	2	〃	滑石の勾玉作り	柏崎小学校6学年	103
8/6	縄文の布を編む	体験学習	2	〃	滑石の勾玉作り	八戸響学校6年	1
8/7	滑石の勾玉作り	は川児童館	12	11/22	火起こし	西園小学校6年	6
8/8	縄文土器作り	体験学習	2	〃	縄文土器作り	八戸第一養護学校高等部	8
8/9	縄文土器作り	青森県老人クラブ連合会	33	12/1	縄文土器作り	放送大学青森学習センター八戸SS	27
8/17	合掌土偶作り	体験学習	2	12/2	縄文の布を編む	はちのへ縄文フェス (於:マニワ)	45
8/18	縄文土器作り	八戸市博物館 (実習生)	4	〃	火起こし	はちのへ縄文フェス (於:マニワ)	72
〃	板状土偶作り	八戸市博物館 (実習生)	2	12/4	滑石の勾玉作り	白鷺小学校	41
〃	土製耳飾作り	八戸市博物館 (実習生)	3	12/7	滑石の勾玉作り	明治小学校5年	57
8/21	滑石の勾玉作り	体験学習	2	2/17	火起こし	かがり火えんぶり点火式 (於:市庁前広場)	3
8/27	縄文土器作り	是川小学校5年	35	2/23	滑石の勾玉作り	きくよしスクール	19
8/28	滑石の勾玉作り	体験学習	7	3/13	縄文土器作り	体験学習	1
8/29	縄文土器作り	是川小学校4年	29	3/16	火起こし	きくよしスクール	10
〃	火起こし	体験学習	1	3/19	土製耳飾作り	ソラーズ小学校1年	44
8/31	合掌土偶作り	是川小学校6年	47	3/28	土製ペンダント作り	ソラーズ小学校1年	47
9/4	縄文土器作り	是川小学校3年	21		合計		2,168



過去8年間の体験学習の利用者推移
※平成23年度は7月からスタート



過去8年間の講演会等の利用者推移
※平成23年度は開館記念講演会等を含む
※サポートスタッフ研修会は平成28年度から開催回数減となっている。

4. 八戸圏域広域的体験学習支援事業（はっふる隊）

平成27年度から八戸市教育委員会を中心に開始した連携事業。

「発見！ふるさと体験隊」（はっふる隊）という名称のもと、八戸圏域連携中枢都市圏（八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村・おいらせ町）の小学校に年1回、貸切バスを無償で活用してもらえようにし、圏域内の文化・スポーツ施設での学外研修を支援する取り組みである。当館においても市内小学校を含め、圏域内の小学校から体験学習・展示見学で多く活用されるようになった。

平成30年度は、八戸市内9校547人、市外8校203人、計750人の児童の体験学習指導、展示解説に対応した。昨年度と比較すると、市外の小学校の利用数が伸びている。引率者を含めた利用者総数は796人である。これは、利用された圏域内の施設の中では3番目に多い利用であり、全体（7,347人）の10.8%を占める。

月 日	学校名	内 容	人数(人)
4月27日	階上町立赤保内小学校6年生	体験・見学	32
5月1日	八戸市立旭ヶ丘小学校6年生	体験・見学	69
5月15日	八戸市立江陽小学校6年生	見学	32
5月30日	八戸市立城下小学校6年生	体験・見学	39
6月1日	田子町立上郷小学校3～6年生	体験・見学	16
6月8日	おいらせ町立百石小学校6年生	体験・見学	42
6月15日	新郷村立戸来小学校6年生	体験・見学	7
6月19日	南部町立剣吉小学校6年生	体験・見学	16
7月2日	八戸市立日計ヶ丘小学校4・6年生	体験・見学	17
7月3日	八戸市立吹上小学校6年生	体験	110
7月10日	田子町立田子小学校6年生	体験・見学	35
7月12日	階上町立石鉢小学校6年生	体験・見学	40
11月6日	八戸市立根城小学校6年生	体験・見学	88
11月9日	八戸市立長者小学校6年生	体験・見学	65
11月15日	八戸市立多賀台小学校6年生	体験・見学	20
11月20日	階上町立小舟渡小学校3～6年生	体験・見学	15
11月20日	八戸市立柏崎小学校6年生	体験・見学	107
計 17校 750人			

平成30年度はっふる隊実績

5. 地域連携

○是川縄文隊との連携

是川縄文隊は、是川地域の宝である是川遺跡の保存や活用に寄与するとともに、是川縄文館を核とした「是川縄文の里」の地域振興を図ることを目的とし、是川地区の中居町内会の有志により平成24年度に設立された。活動等はVII-4 是川縄文隊に記載している。

これまで、是川縄文館のPRのほか、地域振興の一環として、来館者へ周辺ガイドマップを配布したほか、是川産直野菜を販売するなど地域のPR活動を行っており、是川遺跡の情報発信や、来館される方がたへのおもてなしの充実が図られている。

○さわやか八戸グッジョブウィークとの連携

八戸市教育委員会を中心とした市内公立中学校の2年生を対象に実施している職場体験事業。是川縄文館では、中学生からの要望があった際にできる限り応じ、学芸員としての業務の体験を実施している。

平成30年度は2校4名の中学生の要望を受け入れ、学芸業務の基本となる出土品整理や出土品・図書データベースの構築支援、体験学習の準備を実施した。

○放送大学との連携

放送大学が教育課程にもとづき、学習センター・サテライトスペースが所在する地域の大学等の機関と連携し、実地での面接授業を行う事業。

放送大学青森学習センター・八戸サテライトスペースとの連携により、是川遺跡及び是川縄文館を活用した2日間計8回にわたる面接授業を開講した。講義には是川遺跡に関心をもつ受講生27人が全国から集まり、好評であった。



放送大学面接授業

内容 科目名「是川遺跡からわかる縄文文化」（全8回）

- 第1回「考古学研究の歴史と方法」・第2回「是川遺跡見学」・第3回「是川遺跡の研究史とその成果」
- 第4回「縄文土器作り実習」・第5回「縄文時代の漆利用」・第6回「是川遺跡出土品からみた縄文工芸」
- 第7回「東北地方における縄文時代晩期の文化と社会」
- 第8回「世界遺産登録と「北海道・北東北の縄文遺跡群」の価値」

日時 12月1日(土)・2日(日)

会場 是川縄文館 2F 企画展示室

講師 小久保 拓也・市川 健夫 (当館学芸員)

○高校との連携

・ファッション甲子園 2018 作品制作協力

千葉学園高等学校生徒による縄文をデザインしたファッション制作。学芸員が縄文時代のファッションや文化について助言協力を行った。作品「悠久の時を重ねて - 漆塗り -」は、全国 130 校 3,136 点の応募の中から選ばれた 35 チームが参加した「第 18 回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会最終審査会」において、審査員特別賞を受賞した。

是川縄文館では受賞を記念し、前回大会作品とともに展示公開を行った。



ファッション甲子園受賞作品

○大学との連携

・縄文プロジェクト

八戸工業大学感性デザイン学部による縄文文様のデザインから縄文文化に対する関心を高めてもらうプロジェクト。

これかわ縄文まつりにおいて、「合掌土偶になろう！ワークショップ」やオリジナルグッズ販売を行った。オリジナルグッズは館内で販売中。



縄文プロジェクト

○小学校との連携

・こども縄文シンポジウム

北秋田市縄文子どもシンポジウム（秋田県北秋田市教育委員会主催）で、世界遺産登録を目指す北海道・青森県・岩手県・秋田県の小・学生が、自分の町の遺跡や、縄文文化に関することを発表するシンポジウム。青森県代表の八戸市立根岸小学校 5 年生の発表「JOMON FAN? Yes, JOMON is Fun!」の支援を行った。



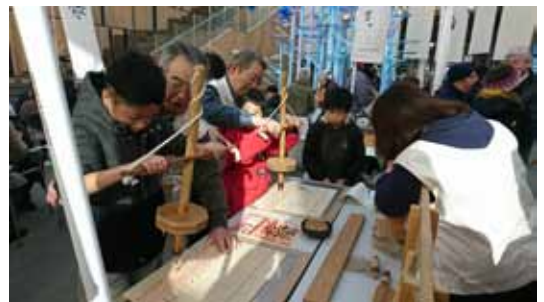
こども縄文シンポジウム

○はちのへ縄文フェス

平成 30 年度に市民によって発足した「八戸縄文遊人会」による世界遺産登録を応援するイベント。

開催にあたり、当館で準備協力を行うとともに、八戸縄文保存協会と縄文是川ボランティアとで連携してオリジナルグッズ販売や縄文体験、世界遺産パネル展などを行った。縄文ファッションショーや縄文顔コンテンツなどのステージイベントや、縄文ペインティングなどのワークショップなど多彩なコンテンツによって盛況を博した。

縄文の魅力をわかりやすく伝える市民活動ならではのイベントはこれまでにはない新たな取り組みとなった。



はちのへ縄文フェス

6. 世界遺産登録へ向けた取り組み

○世界遺産登録へ向けた活動

八戸市は、北海道・青森県・岩手県・秋田県の4道県14市町による共同推進体制の一員として、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指している。当市の構成資産は、史跡是川石器時代遺跡である。

直近の機会での推薦・登録を目指し、縄文遺跡群世界遺産登録推進会議・専門家委員会・担当者会議などでの推薦書案の検討・協議をはじめ、構成資産の包括的保存管理体制の検討を行っている。

世界遺産登録実現には、市民の理解が不可欠であるため、縄文遺跡群の内容を紹介したパネル展開催や、縄文遺跡群世界遺産登録推進フォーラム・あおもりJOMON フェスタへの協力、ロゴマークの積極的な活用などを行い、PRに努めている。

平成30年度は、加えて世界遺産登録推進の取り組みを紹介する考古学講座を6回開催するとともに(→p11)、特別展では津軽海峡周辺の縄文時代を紹介する「海をわたる縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～」を開催し、「北海道・北東北の縄文遺跡群」に関連付けることで、登録実現に向けたさらなる気運醸成を図った(→p7)。また、文化審議会世界文化遺産部会において、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が文化遺産として次期国内推薦候補に選定され、市民と祝うための懸垂幕や看板、のぼりを作成して八戸市庁や市内文化施設に設置した。

○縄文遺跡群パネル展

開催期間 ①5月12日(土)～8月18日(土) ②8月19日(日)～10月5日(木)

③10月6日(土)～10月8日(月) ④12月2日(日) ⑤12月8日(土)～

開催場所 ①・⑤是川縄文館 ②是川縄文館分館(縄文学習館) ③八食わくわくフェスタ(八食センター)
④はちのへ縄文フェス(マチニワ)

概要 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の概要説明、構成資産位置図、各構成資産の概要についてのA1版パネルを掲示した。③・④は体験学習とともに、縄文文化の普及活動として取り組んだ。



考古学講座チラシ



考古学講座(第1回講師 菊池 徹夫 先生)



あおもり JOMON フェスタでの勾玉づくり体験

7. 調査研究

(1) 共同研究

【第3期共同研究】

是川縄文館では、調査研究を主たる事業として掲げ、大学等の研究機関との共同研究事業を推進している。共同研究により蓄積された質の高い成果を、館事業で公開活用することを目的としている。

第1・2期共同研究では、縄文時代における環境と人の関わりについて研究を進め、その成果を通して、環境変動に適応してきた縄文人による、文化の形成や変遷の解明が課題として認識された。八戸地域は、先史時代から物流などの拠点であり、さまざまな物資・情報が集まる地域である。ほかの地域の文化要素がいまって豊かな文化を育んできたことが想定される。

この課題に取り組む上で、近年、土器の胎土に含まれる火山ガラスの分析・研究が注目されている。この研究を主導する弘前大学大学院と協議を行い、平成30年度から共同研究を推進することとした。

平成30年度は縄文時代草創期から中期の土器を中心に、火山ガラスのサンプル採取と分析を推進した。その成果の一部を予察として研究紀要第8号に掲載した。

○共同研究テーマ 『火山ガラスからみた八戸地域における土器の変遷と地域間交流の解明』

火山列島である我が国から出土する縄文土器には、火山ガラスが豊富に含まれている。火山ガラスは、噴出源の火山によって化学組成が異なっており、同じ火山でも噴火時期によって産状に違いがみられる。

こうした特徴を活かして分析することで、土器の製作地域を特定することが可能となり、土器の搬入や搬出、模倣製作などの実態を明らかにすることができる。また、火山の噴出時期の年代がこれまでの研究によって蓄積されていることから、火山ガラスの違いによって土器の移り変わりを明らかにすることができる。

本共同研究では、こうした分析から土器の移り変わりと、他地域からの文化要素の抽出の精緻化を進め、八戸地域における先史時代文化の形成・変遷の解明を試みる。

○研究期間 2018年4月～2019年3月（2018年～2021年度の4ヵ年計画の1年目）

○研究体制 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 弘前大学大学院人文社会科学研究科（関根 達人 教授） 弘前大学大学院理工学研究科（柴 正敏 客員研究員・近藤 美左紀 氏）

○研究活動等

- ・火山ガラス分析用試料の検討及び抽出
- ・八戸市内の遺跡から出土した土器（縄文時代草創期～中期及び古代）67点の火山ガラス観察及びサンプル採取
- ・火山ガラス分析

○研究成果

- ・八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館研究紀要 第8号
「胎土中の火山ガラス分析から見た十和田テフラと早期中葉の縄文土器編年（予察）」
（関根達人・近藤美左紀・柴正敏）

○関連活動（第1・2期共同研究成果）

- ・季刊考古学 第145号 「植生史から生態史へ - 集落生態系の復原と描画 -」（辻 誠一郎）
- ・季刊考古学 第146号 「十和田中掘テフラ噴火と縄文人 - 八戸地域を中心に -」（市川 健夫）

(2) 学芸員の研究等業績：平成30年4月～平成31年3月

【論文等】

平成30年7月

上ノ山拓己・小久保拓也 『平成30年度特別展
図録 海をわたる縄文人～津軽海峡文化圏の縄
文～』 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

平成30年8月

小久保拓也 「縄文時代の漆」『JOMON Vol.7
北の縄文Ⅰ—漆—』特定非営利活動法人国際
縄文学協会

市川健夫 「縄文時代の漆利用」同上

平成30年9月

宇部則保 「書評「尾駱の駒・牧の背景を探る」」
株式会社デーリー東北新聞社

平成30年10月

佐藤ちひろ 『平成30年度秋季企画展図録 どう
ぶつと縄文人』 八戸市埋蔵文化財センター是川
縄文館

平成30年11月

横山寛剛 「雷遺跡」『八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館 平成30年度遺跡査報告会』

苧坪祐樹 「櫛引遺跡」同上

田中美穂 「新田城跡」同上

平成30年12月

苧坪祐樹 「櫛引遺跡」『平成30年度青森県埋蔵
文化財発掘調査報告会』青森県埋蔵文化財調査
センター

市川健夫 「縄文文化の特徴と縄文文様」『平成30
年度生活工房企画 展示「眞田岳彦ディレクシ
ョン 祝いの衣服 赤をめぐる旅展 vol.3～文様
を尋ねて」』公益財団法人せたがや文化財団

平成31年2月

市川健夫 「十和田中振テフラと縄文人—八戸地域
を中心に—」『季刊考古学』146 雄山閣

宇部則保 「古代都母の地域様相」『北奥羽の古代
社会』高志書院

平成31年3月

中井泉・新井沙季・小保内裕之 「田向遺跡出土の
ガラス玉の化学組成分析」『八戸市埋蔵文化財セ
ンター是川縄文館研究紀要』8 八戸市埋蔵文化
財センター是川縄文館

【学会発表等】

平成30年5月

市川健夫 「一王寺遺跡について」『下長公民館是
川遺跡講座』

平成30年6月

横山寛剛 「一王寺貝塚出土の円筒下層式土器につ

いて」『青森県考古学会2018年度総会・研究発
表会』

平成30年7月

小保内裕之 「八戸周辺の古墳時代」『北辺域にお
ける古墳時代前～中期の変革』岩手県考古学会
第50回研究大会

平成30年11月

小保内裕之 「北東北縄文中期の土器」『盛岡市遺
跡の学び館 第16回企画展「繫遺跡—繫遺跡出
土深鉢形土器国重要文化財指定30周年—」
特別講演会』

横山寛剛 「雷遺跡」『八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館 平成30年度遺跡査報告会』

苧坪祐樹 「櫛引遺跡」同上

田中美穂 「新田城跡」同上

平成30年12月

市川健夫 「考古学研究の歴史と方法」・「縄文土
器作り実習」・「東北地方における縄文時代晩
期の文化と社会」『平成30年第2学期放送大
学面接授業 是川遺跡からわかる縄文文化』

小久保拓也 「是川遺跡の研究史とその成果」・「縄
文時代の漆利用」・「世界遺産登録と「北海道・
北東北の縄文遺跡群の価値」」 同上

市川健夫・小久保拓也 「是川遺跡見学」・「是川遺
跡出土品からみた縄文工芸」 同上

苧坪祐樹 「櫛引遺跡」『平成30年度青森県埋蔵
文化財発掘調査報告会』

宇部則保 「古代エミシ社会の南北交流—古墳文化
と続縄文文化の接点」『平成30年度岩手県滝
沢市埋蔵文化財講座』

【教育】

平成30年10月～平成31年3月

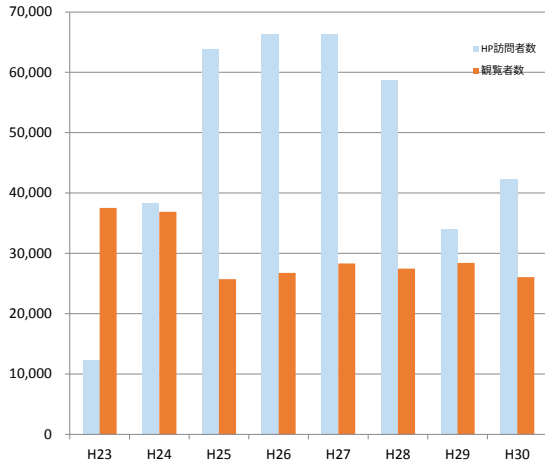
小久保拓也・市川健夫 放送大学 非常勤講師（面
接授業担当）

8. 広報・情報発信

館事業の広報及び情報発信事業を下記のとおり行った。

①ホームページ

インターネットを利用した広報・情報発信としてホームページを開設している。各職員によるコンテンツの更新が簡便にできるよう、CMS（コンテンツマネジメントシステム）を使用し、管理を外部委託している。ホームページ訪問者数は前年より増加し、1日あたりの平均訪問者数は115.5人（平成30年4月～平成31年3月まで）であった。

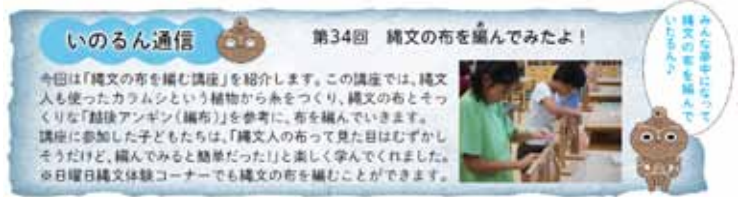


月	HP訪問者数	観覧者数	更新回数	平均(日)	英語版HP
4	2,844	1,567	4	94.8	85
5	3,044	2,997	4	98.2	67
6	2,757	1,964	3	91.9	70
7	4,564	2,387	7	147.2	86
8	5,914	5,031	4	190.8	126
9	3,550	2,367	2	118.3	85
10	6,063	2,335	1	195.6	105
11	3,522	2,771	10	117.4	68
12	2,547	903	3	82.2	96
1	2,553	890	3	82.4	87
2	2,386	1,565	5	85.2	141
3	2,557	1,309	2	82.5	218
計	42,301	26,086	48	115.5	1,234

ホームページ訪問者数と更新回数

②広報はちのへ「いのるん通信」

是川縄文館の体験学習や発掘調査などの活動について、参加者にインタビューし、内容を紹介します。市広報誌「広報はちのへ」において隔月連載（5・7・9・11・1・3月号）。97,800部発行



いのるん通信（第34回）

③広告掲載

特別展及び秋季企画展開催を周知するため、地元新聞等に広告を掲載した。

- ・特別展開催案内広告「海をわたる縄文人 ～津軽海峡文化圏の縄文～」

デーリー東北新聞社（7/20,31朝刊）、生活情報誌 chouchou（8/7発行）東奥日報社（7/13,31朝刊）、岩手日報社・秋田魁新報社（7/13朝刊）、情報羅針盤コンパス（7/5発行）、縄文 ZINE 第8号（6/20発行）

- ・企画展開催案内広告「どうぶつと縄文人」

デーリー東北新聞社（10/5,12朝刊）、北海道新聞道南版（10/12朝刊）、東奥日報社・岩手日報社・秋田魁新報社（9/28朝刊）、情報羅針盤コンパス（9/13発行）、縄文 ZINE 第8号（6/20発行）

④新聞記事

企画展・特別展をテーマとした連載記事を職員などが作成し、開催期間に合わせデーリー東北新聞社に掲載した。

春季企画展 5/24,31, 6/ 7の3回

特別展 8/ 9,16,22の3回

秋季企画展 10/21,26,11/ 4,11,18,21,25
の7回



企画展連載記事（デーリー東北新聞）

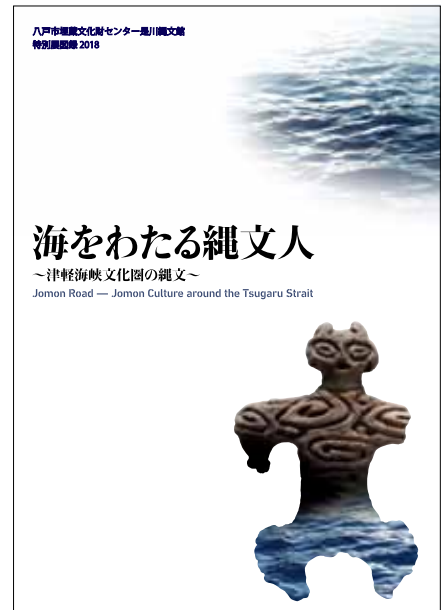
⑤ B e F M 「施設ガイド」

地元コミュニティラジオの施設ガイドで、是川縄文館のイベント情報について紹介した（2ヶ月に1度）。

⑥ 図録等刊行

研究紀要のほか、特別展・企画展について下記の図録を刊行した。図録については館内ミュージアムショップで頒布している。

- ・「掘り day はちのへ - 八戸市埋蔵文化財ニュース -」 21号
A4版カラー 8ページ
- ・特別展図録「海をわたる縄文人 ～津軽海峡文化圏の縄文～」
A4版カラー 88ページ
- ・企画展図録「どうぶつと縄文人」
A4版カラー 47ページ
- ・パネル展「伝える - 大正・昭和初期の是川遺跡記録写真 -」
A5版カラー 34ページ
- ・「研究紀要」第8号
A4版モノクロ 24ページ



特別展図録
「海をわたる縄文人」

9. ミュージアムショップ・喫茶コーナー「これカフェ」

① ミュージアムショップ

国宝「合掌土偶」をデザインしたグッズ、アクセサリー、お菓子のほか、縄文時代をテーマとしたグッズ等を多数販売している。また、一般書店では販売していない当館の常設展示図録や特別展等の図録なども販売している。是川が柿の里であることから、昨年度に引き続き冬季限定で干し柿の販売を行った。

【商品一例】ポストカード、マグカップ、キーホルダー、ストラップ、Tシャツ、当館キャラクター「いのるん」グッズ、土偶及び土器などのレプリカ、お菓子（クッキー、人形焼、せんべいなど）、当館刊行物、考古学関連書籍など。



ミュージアムショップ

② 喫茶コーナー

古代米を使用した「縄文カレー」や縄文時代に食されていたと考えられるドングリを使用した「縄文らーめん」のほか、クルミをふりかけた「縄文ソフトクリーム」等を提供している。また、平成30年度は、期間限定で柿を使った新メニュー「柿ピラフ」を提供した。「これカフェ」の運営は、八戸縄文保存協会が行っている。



柿ピラフ

IV 埋蔵文化財調査等

1. 発掘調査事業概要

八戸市には、489か所の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡）が存在する。遺跡内で開発行為を行う場合、文化財保護法93条（国又は地方公共団体等が開発主体の場合、同94条）が適用され、事前に八戸市教育委員会社会教育課と協議のうえ、工事着手の60日前までに遺跡内の工事に係る届出（通知）書の提出が必要となる。受理された届出により、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館では、まず遺跡の現状を把握し、必要に応じて試掘調査を行う。試掘調査の結果、開発行為により遺跡が破壊されると判断した場合、本発掘調査により遺跡を記録保存するなどの保護処置をとっている。

また、開発行為が行われる対象地が遺跡の範囲外であっても、遺跡に隣接する場合または掘削が広範囲に及ぶ場合は文化財保護法99条に基づき、遺跡の範囲確認のための試掘調査（範囲確認調査）を行うことがある。調査の結果、開発対象地で遺構・遺物が発見された場合、遺跡の範囲変更または新規の遺跡登録を行っている。

ただし、開発行為による掘削範囲が狭小であり、地下への影響が軽微であると判断される場合、事前の試掘調査を行わず、工事立会で対応する場合がある。

八戸市内には長七谷地貝塚・是川石器時代遺跡・丹後平古墳群・根城跡の4か所の国指定史跡がある。開発行為がこれら指定地内で行われる場合、事前に八戸市教育委員会社会教育課と協議のうえ、現状変更等許可申請書の提出が必要となる。申請を受け、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館では、開発行為による史跡指定地の地下遺構への影響を判断するため、遺構の有無や遺構検出面までの堆積状況を把握するための確認調査を行っている。なお、史跡指定地内においては軽微な開発行為であっても、現状変更等許可申請書の提出が必要となる。

(1) 平成30年度の発掘調査

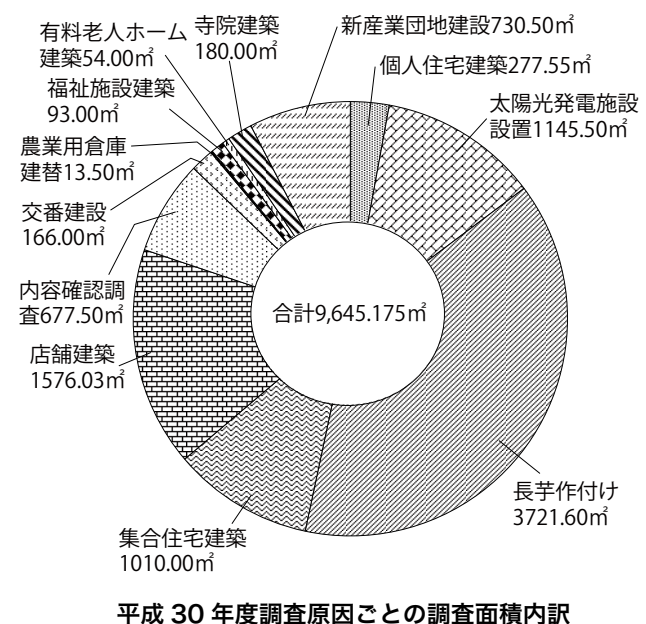
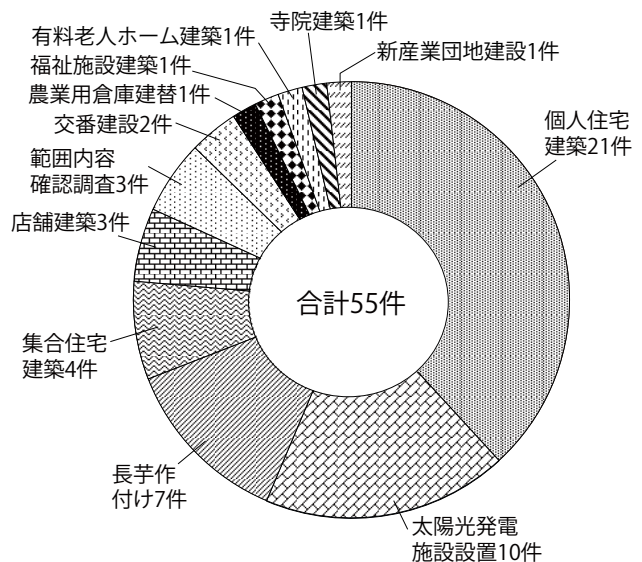
平成30年度は、27か所の遺跡で計55件の発掘調査を実施した。調査種類の内訳は試掘調査47件、本発掘調査7件（試掘後の本調査を含む）、重要遺跡の内容確認調査1件、である。

調査原因の種類別では、個人住宅建築21件、太陽光発電設備設置10件、長芋作付け7件、集合

住宅建築4件、店舗建築3件、範囲内容確認調査3件、交番建築2件、その他農業用倉庫建替・福祉施設建築・有料老人ホーム建築・寺院建築・新産業団地建設が各1件である。

発掘調査の件数は、個人住宅建築に伴うものが最も多く、全体の38%を占める。太陽光発電設備設置がそれに次ぎ18%で、個人住宅建築と合わせると全件数の約6割に及ぶ。この傾向は、28・29年度と同様である。

調査面積では長芋作付けに伴うものが最も多く、集合住宅建築がこれに次ぐ。この傾向も29年度と同様である。



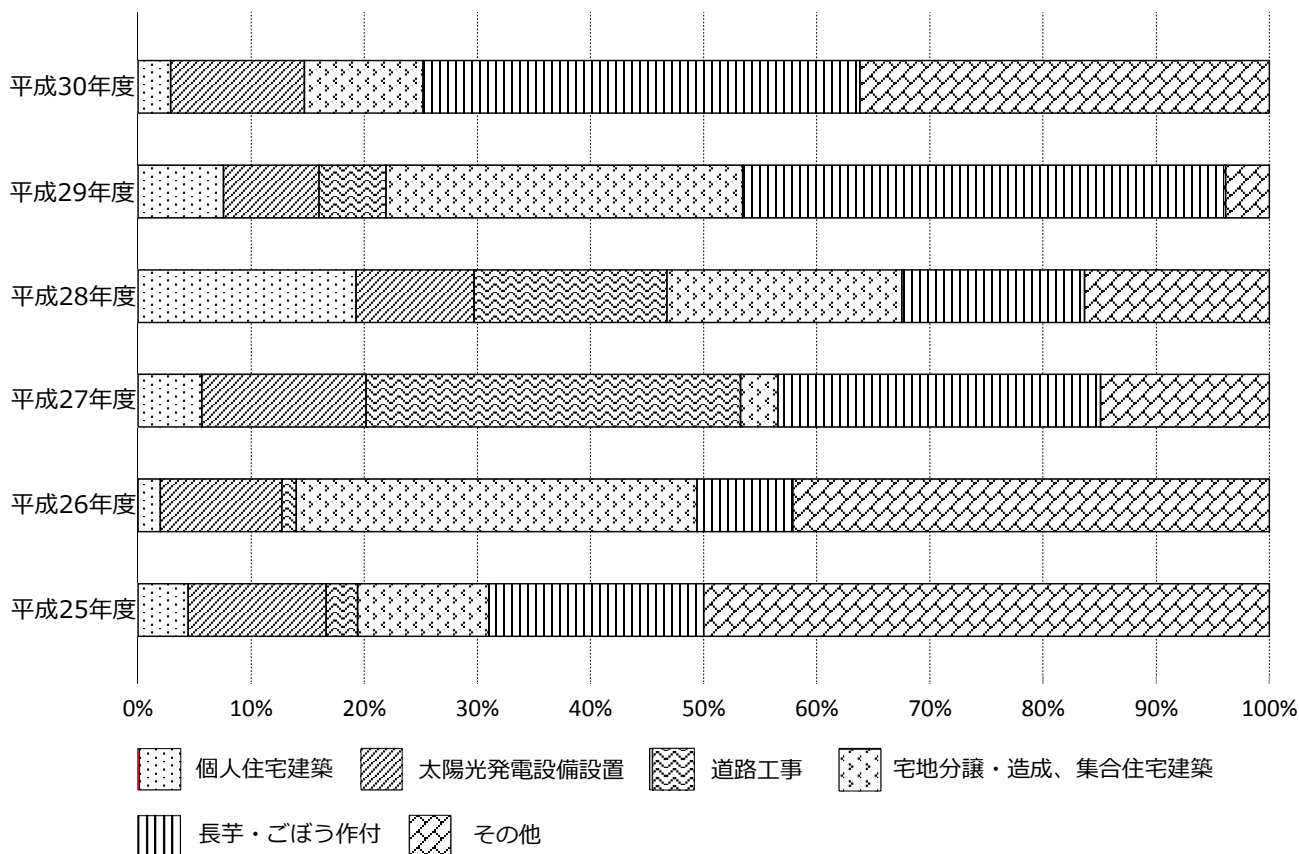
(2) 過年度との比較

平成 30 年度の調査件数および調査面積は、平成 28・29 年度より大幅な増加となった。その原因は、太陽光発電設備設置と長芋作付けに伴う調査件数が増えたことによるものとみられる。特に長芋作付けに伴い試掘調査を実施した松ヶ崎遺跡 (p26-No.18) と石橋遺跡 (p26-No.34) からは多数の遺構・遺物が検出されており、次年度以降の調査成果が期待される。

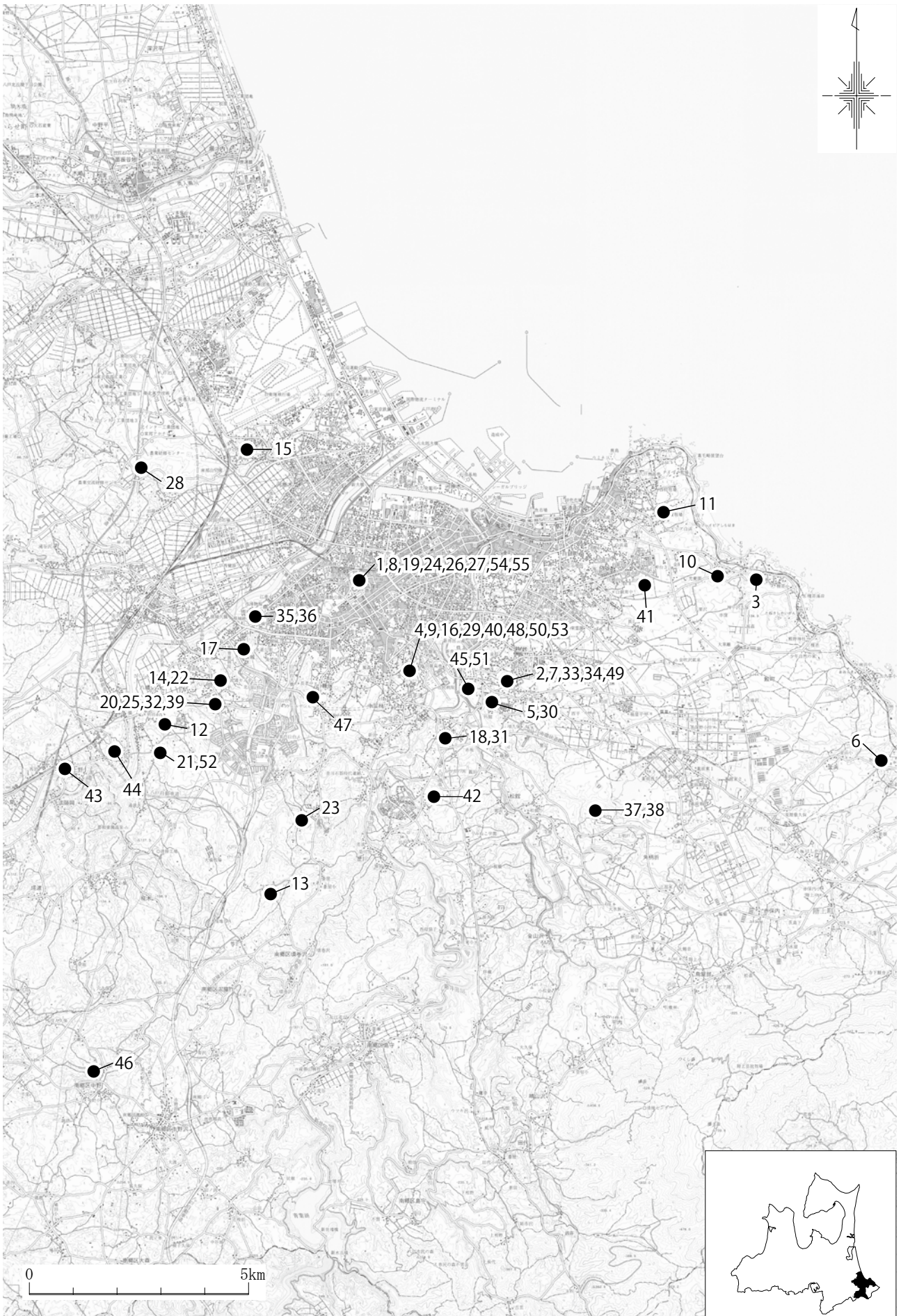
平成 28 年度から 29 年度にかけて雷遺跡の調査件数が 4 件から 7 件に急増し、平成 30 年度も 8 件 (全体の 15%) と前年度並に件数が多かった。そのほか調査件数が多い遺跡は、八戸城跡が 8 件 (15%)、石橋遺跡が 5 件 (9%)、酒美平遺跡が 4 件 (7%) となっており、調査が特定の遺跡に集中する傾向がみられた。

調査原因	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)	件数	面積 (㎡)
個人住宅建築	26	1,304.92	15	294.75	21	624.58	27	953.50	21	391.9	21	277.55
太陽光発電設備設置	3	3,604.00	8	1,610.50	9	1,616.45	10	517.64	3	438.00	10	1,145.50
道路工事	4	822.00	5	192.30	4	3,679.00	4	842.30	1	307.60	0	0
宅地分譲・造成、集合住宅建築	4	3,431.50	8	5,308.50	2	366.76	5	1,028.50	2	1,636.00	4	1,010.00
長芋・ごぼう作付	0	5,599.65	2	1,270.00	2	3,170.00	1	800.00	2	2,215.00	7	3,721.60
その他	17	14,762.07	10	6,315.20	9	1,660.50	12	808.60	9	200.75	13	3,490.525
合計	54	29,524.14	48	14,991.25	47	11,117.29	59	4,950.54	38	5,189.25	55	9,645.175

平成 25 ～ 30 年度の調査原因件数と調査面積の内訳



平成 25 ～ 30 年度の調査原因ごとの調査面積の推移



IV 埋蔵文化財調査等

平成 30 年度八戸市内発掘調査位置図 (S : 12 万分の 1)

No	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	種別/主な時代
1	八戸城跡	試掘調査	店舗建設	平成 30 年 4 月 9 日	3.00	城館跡/近世
2	石橋遺跡第 10 地点	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 4 月 9・10 日	32.50	集落跡/平安
3	舟渡ノ上遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 4 月 10～18 日	63.00	散布地/縄文
4	雷遺跡第 4 地点	試掘調査	集合住宅建築	平成 30 年 4 月 11・12 日	130.50	散布地/縄文・平安
5	市子林遺跡第 23 地点	試掘調査	長芋作付け	平成 30 年 4 月 13～19 日	809.00	集落跡/縄文・古墳～近世
6	前川目遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 4 月 19 日	27.70	散布地/縄文
7	石橋遺跡第 11 地点	試掘調査	長芋作付け	平成 30 年 4 月 20・23 日	126.5	集落跡/平安
8	八戸城跡	試掘調査	集合住宅建築	平成 30 年 4 月 24～27 日	79.50	城館跡/近世
9	雷遺跡第 7 地点	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 4 月 27～5 月 1 日	39.00	集落跡/奈良・平安
10	浜道通遺跡	試掘調査	農業用倉庫建替	平成 30 年 5 月 8 日	13.50	散布地/縄文
11	古馬屋遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 5 月 28～31 日	90.00	散布地/縄文
12	殿見遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 6 月 5 日	2.50	散布地・古墳/縄文・奈良・平安
13	土橋遺跡隣接地	試掘調査	範囲確認調査	平成 30 年 6 月 5 日	25.50	散布地/縄文
14	田面木遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 6 月 6 日	1.25	集落跡/縄文・弥生・奈良・平安
15	高館遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 6 月 13 日	1.00	散布地/縄文・平安
16	雷遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 6 月 14 日	3.20	散布地/縄文・平安
17	松長根遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 6 月 19 日	15.00	散布地/縄文
18	松ヶ崎遺跡第 11 地点	試掘調査	長芋作付け	平成 30 年 6 月 14 日～7 月 4 日	409.60	集落跡/縄文
19	八戸城跡第 40 地点	試掘調査	店舗建設	平成 30 年 6 月 21～28 日	79.03	城館跡/近世
20	酒美平遺跡①	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 7 月 9～11 日	48.50	集落跡/縄文・飛鳥・奈良・平安
21	櫛引遺跡第 9 地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 8 月 7～9 日, 9 月 18 日～10 月 5 日	555.00	集落跡・城館跡/縄文・奈良～近世
22	田面木遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 8 月 9 日	7.00	集落跡/縄文・弥生・奈良・平安
23	天狗沢遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 8 月 21 日	24.00	散布地/縄文・平安
24	八戸城跡第 41 地点	試掘調査	交番建設	平成 30 年 8 月 17～28 日	36.00	城館跡/近世
25	酒美平遺跡第 19 地点	試掘調査	福祉設備建築	平成 30 年 8 月 23・24 日	93.00	集落跡/縄文・飛鳥・奈良・平安
26	八戸城跡③	試掘調査	個人住宅増築	平成 30 年 9 月 20 日	1.40	城館跡/近世
27	八戸城跡④	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 9 月 25 日	12.00	城館跡/近世
28	笹ノ沢(2)遺跡第 1 地点	試掘調査	新産業団地建設	平成 30 年 9 月 5 日～10 月 31 日	730.50	集落跡/縄文
29	雷遺跡②	試掘調査	長芋作付け	平成 30 年 10 月 9～15 日	394.00	散布地/縄文・平安
30	市子林遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 10 月 15 日	3.50	集落跡/縄文・古墳～近世
31	松ヶ崎遺跡隣接地	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 10 月 16 日	12.00	集落跡/縄文
32	酒美平遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 10 月 17 日	19.00	集落跡/縄文・飛鳥・奈良・平安
33	石橋遺跡	試掘調査	有料老人ホーム建築	平成 30 年 10 月 22・23 日	54.00	集落跡/平安
34	石橋遺跡第 12 地点	試掘調査	長芋作付け	平成 30 年 10 月 22～31 日	582.50	集落跡/平安
35	根城跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 11 月 2 日	13.00	城館跡/中世
36	根城跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 11 月 2 日	12.00	城館跡/中世
37	石ノ鉢遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 11 月 14 日	30.00	散布地/縄文・弥生・奈良
38	石ノ鉢遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 11 月 14 日	48.00	散布地/縄文・弥生・奈良
39	酒美平遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 11 月 19 日	1.00	集落跡/縄文・飛鳥・奈良・平安
40	雷遺跡隣接地	試掘調査	範囲確認調査	平成 30 年 11 月 20 日	22.00	散布地/縄文・平安
41	野馬小屋遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 11 月 26・27 日	160.00	散布地/縄文・弥生
42	上ノ沢遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 30 年 12 月 4 日	9.00	散布地/縄文・奈良・平安
43	沢ノ上遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	平成 30 年 12 月 18 日	108.00	集落跡/弥生・奈良・平安
44	烏館場遺跡	試掘調査	個人住宅建築	平成 31 年 1 月 18 日	15.00	散布地/縄文
45	館平遺跡第 31 地点	試掘調査	個人住宅建築	平成 31 年 1 月 30 日	34.50	集落跡・城館跡/縄文・平安・中世
46	中野(2)遺跡第 1 地点	試掘調査	個人住宅建築	平成 31 年 3 月 6 日	15.00	散布地/平安
47	沢里山遺跡	試掘調査	集合住宅建築	平成 31 年 3 月 15～20 日	150.00	散布地/縄文・奈良・平安
48	雷遺跡第 6 地点	本調査	個人住宅建築	平成 30 年 4 月 3～5 日	20.00	集落跡/平安
49	石橋遺跡第 11 地点	本調査	長芋作付け	平成 30 年 5 月 9 日～6 月 5 日	400.00	集落跡・墓/平安・近世
50	雷遺跡第 5 地点	本調査	長芋作付け	平成 30 年 5 月 23 日～6 月 16 日	1,000.00	集落跡/飛鳥・奈良・近世
51	館平遺跡(新田城跡)第 30 地点	確認調査	内容確認調査	平成 30 年 7 月 23 日～8 月 29 日	630.00	城館跡/中世
52	櫛引遺跡第 6 地点	本調査	寺院建築	平成 30 年 4 月 3～27 日	180.00	集落跡・城館跡/縄文・奈良～近世
53	雷遺跡第 4 地点	本調査	集合住宅建築	平成 30 年 7 月 6 日～8 月 3 日	650.00	集落跡/縄文・飛鳥・奈良
54	八戸城跡第 41 地点	本調査	交番建築	平成 30 年 9 月 3 日～9 月 28 日	130.00	城館跡/近世
55	八戸城跡第 40 地点	本調査	店舗建築	平成 30 年 10 月 1 日～12 月 21 日	1,494.00	城館跡/近世

平成 30 年度八戸市内遺跡発掘調査一覧

2. 調査概要

(1) 主な試掘調査

①石橋遺跡第 10 地点 (p26-No.2)

調査地：八戸市大字新井田字妻ノ神 7-4

担当職員：村木 淳

検出遺構：竪穴建物跡 1 棟

出土遺物：土師器

調査概要：個人住宅建築に伴い試掘調査を行ったところ、性格不明のプランを検出した。確認のため精査した結果、平安時代の竪穴建物跡であることがわかった。



平安時代の竪穴建物跡完掘状況

②雷遺跡第 7 地点 (p26-No.9)

調査地：八戸市大字田向字檀ノ平 31-2

担当職員：苧坪 祐樹

検出遺構：竪穴建物跡 1 棟

出土遺物：土師器

調査概要：個人住宅建築に伴い試掘調査を行ったところ、古代とみられる竪穴建物跡を検出した。住宅の基礎が遺構検出面に達しないことを確認したため、遺構の精査は行わず、調査を終了した。



古代の竪穴建物跡検出状況

③松ヶ崎遺跡第 11 地点 (p26-No.18)

調査地：八戸市大字十日市字長根 13-1

担当職員：小笠原 善範

検出遺構：竪穴建物跡、土坑、溝状土坑、ピット

出土遺物：縄文土器、石器

調査概要：長芋作付けに伴う試掘調査において、縄文時代の竪穴建物跡などの遺構を検出した。本地点は平成 13 年度の試掘調査でも縄文時代の竪穴建物跡など多数の遺構が重複して検出されている。このため、長芋作付けに先立ち平成 31 年度から本発掘調査を実施することとなった。



試掘調査トレンチ全景

④櫛引遺跡第 9 地点 (p26-No.21)

調査地：八戸市櫛引字上町 33 番 1

担当職員：小笠原 善範・村木 淳

検出遺構：竪穴建物跡、土坑、溝跡、溝状土坑、井戸跡、ピット

出土遺物：土師器、須恵器、陶磁器、石器、鉄製品、銭貨

調査概要：太陽光発電設備設置に伴う試掘調査において、竪穴建物跡をはじめとする多数の遺構が検出された。これらの遺構は出土遺物から、主に平安時代と中・近世の遺構であることがわかった。



試掘調査トレンチ全景

⑤酒美平遺跡第 19 地点 (p26-No.25)

調査地：八戸市大字田面木字酒美平 16-16

担当職員：村木 淳

検出遺構：竪穴建物跡、溝跡

出土遺物：土師器

調査概要：福祉施設建築に伴う試掘調査において、古代の竪穴建物跡と時期不明の溝跡を検出した。工事主体者と協議した結果、福祉施設建築に先立ち、平成 31 年度に本発掘調査を実施することとなった。



竪穴建物跡検出状況

⑥笹ノ沢 (2) 遺跡第 1 地点 (p26-No.28)

調査地：八戸市大字尻内町字杉子沢地内

担当職員：村木 淳

検出遺構：竪穴建物跡、土坑、溝跡、溝状土坑、炭窯

出土遺物：縄文土器、石器

調査概要：新産業団地建設に伴い試掘調査を行った。今回の調査は地権者の了承を得られた範囲に限られており、次年度以降も本遺跡における試掘調査を継続する予定である。



土坑と溝状土坑検出状況

⑦石橋遺跡第 12 地点 (p26-No.34)

調査地：八戸市大字新井田字妻ノ神 37-1

担当職員：村木 淳

検出遺構：竪穴建物跡・土坑・溝状土坑

出土遺物：縄文土器、石器、土師器、須恵器、陶磁器

調査概要：長芋作付けに伴う試掘調査において、竪穴建物跡・土坑・溝状土坑など多数の遺構を検出した。縄文時代・平安時代・江戸時代といった各時期の遺物が出土しているが、特に平安時代の遺物が多く、検出した遺構の大部分は平安時代に帰属するものとみられる。長芋作付けに先立ち平成 31 年度から本発掘調査を実施することとなった。



古代の竪穴建物跡検出状況

⑧中野 (2) 遺跡第 1 地点 (p26-No.46)

調査地：八戸市南郷大字中野字下家前 53 番 1

担当職員：村木 淳

検出遺構：ピット多数

出土遺物：陶磁器

調査概要：個人住宅建築に伴う試掘調査において、建物の柱穴とみられる多数のピットを検出した。このため、住宅建築に先立ち平成 31 年度に本発掘調査を実施することとなった。



ピット群検出状況

(2) 本発掘調査

①雷遺跡第5地点 (p26-No.50)

調査地：八戸市大字田向字檀ノ平 27 番, 28 番 2

担当職員：村木 淳

検出遺構：竪穴建物跡 14 棟、柵列 2 条、掘立柱建物跡 22 棟、土坑墓 5 基、土坑 16 基、焼土遺構 3 基
溝跡 7 条、井戸跡 6 基、溝状土坑 18 基、性格不明遺構 2 基、ピット多数
(遺構数は平成 29・30 年調査の合計)

出土遺物：土師器、須恵器、陶磁器、土製品、石器、鉄製品、青銅製品、銭貨、木製品

調査概要：

ア．遺跡の概要

八戸市中居林及び田向地区に所在し、新井田川左岸の標高 15～30m の段丘上に立地する。本遺跡では平成 25 年度から個人住宅建築を中心に発掘調査件数が増加し、今年度には個人住宅に加えて長芋作付けや集合住宅建築に伴う面積の広い調査も行われ、近年大きな成果が蓄積されている遺跡のひとつである。

イ．調査に至る経緯

調査対象地は遺跡の東側に位置し、標高 18～22m の北西から南東に向かう緩斜面上に立地する。現状は畑地である。平成 29 年 5 月 17 日付けで文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく届出が八戸市教育委員会に提出され、同年 5 月 23 日から 6 月 16 日に試掘調査を行った。その結果、古代・近世の遺構・遺物が多数検出され、地権者との協議により、平成 29・30 年度の 2 か年で本調査を実施することとなった。平成 29 年 7 月 11 日から 9 月 12 日に調査区西側の 1,600㎡、平成 30 年 5 月 8 日から 6 月 27 日に調査区東側の 1,000㎡、計 2,600㎡の発掘調査を行った。

ウ．検出遺構

【縄文時代】 溝状土坑 18 基
【飛鳥～奈良時代】 竪穴建物跡 3 棟
【平安時代】 竪穴建物跡 3 棟
【中・近世】 柵列 2 条、掘立柱建物跡 22 棟、竪穴建物跡 4 棟、土坑墓 5 基、溝跡 3 条

エ．出土遺物

【飛鳥～奈良時代】 土師器杯・甕、土玉、足金具
【平安時代】 土師器甕、須恵器甕、皿状木製品
【中・近世】 陶磁器、砥石、刀子・和鋏・火打金・鉄釘・鉄製楔、和鏡・煙管・銭貨、木製櫛

オ．調査成果

【古代】

古代の竪穴建物跡が 10 棟検出された。古代の建物跡は SI19 を除き、標高 20m の等高線より北側に位置し、等高線に沿って東西方向に分布する傾向がみられる。SI5・17・18 は飛鳥から奈良時代、SI13～15 は平安時代に属するとみられる。

【中・近世】

柵列 2 条、掘立柱建物跡 22 棟、竪穴建物跡 4 棟、土坑墓 5 基が検出された。また、溝跡にも中・近世かそれ以降に属するものがある。

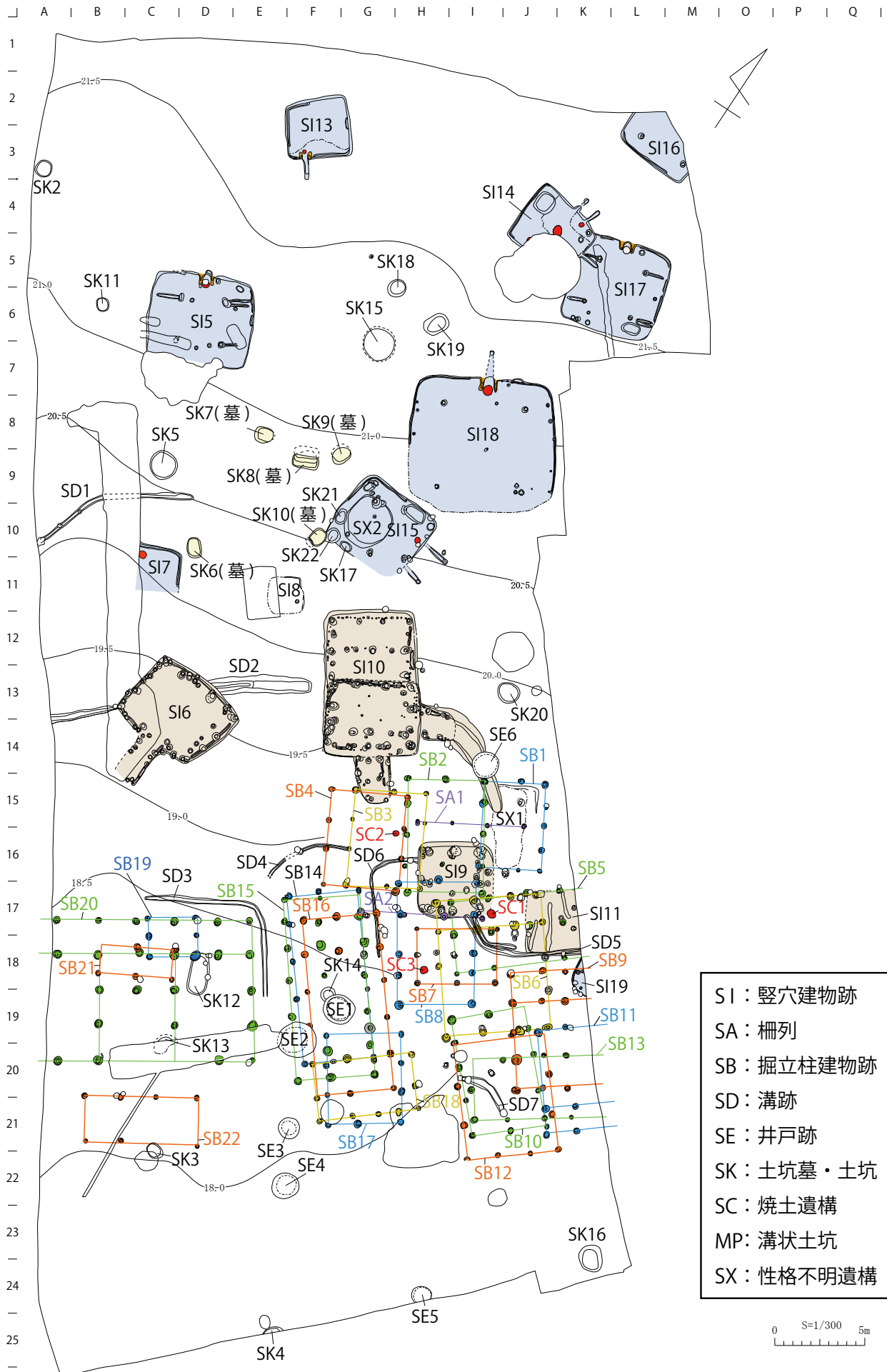
出土遺物の年代は 16～19 世紀までで、中心となるのは 17 世紀後葉から 18 世紀前葉である。

近世の遺構のうち土坑墓以外は、20m の等高線より南に分布する。このラインより南では、柱穴など深い遺構から湧水がみられ、斜面を下るほど湧水が著しくなる。つまり、本地点は非常に水捌けが悪く、本来居住には適さない立地と考えられる。しかし、竪穴建物には拡張や柱の入れ替え・建替えが認めれ、掘立柱建物はほぼ同じ場所に繰り返しつくられている。このような環境の中で、長期間に亘り同じ場所を利用し続けることから、何らかの社会的制約が存在していたことがうかがわれる。

一方、土坑墓は建物群よりやや離れた標高の高い位置につくられており、近代までみられた屋敷墓の一形態を留めている。



SI10 竪穴建物跡 (近世)



雷遺跡第5地点 遺構配置図

②石橋遺跡第11地点 (p26-No.49)

調査地：八戸市大字新井田字妻ノ神 38-1

担当職員：小笠原 善範

検出遺構：竪穴建物跡3棟、土坑墓15基、土坑2基

出土遺物：土師器、陶磁器、石製品、鉄製品、金属製品、銭貨

調査概要：

ア．遺跡の概要

八戸市庁から南東へ約4kmの八戸市新井田地区に所在し、新井田川右岸の標高47～72mの南から南西側にかけて傾斜する野場段丘上に立地する。

本遺跡における発掘調査は平成4年度(1992年)から断続的に行われ、これまでに平安時代の竪穴建物跡3棟、縄文時代及び時期不明の溝状土坑7基のほか、ピット2個が検出されている。古代の竪穴建物跡は南側に隣接する坂中遺跡からも複数棟検出されており、地形的立地から当該時期の遺構が広範囲に点在することが想定される。遺物は縄文時代・古代・近世のものが出土している。

イ．調査に至る経緯

調査対象地は遺跡範囲のほぼ中心に位置し、現況は畑地である。長芋作付けに伴い、平成30年4月19日付けで文化財保護法第93条第1項に基づく届出が八戸市教育委員会に提出された。これを受けて、平成28年5月16日～19日及び平成30年4月20日・23日に試掘調査を行ったところ、開発範囲の南西部分にのみ遺構が分布していることを確認した。

地権者と協議し、遺構が分布する南西部分については長芋作付けに先立って、本発掘調査を実施することで合意した。調査期間は、平成30年5月9日～31日、調査面積は約400㎡である。

ウ．検出遺構

【平安時代】 竪穴建物跡3棟

【近 世】 土坑墓15基

エ．出土遺物

【平安時代】 土師器甕・坏・高台付坏、砥石、鉄鏃・刀子

【近 世】 陶磁器、刀子・火打金・火鋏(?)・和鋏・鉄釘・鉄鎌、煙管・銭貨、漆器片(被膜)

オ．調査成果

【平安時代】

方形を基調とするカマドを有する竪穴建物跡が3棟検出された。出土遺物の特徴から、9世紀後半の平安時代のものと考えられる。

竪穴建物跡の検出地点は調査区の中で最も標高の高い場所に位置する。本地点の竪穴建物跡は地

形的にみて、平安時代の集落跡の北端部に位置するものと考えられる。

【近世】

人骨埋葬墓が15基検出された。これらの墓はすべて土坑タイプのもので、葬法はすべて土葬である。南北約20m・東西約5mの狭い範囲に密集して墓域を形成し、重複する遺構が多く、継続性のある墓地であることが推察される。

＜墓坑形態＞楕円形・円形・長方形等の平面形を呈する墓が存在した。そのなかで平面形が長方形、断面形が靴形を呈する掘り方で造営された形態が特徴的であり、全体の5割強を占めていた。

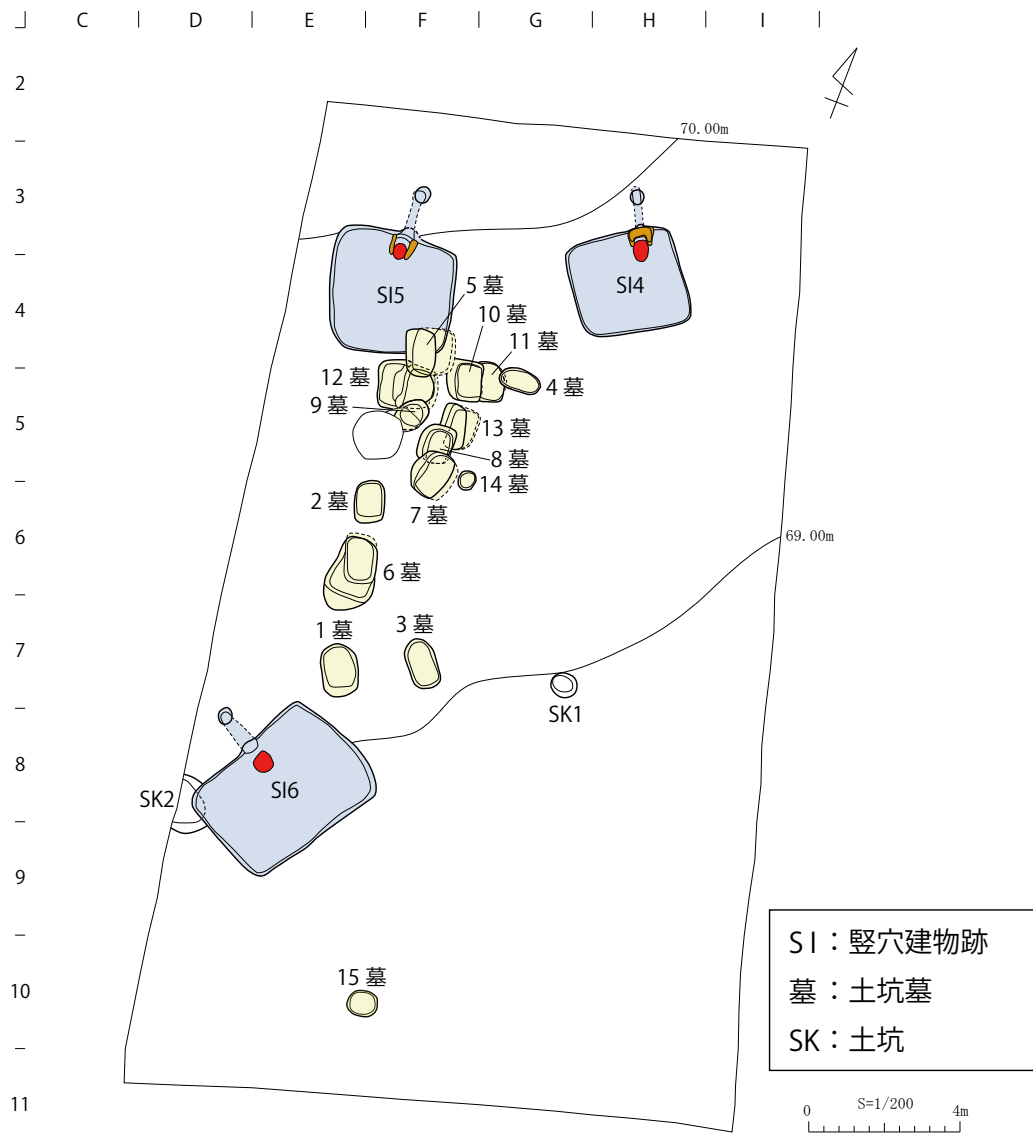
＜造営時期＞副葬品の銭貨・煙管等から、副葬品の無い4号墓を除き、17～19世紀後半の年代幅で収まるものと考えられる。銭貨別(寛永通寶：銅貨一新・古、鉄貨)でみると、銅貨(古)のみ2枚出土の15号墓が最古となるが、同形態の14号墓に比べ枚数・新・古共伴等の点から断定しがたい。むしろ銅貨(新)・文銭のみ9枚出土の6号墓が17世紀後半と特定でき、墓地内で最古と考えておきたい。それ以外の墓は銭貨・重複関係から平面形が楕円形の墓が17世紀末以降、平面形が長方形の墓は6号墓が17世紀後半、12号墓が17世紀末以降、それ以外が18世紀前半以降と考えられる。当該墓地は銅・鉄貨が共伴する18世代を中心に造営されたと推測される。

＜埋葬形態＞大半が単独葬である。

＜埋葬姿勢＞平面形が楕円形・長方形の場合、仰臥屈葬(1・5・7・8・10・11墓)と側臥屈葬(3・4・12・13墓)がみられ、数的には大差なく平面形態別による厳格な規制は認められない。頭位方向は4墓の西側を除き、概して北側(北～北西側)である。

＜副葬品＞銭貨(銅貨・鉄貨)、喫煙具(煙管・火打金)及び飲食具(漆器)を主体に、裁縫道具(和鋏・鉄針)、装身具(扇子)、刃物類(刀子・鎌)、食物(貝)、その他(不明鉄製品)と多様である。

副葬品の中では銭貨が最も多く、ほかに、多義的な意味合いのある副葬品として飲食具(漆椀)と刃物類(刀子・鎌)が挙げられる。



石橋遺跡第 11 地点 遺構配置図



SI6 完掘状況 (南東から)



3号土坑墓人骨検出状況 (東から)

③雷遺跡第4地点 (p26-No.53)

調査地：八戸市大字中居林字雷 11-1

担当職員：村木 淳

検出遺構：竪穴建物跡 5 棟、溝跡 2 条、溝状土坑 2 基

出土遺物：縄文土器、土師器、土製品、石器、鉄製品、銭貨

調査概要：

ア．遺跡の概要

雷遺跡第5地点 (p26-No.48、p30 ①) と同じ。

イ．調査に至る経緯

調査対象地は遺跡の西端に位置し、南東に向かって傾斜する標高 28～30m の緩斜面上に立地する。現状は畑地である。集合住宅建築に伴い、平成 28 年 7 月 8 日付けで文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく届出が八戸市教育委員会に提出された。これを受け、同年 7 月 13・14 日に試掘調査を実施し、竪穴建物跡・溝跡・溝状土坑などが検出された。

平成 28 年度に開発は行われず、平成 30 年に同地点で再度集合住宅建築の予定があることがわかり、同年 4 月 11・12 日に追加の試掘調査を実施した。これにより新たに竪穴建物跡を検出したため、地権者と協議を行ったところ、集合住宅建築に先立ち本発掘調査を実施することで合意した。調査期間は、平成 30 年 7 月 6 日から 8 月 3 日、調査面積は 650 m² である。

ウ．検出遺構

【縄文時代】溝状土坑 2 基

【飛鳥～奈良時代】竪穴建物跡 5 棟

【飛鳥～奈良時代以降】溝跡 2 条

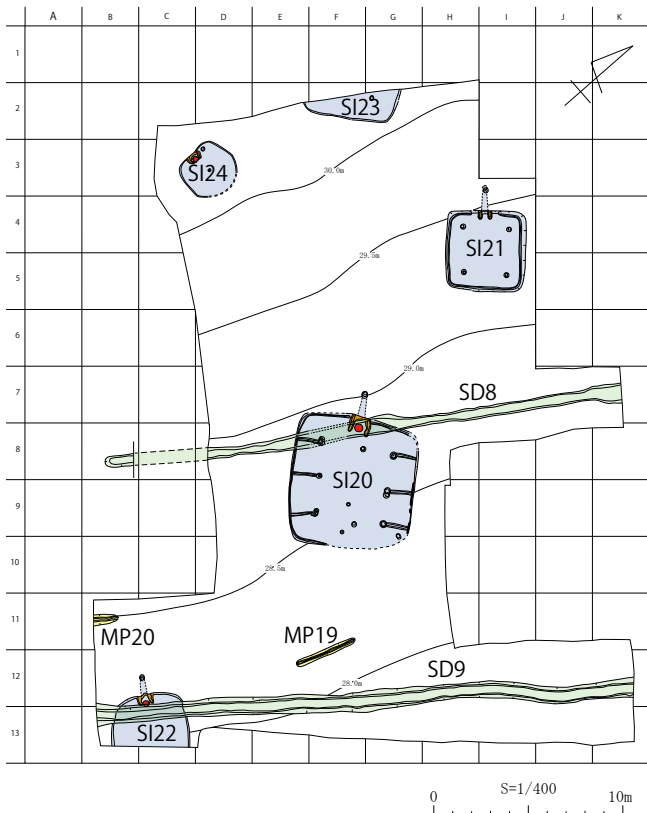
エ．出土遺物

【縄文時代】縄文土器

【飛鳥～奈良時代以降】土師器、土製品、石器、鉄製品

オ．調査成果

本地点は縄文時代には狩猟の場、飛鳥～奈良時代には集落が営まれていたことがわかった。集落の存続時期は、出土遺物の年代から、概ね 7 世紀後半から 8 世紀前葉とみられ、比較的短い年代幅のなかで営まれたのち、廃絶されたものと考えられる。



雷遺跡第4地点 遺構配置図



SI20 竪穴建物跡

SI：竪穴建物跡
SD：溝跡
MP：溝状土坑

④八戸城跡第 41 地点 (p26-No.54)

調査地：八戸市内丸一丁目 2-1

担当職員：宇部 則保・苧坪 祐樹

検出遺構：竪穴建物跡 2 棟、土坑 1 基、土器埋納遺構 1 基、ピット群

出土遺物：弥生土器、陶磁器、石器

調査概要：交番建築に伴い本発掘調査を実施した。弥生時代の竪穴建物跡 2 棟及び土器埋納遺構 1 基を検出し、全容は不明であるが本遺跡にまばらながらも弥生時代の集落が存在することが確認できた。次年度に発掘調査報告書を刊行予定である。



弥生土器出土状況
竪穴建物跡柱穴・土器埋納遺構出土

⑤八戸城跡第 40 地点 (p26-No.55)

調査地：八戸市堀端町 3-1,3-2,3-13

担当職員：宇部 則保・苧坪 祐樹

検出遺構：竪穴建物跡 2 棟、土坑 5 基、井戸跡 1 基、溝跡 1 条、溝条土坑 5 基、ピット群

出土遺物：土師器、陶磁器、石製品、鉄製品

調査概要：店舗建築に伴い本発掘調査を実施した。本地点は近世の武家屋敷にあたる場所に位置し、特に高い家禄をもつ武家の屋敷跡があったとされていた。しかし、今回の発掘調査では近世陶磁器の出土は一定量あったものの、後世の削平が大きいこともあり、確認できた遺構は多くなかった。次年度に発掘調査報告書を刊行予定である。



調査区全景

(3) 内容確認調査

①館平遺跡(新田城跡)第 30 地点 (p26-No.51)

調査地：八戸市大字新井田字館平 15

担当職員：小笠原 善範・田中 美穂

検出遺構：竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、井戸跡、溝跡、塀跡、鍛冶炉跡、土塁、ピット、溝状土坑
出土遺物：縄文土器、土師器、陶磁器、石器、土製品、石製品、鉄製品、青銅製品、銭貨

ア．遺跡の概要

館平遺跡(新田城跡)は、市の中心部から南東へ約 3.5km に所在し、新井田川とその支流である松館川が合流する地点の右岸、標高約 6～37m の高館段丘上に立地する。縄文時代早期から近世までの複合遺跡であり、縄文時代早期中葉の白浜式土器の標式遺跡である。また、根城南部氏の一族である新田氏の居城、新田城が築城された場所として知られている。

イ．調査に至る経緯

調査地点は遺跡中央からやや西側、標高約 36～37m の新田城跡本丸部分の平坦地である。地番は八戸市大字新井田字館平 15 で、現況は畑地である。新田城跡本丸部分の公園整備計画に伴い、新田城跡が埋蔵文化財包蔵地である館平遺跡に含まれ、根城南部氏に関連する重要遺跡であることから、公園化が対象の本丸部分を平成 30 年度より 3 か年の計画で内容確認調査を行う予定である。調査対象面積

約 15,300㎡を A・B・C 区の 3 区に分け、トレンチ方式により調査を行う。今年度は A 区について、平成 30 年 7 月 23 日～同年 8 月 29 日まで内容確認調査を行った。調査面積は約 630㎡である。

ウ．検出遺構

- 【縄文時代】 竪穴建物跡 2 棟、土坑 1 基、溝状土坑 2 基
- 【中世・近世】 塀跡、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑、鍛冶炉跡、土塁、柱穴等

エ．出土遺物

- 【縄文時代】 縄文土器、石器
- 【中世・近世】 陶磁器、鉄製品、青銅製品、銭貨

オ．調査成果

新田城跡本丸部分については、これまで本格的な調査が行われておらず、城内の様子はよくわかっていなかった。調査の結果、縄文時代及び中世から近世にかけての遺構・遺物が多数検出された。中世から近世とみられる遺構は、塀跡・掘立柱建物跡・井戸跡・鍛冶炉跡など、城館期に伴うとみられるものが検出されている。調査は検出にとどまるが、城内の様子が明らかになりつつある。



調査区全景



掘立柱建物跡

3. 発掘調査報告書

平成 30 年度に実施した発掘調査の成果を埋蔵文化財調査報告書として計 4 冊を刊行した。

	書名	シリーズ名	シリーズ番号	編著者	発行年月日
1	櫛引遺跡第 6 地点	八戸市埋蔵文化財調査報告書	第 166 集	苧坪 祐樹・宇部 則保	平成 31(2019) 年 1 月 31 日
	所収遺跡名：櫛引遺跡第 6 地点				
2	新井田古館遺跡第 31 地点	八戸市埋蔵文化財調査報告書	第 167 集	苧坪 祐樹・小笠原 善範	平成 31(2019) 年 3 月 15 日
	所収遺跡名：新井田古館遺跡第 31 地点				
3	雷遺跡第 4 地点	八戸市埋蔵文化財調査報告書	第 168 集	村木 淳・田中 美穂	平成 31(2019) 年 3 月 20 日
	所収遺跡名：雷遺跡第 4 地点				
4	八戸市内遺跡発掘調査報告書 39	八戸市埋蔵文化財調査報告書	第 169 集	小保内 裕之・横山 寛剛・田中 美穂・苧坪 祐樹・小笠原 善範	平成 31(2019) 年 3 月 28 日
	所収遺跡名：市子林遺跡第 23 地点、八戸城跡第 40・41 地点、松ヶ崎遺跡第 11 地点、酒美平遺跡第 19 地点、櫛引遺跡第 9 地点、笹ノ沢(2)遺跡第 1 地点、石橋遺跡第 10・11・12 地点、雷遺跡第 4・5・6・7 地点、館平遺跡(新田城跡)第 30 地点 A 区				

平成 30 年度刊行埋蔵文化財調査報告書一覧

4. 情報公開

(1) 平成 30 年度遺跡調査報告会

平成 30 年度に実施した発掘調査の主な成果を報告した。また特別報告として、三戸町教育委員会野田尚志氏に三戸城跡の最新の発掘調査成果についてご報告いただいた。1 階体験交流室を報告会場、2 階研修室を出土品展示会場とし、市内外から 94 名の参加があった。

開催日時：11 月 10 日（土） 13:00～16:00

報告内容：

【報告遺跡】 14:00～16:00

- ・雷遺跡（中居林地区）古代・近世
- ・櫛引遺跡（櫛引地区）中世・近世
- ・新田城跡（新井田地区）中世・近世

※特別報告

- ・三戸城跡（三戸町梅内地区）中世・近世

【主な展示】 13:00～16:00

- ・八戸城跡の弥生土器
- ・雷遺跡の土師器、土製紡錘車、木製品
- ・櫛引遺跡の陶磁器、鉄釘、銭貨
- ・新田城跡の陶磁器、砥石、鉄滓、鉄釘、銭貨
- ・三戸城跡の丸瓦・平瓦



平成 30 年度遺跡調査報告会 展示会場の様子



三戸城跡の報告の様子

(2) 現地公開・現地説明会

平成 30 年度に発掘調査を行った新田城跡で現地公開及び現地説明会を行った。

○新田城跡現地公開・現地説明会

【現地公開】

開催日時：8 月 6 日（月）～8 月 8 日（水）
10:00～12:00、14:00～16:00

場 所：八戸市大字新井田字館平 15

参加者数：10 名

【現地説明会】

開催日時：8 月 11 日（土）10:00～11:30
8 月 23 日（木）9:00～11:30

場 所：八戸市大字新井田字館平 15

参加者数：8 月 11 日（土）32 名

8 月 23 日（木）100 名



新田城跡現地説明会状況 1



新田城跡現地説明会状況 2

5. 是川遺跡美術工芸品保存修理事業

事業計画 平成 24 年度～令和 3 年度に、是川遺跡出土品の保存修理及び保存台製作を実施する予定である。

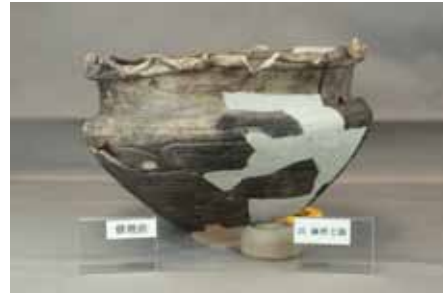
期間 平成 30 年 7 月 3 日～平成 31 年 3 月 20 日

概要 平成 23 年に是川遺跡出土品 330 点が重要文化財に追加指定された。この指定品には多数の木製品や漆製品が含まれており、発掘調査後に保存処理を実施しているが、欠損部分や脆弱な部分が認められる。土器・石器等には石膏の充填、接合部の剥離などが認められる。資料の劣化を抑制するとともに、本来の状態を復元し広く公開活用に供するため、保存修理を実施する。また、万全の保管体制を確保するため、専用の保存台を製作する。

内容 鉢形土器 2 点、浅鉢形土器 1 点、注口土器 3 点、木製容器 4 点、篋形木製品 2 点、計 12 点の保存修理を実施した。うち土器を除く 6 点について保存台を製作した。

受託者 株式会社芸匠（東京都）

事業費 5,070 千円（50% 国庫補助）



鉢形土器修理前



鉢形土器に樹脂を充填



鉢形土器修理後

是川遺跡出土品 保存修理状況

6. 埋蔵文化財活用活性化事業

事業計画 平成 25～30 年度までの 6 ヶ年で平成 24 年度までの出土品の収蔵整理及びデータベース化を行った。

期間 平成 30 年 4 月 2 日～平成 31 年 3 月 31 日

概要 収蔵資料の体系化を目的とし、①収蔵品のデータベース化及び再整理・再収納と②写真原版の保存修理及び公開活動を実施した。

内容 ①収蔵品再整理

平成 30 年度は、林ノ前遺跡 1,785 点、松ヶ崎遺跡 722 点、八戸城跡 1,070 点、根城跡 373 点、田向冷水遺跡 1,641 点、是川中居遺跡 536 点、その他遺跡 1,228 点、計 7,355 点の出土品のデータベース化を行った。

②写真原版のデジタル化及び公開活動

是川遺跡発掘調査を撮影した写真 10 枚をデジタル化し、過年度事業でデジタル化を実施済みであるガラス乾板写真 199 枚（大正末期から昭和初期）の一部とともにパネル展にて公開した。（→ p9）

事業費 8,800 千円（50% 国庫補助）



収蔵品再整理状況

V 史跡整備

1. 史跡是川石器時代遺跡第 1 期整備事業

「是川縄文の里」整備推進のため、平成 27 年度に「史跡是川石器時代遺跡保存活用計画」、平成 29 年度には内容確認が進む中居遺跡と一王寺遺跡貝塚地点を第 1 期とする「史跡是川石器時代遺跡第 1 期整備基本計画」を策定し、遺跡の具体的な保存や整備・活用の方法、環境復元の方法などを定めた。

平成 30 年度は第 1 期整備基本計画に基づき、地形測量と基本設計に着手した。

地形測量では、第 1 期整備の対象である中居遺跡、一王寺遺跡貝塚地点、植栽樹木苗場地点において基準点測量及び現地測量を実施し、縮尺 1/250 の地形平面図を作成した。

この地形測量の成果にもとに、整備検討委員会、文化庁、青森県教育庁文化財保護課と協議しながら基本設計を進めた。中居遺跡では、整備に係る全体計画をはじめ、造成計画・植栽計画・給排水計画を検討した。また、立体復元を予定している竪穴建物跡・水場・土坑墓・配石遺構・捨て場の工法や材料等についても基本方針をまとめた。さらにデッキ・木道等の動線施設や解説版等の案内解説施設、ガイダンス施設として活用する八戸市縄文学習館の展示・設備等の計画についても示した。このほか一王寺遺跡貝塚地点及び植栽樹木苗場地点では、貝塚の具体的な復元方法や材料、苗場の範囲や保護盛土の厚さを検討し、第 1 期整備に必要な各種基本設計図を完成させた。

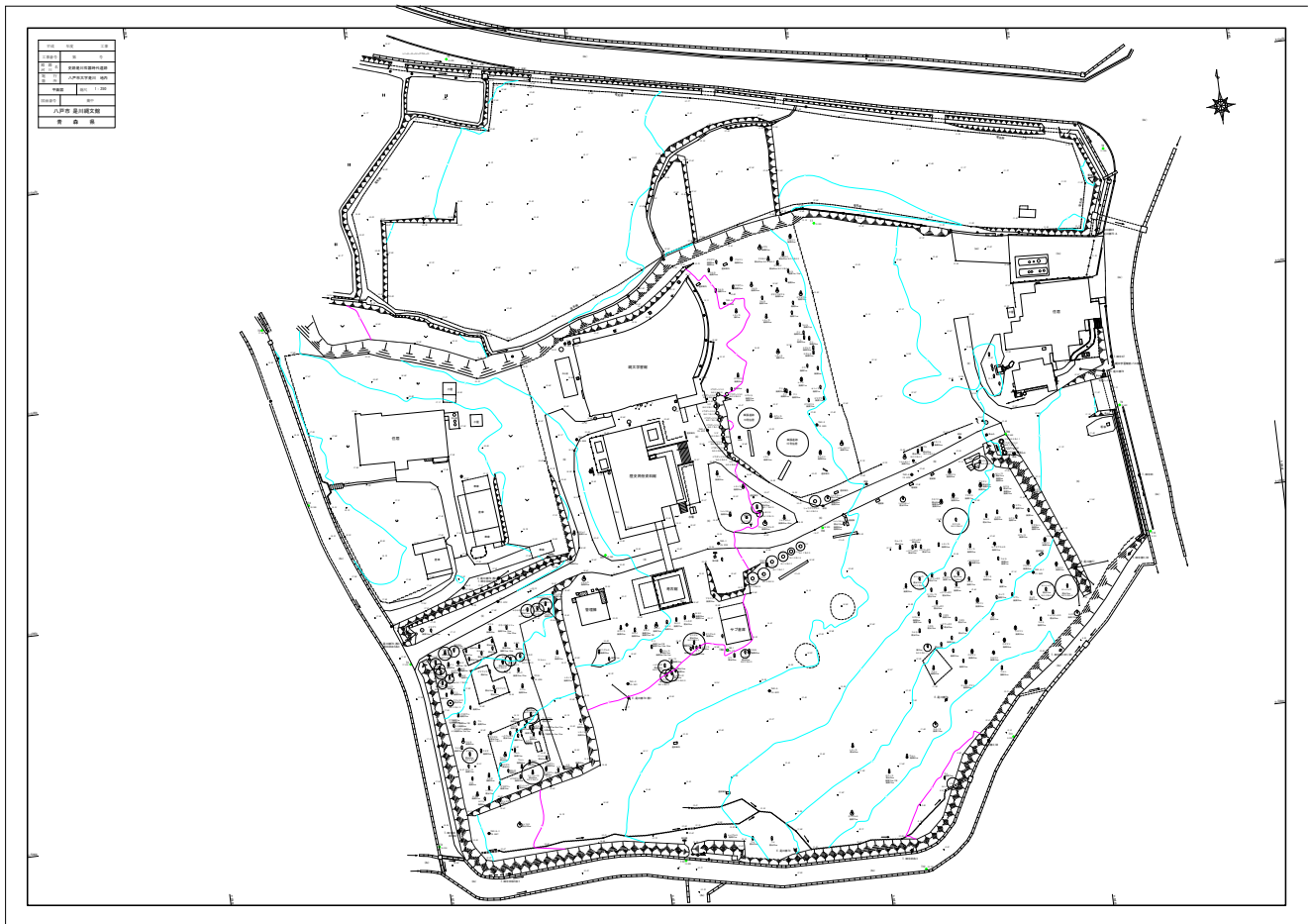
平成 31 年度からは、第 1 期整備着手にあたり、史跡内の既存施設の撤去工事と発掘調査を実施する。



完成予想図（中居遺跡）



全体計画図（中居遺跡）



地形測量図（中居遺跡）

2. 史跡維持管理

史跡是川石器時代遺跡の環境保全・景観管理のため、館の繁忙期や行事による来館者の往来、草の繁茂状況を鑑みて4月から10月にかけて除草を実施した。

①ヤギ除草（堀田遺跡・中居遺跡地内）

面積 約 13,000㎡
 期間 4月24日～10月31日
 受託者 八戸市森林組合
 事業費 1,055千円

②除草（分館敷地・是川遺跡記念碑）

面積 約 15,700㎡
 期間 5月10日～9月30日
 受託者 株式会社昴造園建設
 事業費 2,808千円

③除草（一王寺遺跡地内）

面積 約 63,700㎡
 期間 4月26日～9月30日
 受託者 株式会社昴造園建設
 事業費 2,041千円



除草するヤギとポニー

VI 管理運営概要

1. 協議会等

(1) 平成 30 年度是川縄文館運営協議会

期日 【第 1 回】平成 30 年 6 月 21 日(木)14:30～

【第 2 回】平成 31 年 2 月 15 日(金)13:30～

会場 是川縄文館 2F 研修室

委員 岡村 道雄(会長) 石川 宏之(副会長) 高田 和徳
福田 友之 山下 治子 石藤 清悦 木津 正博

概要 是川縄文館の運営や事業について、文化財・教育普及・広報活動等の専門的見地から評価・助言を得るための協議会。各回とも岡村会長による議事進行で協議が行われた。第 1 回では、平成 29 年度事業報告と平成 30 年度事業説明のもと、教育普及事業や商品開発に関する質疑や意見があった。第 2 回では、平成 31 年度事業計画の説明のもとに協議を進め、特に展示計画について内容や具体的な構成について助言があった。



第 2 回は川縄文館運営協議会

(2) 史跡是川石器時代遺跡整備検討委員会

期日 【第 3 回】平成 30 年 6 月 22 日(金)14:00～

【第 4 回】平成 30 年 11 月 22 日(金)14:00～

会場 是川縄文館 2F 研修室

委員 岡村 道雄(会長) 高田 和徳(副会長)
辻 誠一郎 馬場 光久

概要 史跡是川石器時代遺跡の整備事業について、基本方針、計画等を定めることを目的に有識者による検討を行う委員会。平成 30 年度は、「史跡是川石器時代遺跡第 1 期整備基本計画」に基づいて基本設計に着手した。第 1 期整備の対象となる中居遺跡・一王寺遺跡貝塚地点・植栽植物苗場地点の各種計画の検討を行うとともに、竪穴住居等の遺構の立体復元に関する方法や材料について慎重な議論が交わされた。各委員からの意見を精査するとともに、文化庁、青森県文化財保護課と協議を重ね、平成 31 年 3 月に基本設計が完成した。



史跡是川石器時代遺跡整備検討委員会

(3) 平成 30 年度是川縄文館懇談会

期日 平成 31 年 2 月 19 日(火) 13:30～

会場 是川縄文館 2F 研修室

出席者 中居町内会 田中町内会 是川地区振興会
八戸縄文保存協会 是川文化財愛護会
是川縄文隊 縄文是川ボランティア
是川縄文館職員

概要 是川縄文館の近隣町内組織及び支援団体から館の運営について助言・連携等を得るための会合。平成 30 年度の事業報告、平成 31 年度事業計画等の説明のもとに連携の進め方について協議した。出席者からは、縄文館の PR 方法などについて意見があった。



是川縄文館懇談会

2. 日記抄

月/日	事項
平成30(2018)年	
4/6	見学：新採用職員前期研修(47人)
4/10	見学：新むつ小川原株式会社(3人)
4/11	視察：市民連携推進課(6人)
4/12	見学：凸版印刷株式会社(2人)
4/15	下見：八戸市轟木小学校(2人)
4/17	視察：青森県立郷土館(3人) 下見：青森県立八戸第一養護学校(3人)
4/20	縄文土器作り・見学：中居林小学校6年(65人)
4/24	見学：楽隠会(22人)/花巻市職員退職者会(46人)/株式会社YTC(1人)
4/25	見学：電気事業連合会(6人)/三八五交通(1人)
4/26	視察：八戸圏域水道企業団(4人)
4/27	春季企画展内覧会：ポランティア(15人) 滑石勾玉作り・見学：階上町立赤保内小学校6年(35人)
4/28	縄文土器野焼き(17人)於分館 企画展一日考古学者体験(27人) 取材：株式会社デーリー東北新聞社(1人)/株式会社東奥日報社(1人)
4/30	見学：クラブツーリズム株式会社(26人) 取材：株式会社BeFM(1人)
5/1	土製ペンダント作り・見学：旭ヶ丘小学校6年(71人)
5/2	滑石の勾玉作り・見学：八戸市立白銀南小学校6年(81人) 見学：八戸市立白山台小学校6年(74人)/ 轟木小学校1・2・3・4・5・6年(41人) 撮影：株式会社グランフォート(1人)/有限会社スタジオ大島(1人)
5/3	見学：八戸縄文保存協会(1人)
5/4	見学：八戸縄文保存協会(3人)/株式会社日経カルチャー(8人)
5/5	滑石でペンダント作り教室(8人) 見学：ポストタクシー株式会社(1人)/八戸縄文保存協会(5人) 取材：八戸高等学校放送部(2人)
5/8	琥珀の勾玉作り・講話：根岸公民館(10人)於根岸公民館 講師：当館学芸員 取材：株式会社目の眼(1人)/株式会社田名部組(1人)
5/10	取材：株式会社田名部組(4人)
5/11	見学：八戸工業大学1年(50人)/クラブツーリズム(25人) 取材：NHK八戸支局(2人)/株式会社八戸テレビ放送(2人)
5/12	考古学講座①(63人) 企画展ギャラリートーク(18人) 見学：八戸縄文保存協会(1人) 取材：株式会社デーリー東北新聞社(1人)/株式会社東奥日報社(1人)
5/15	見学：江陽小学校6年(32人) 視察：八戸市教育委員会 教育指導課(23人)
5/16	講話：下長公民館(10人)於下長公民館 講師：当館学芸員 見学：市川中学校2年(18人) 取材：NHK大阪放送局制作部(5人)
5/17	縄文土器作り・講話：下長公民館(14人)於下長公民館 講師：当館学芸員 見学：伊藤機械(8人)
5/18	見学：下長中学校1年(177人)/有限会社イニシオ(1人)/ 新婦人の会 さつき班(11人)/小牧山会(10人)
5/19	サポートスタッフ研修会①(14人) 講師：当館学芸員
5/20	見学：日本長生医学会(42人)/第5納税貯蓄組合(15人)/ ポストタクシー株式会社(1人)
5/22	下見：びけプロダクション(1人)
5/24	見学：八戸縄文保存協会(1人)
5/26	これかわ考古学クラブ①(3人) 講師：当館学芸員 サポートスタッフ研修会②(26人) 講師：当館学芸員 見学：株式会社東海日動パートナーズ東北(17人) 下見：株式会社JTB(2人)
5/29	縄文土器野焼き(13人)於分館 見学：青森県立八戸第一養護学校高等部1・2・3年(17人)
5/30	縄文土器作り・見学：城下小学校6年(41人) 見学：クラブツーリズム(26人) 取材：びけプロダクション株式会社(6人)
5/31	取材：びけプロダクション株式会社(6人)
6/1	火起こし・見学：田子町立上郷小学校3・4・5・6年(19人) 見学：古間木山老人クラブ(31人)
6/2	これかわ考古学クラブ②(5人) 講師：当館学芸員 サポートスタッフ研修会③(23人) 講師：当館学芸員
6/4	六戸町たばこ耕作振興会(32人)
6/5	縄文土器作り・見学：湊小学校6年(45人)
6/6	見学：青森県立八戸第一養護学校小学部6年(3人)/ 八戸縄文保存協会(2人) 視察：八戸市総合教育センター(2人)
6/7	見学：株式会社びゅうトラベルサービス(29人)
6/8	縄文土器作り・見学：おいらせ町立百石小学校6年(44人) 縄文の布を編む・視察：伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ(14人)
6/9	サポートスタッフ研修会④(20人) 講師：当館学芸員 企画展ギャラリートーク(5人)
6/10	見学：向川原婦人部(13人)
6/12	見学：八戸縄文保存協会(1人)
6/13	見学：ふれ愛プラザあおば(6人)
6/14	見学：三八五交通(25人)
6/15	滑石勾玉作り・見学：新郷村立戸来小学校6年(9人) 見学：株式会社びゅうトラベルサービス(30人)
6/16	考古学講座②(71人)
6/17	見学：中長印刷(4人)
6/19	縄文土器作り・見学：南部町立剣吉小学校6年(19人) 視察：南部町教育委員会(30人) 平成30年度第1回は川縄文館運営協議会 見学：平内郷土研究会(20人) 取材：株式会社デーリー東北新聞社(1人)/ あおもり塾同窓会こころクラブ(1人)
6/21	見学：今江建設株式会社(9人)/認定こども園マリアンハウス幼稚園(51人)/クラブツーリズム株式会社(21人) 第5回は川石器時代遺跡整備検討委員会 取材：株式会社東奥日報社(1人)/株式会社デーリー東北新聞社(1人) サポートスタッフ研修会⑤(13人) 講師：当館学芸員 見学：八戸縄文保存協会(1人)/JRC(4人)
6/22	見学：今江建設株式会社(9人)/認定こども園マリアンハウス幼稚園(51人)/クラブツーリズム株式会社(21人) 第5回は川石器時代遺跡整備検討委員会 取材：株式会社東奥日報社(1人)/株式会社デーリー東北新聞社(1人) サポートスタッフ研修会⑤(13人) 講師：当館学芸員 見学：八戸縄文保存協会(1人)/JRC(4人)
6/23	見学：八戸縄文保存協会(1人)
6/24	見学：八戸縄文保存協会(1人)
6/26	縄文土器野焼き(14人)於分館 見学：オールユニバース(34人)
6/27	講話：くろいし市民大学(70人)於黒石市産業会館 講師：当館学芸員 視察：浄法寺総合支所(2人)
6/28	縄文土器作り・見学：八戸第二養護学校6年(12人) 視察：文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部(3人) サポートスタッフ研修会⑥(18人) 講師：当館学芸員 見学：三八五交通株式会社(1人)
6/29	滑石勾玉作り：あおもりJOMONフェスタ(113人) 於イオンモール下田 見学：二中同期会(17人) 縄文土器作り・見学：日計ヶ丘小学校6年(15人) 見学：おいらせ町社会福祉協議会(28人)
7/1	グッジョブウィーク：大館中学校2年(2人) 縄文土器作り・見学：吹上小学校6年(114人) 撮影：有限会社スタジオ大島(1人) 視察：八戸圏域水道企業団(5人)
7/2	グッジョブウィーク：大館中学校2年(2人) 見学：くろいし市民大学(黒石市教育委員会社会教育課)(38人) 講師：当館学芸員
7/3	グッジョブウィーク：大館中学校2年(2人) 見学：毎日新聞旅行(31人) 合掌土器作り・講話：平成30年度初任者研修(34人) 講師：当館学芸員 見学：十和田済誠会病院デナイトケア科(20人)
7/4	合掌土器作り教室(11人) 見学：上北地方教育会館(29人)/東北電力株式会社(4人)/東北医療福祉事業協同組合(7人)
7/5	見学：青葉子ども会(28人)
7/6	滑石勾玉作り・見学：田子町立田子小学校6年(37人) 見学：小中野地区社会福祉協議会(47人)
7/7	滑石の勾玉作り・見学：階上町立石鉢小学校6年(43人) 視察：八戸市教育委員会社会教育課(3人)
7/8	考古学講座③(57人)
7/9	見学：千葉加曽利貝塚ポランティア(12人)
7/10	見学：八戸駅(7人) 取材：株式会社青森テレビ八戸支社(2人) 特別展「海をわたる縄文人」内覧会：報道関係・ポランティア(26人) 見学：大罇町教育委員会成人大学(33人) 特別展ギャラリートーク(13人) 見学：小規模多機能ホーム椿寿園(10人) 取材：株式会社毎日新聞社(1人)/株式会社読売新聞社八戸支局(1人)
7/11	縄文土器野焼き(14人)於分館 見学：八戸縄文保存協会(2人)
7/12	見学：クラブツーリズム株式会社(21人)
7/13	見学：六戸町地域公民館連絡協議会(12人) 見学：さくら病院デイケア(15人) 下見：青森宝栄工業株式会社(3人)
7/14	滑石勾玉作り・講話：東公民館(12人)於東公民館 講師：当館学芸員 特別展ギャラリートーク(14人) 見学：八戸グリーンプラント(8人) 見学：東邦考古学研究会(17人) 取材：青森県東京事務所(2人)
7/15	見学：ポストタクシー株式会社(1人)/歩く旅の会(8人) 視察：八戸市広報統計課(3人)
7/16	縄文土器作り・講話：根岸公民館(13人)於根岸公民館 講師：当館学芸員
7/17	
7/18	
7/19	
7/20	
7/21	
7/22	
7/23	
7/24	
7/25	
7/26	
7/27	
7/28	
7/29	
7/30	
7/31	
8/1	

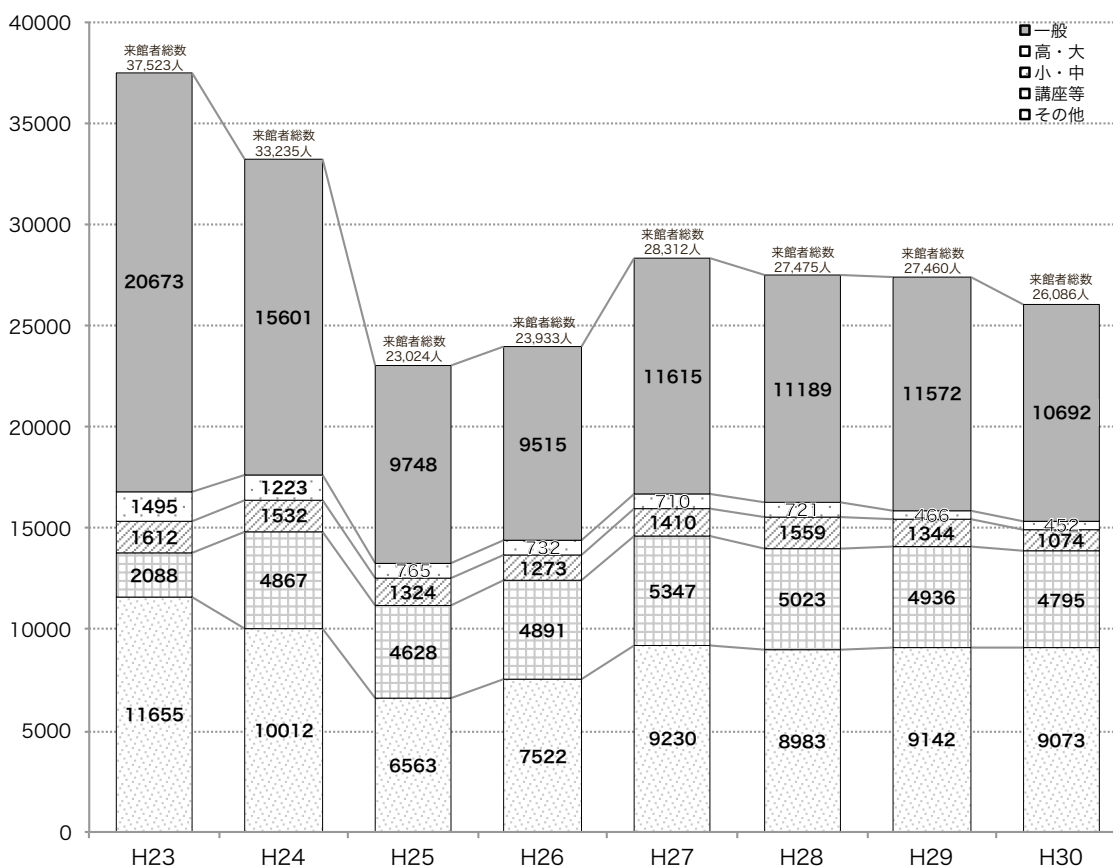
八戸市埋蔵文化財センターは川縄文館 年報第 8 号

月/日	事項		
	滑石勾玉作り：はちのへ Local 旅 (2 人)	10/2	見学：有限会社イニシオ (1 人)/ 八戸縄文保存協会 (1 人)
8/2	見学：三八五流通株式会社 (3 人)/ 八戸縄文保存協会 (1 人)/ 三八五観光 (15 人)	10/3	見学：麦生婦人部 (20 人)
	見学・打ち合わせ：凸版印刷株式会社 (3 人)		視察：青森県県土整備部都市計画課 (2 人)
8/3	下見：クラブツーリズム株式会社 (1 人)		取材：株式会社デーリー東北新聞社 (1 人)
8/4	特別展ギャラリートーク (12 人)	10/4	縄文土器作り・見学：大久喜小学校 6 年 (7 人)
	これかわ考古学クラブ③ (6 人)		見学：根城中学校 1 年 (24 人)
	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)	10/5	企画展内覧会：報道関係・ボランティア (16 人)
	視察：八戸市教育委員会 (33 人)		琥珀の勾玉作り：鶴盟大学 3 4 期 とんとんの会 (10 人)
8/6	縄文の布を編む：個人体験学習 (2 人)	10/6	滑石勾玉作り・縄文の布を編む：八食わくわくフェスタ 2018 (72 人)
8/7	滑石勾玉作り：是川児童館 (12 人)		於八食センター
	見学：ときめき世界遺産塾実行委員会 (32 人)		企画展ギャラリートーク (6 人)
8/8	縄文土器作り・見学：個人体験学習 (3 人)		これかわ考古学クラブ④ (4 人)
	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)		見学：八戸縄文保存協会 (1 人)/ 弘前縄文の会 (29 人)
8/9	縄文土器作り：青森県老人クラブ連合会 (34 人)		/ 是川二丁目町内会 (24 人)
	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)		/ 社会福祉法人サポートセンター虹 (18 人)
	取材：：有限会社ビューハウス (1 人)	10/7	滑石勾玉作り・縄文の布を編む：八食わくわくフェスタ 2018 (87 人)
	視察：八戸市教育委員会 (3 人)		於八食センター
8/11	特別展ギャラリートーク (5 人)		見学：八戸縄文保存協会 (1 人)
	見学：ピクチャーズネットワークサービス (1 人)		取材：朝日新聞社 (1 人)
	新田城跡現地説明会 (32 人)	10/8	滑石勾玉作り・縄文の布を編む：八食わくわくフェスタ 2018 (87 人)
8/12	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)		於八食センター
8/17	縄文土器作り：個人体験学習 (2 人)	10/10	滑石勾玉作り・見学：青森県立八戸東高等学校 (30 人)
	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)	10/11	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)/ 日本生命喜楽会青森県支部 (23 人)
8/18	博物館実習に係る見学実習 (9 人)	10/12	見学：根岸小学校 6 年 (74 人)
	特別展ギャラリートーク (10 人)		講話：一葉会 (50 人) 於八戸グランドホテル 講師：当館学芸員
8/19	第 2 3 回は川縄文まつり (986 人) 於分館	10/13	縄文土器作り講座① (6 人)
	見学：クラブツーリズム株式会社 (30 人)		滑石勾玉作り：下長公民館まつり (17 人) 於下長公民館
	博物館実習に係る見学実習 (5 人)		講師：当館学芸員
8/21	滑石勾玉作り・見学：個人体験学習 (3 人)		講話：平成 30 年度日本伝熱学会東北支部秋季伝熱セミナー (37 人)
	見学：株式会社タビックスジャパン (36 人)		於八戸シングルビューホテル 講師：当館学芸員
8/22	見学：新むつ小川原株式会社 (7 人)		企画展ギャラリートーク (10 人)
8/23	見学：浪岡観光協会 (6 人)		取材：株式会社読売新聞社 (1 人)
8/24	見学：大島事務所 (4 人)	10/14	講話：森のめぐみ展 in はっち vol.8 (50 人) 於八戸ポータルミュージアムはっち 講師：当館学芸員
8/25	特別展考古学講座 (82 人)		見学：南小稲寿会 (23 人)
	特別展ギャラリートーク (10 人)	10/16	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)
	見学：八戸縄文保存協会 (4 人)	10/17	見学：田子町立清水頭小学校 5・6 年 (7 人)/
8/26	見学：笹間第二小学校 PTA (25 人)/ 青森市浪岡大杉公民館 (20 人)		株式会社エイエイビー (10 人)/ 三八五交通株式会社 (1 人)
8/27	縄文土器作り・見学：是川小学校 5 年 (37 人)	10/18	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)
8/28	滑石勾玉作り：個人体験学習 (8 人)	10/20	縄文土器作り講座② (11 人)
	取材：株式会社デーリー東北新聞社 (1 人)		企画展ギャラリートーク (5 人)
	視察：長野県立歴史館 (1 人)		見学：青森スタディツアー (15 人)/ かもみーる句会 (7 人)
8/29	縄文土器作り・見学：是川小学校 4 年 (31 人)	10/21	見学：関東七社会 (3 人)/ 七戸花友会 (16 人)
	火起し：個人体験学習 (1 人)	10/23	見学：五戸町教育委員会 (17 人)/
	見学：新むつ小川原株式会社 (14 人)		株式会社タビックスジャパン (16 人)
8/31	合掌土偶作り・見学：是川小学校 6 年 (49 人)		視察：東津軽郡選挙管理委員会連合会 (17 人)
	見学：八戸学院幼稚園 (44 人)/ 黒石地区支部長協議会 (8 人)	10/24	見学：株式会社 JTB (2 2 人)/ ポストタクシー株式会社 (1 人)/
9/1	縄文の布を編む講座 (12 人)		NPO 法人エンパワメント輝き (20 人)/ 五戸町教育委員会 (27 人)
	特別展ギャラリートーク (20 人)	10/25	見学：NPO 法人エンパワメント輝き (14 人)
	見学：八戸縄文保存協会 (2 人)	10/26	是川中学校テラコッタ野焼き (100 人) 於是川中学校
9/2	視察：埼玉県内文化財担当者 (3 人)		見学：介護老人保健施設はくじゅ (11 人)
	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)	10/27	企画展考古学講座 (59 人)
9/4	縄文土器作り・見学：是川小学校 3 年 (23 人)		企画展ギャラリートーク (5 人)
	下見：株式会社青森テレビ (3 人)		見学：八戸縄文保存協会 (1 人)
9/5	室蘭退職教職員協議会 (18 人)		視察：三戸郡田子町議会議長会 (8 人)
9/6	縄文土器作り・見学：是川小学校 2 年 (25 人)	10/28	見学：三沢市幸町三丁目町内会 (20 人)
9/7	講話・見学：八戸市鶴盟大学 (71 名) 講師：当館学芸員		取材：株式会社メダリオンエンタープライズ (1 人)
	見学：クラブツーリズム (33 人)	10/30	縄文土器野焼き (12 人) 於分館
9/9	見学：小岩井自治会婦人部 (49 人)/ 横手市自衛隊家族会 (25 人)		見学：新郷村立西越小学校 6 年 (5 人)
9/11	土製耳飾り作り・見学：是川小学校 1 年 (30 人)		見学：八戸縄文保存協会 (1 人)/ 金ヶ崎町議会 (10 人)
9/13	見学：小中野小学校 6 年 (67 人)/ 新むつ小川原株式会社 (6 人)	11/1	火起し・見学：桔梗野小学校 5 年 (8 人)
	視察：名護市教育委員会 (1 人)/ 近畿日本ツーリスト (3 人)		見学：北東北三県観光立県推進協議会 (12 人)
9/14	土器の拓本・見学：古代史探訪会 (8 人)	11/2	見学：青森県日通旧友会 (14 人)/ クラブツーリズム株式会社 (20 人)
	見学：城北小学校 6 年 (79 人)/ ペアール大仙 (18 人)/	11/3	企画展ギャラリートーク (3 人)
	東北町赤十字奉仕団 (21 人)		見学：北の縄文クラブ (10 人)/ 青森市久須志地区民児協 (22 人)
	取材：株式会社読売新聞社八戸支局 (1 人)	11/4	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)/ 県南なかほつセンター (5 人)
9/15	シカの角でペンダント作り教室 (12 人)	11/5	グッジョブウィーク：長者中学校 2 年 (2 人)
9/19	見学：クラブツーリズム (27 人)		見学：いわでてりんご園 (13 人)
	視察：八戸市総務部行政管理課 (4 人)	11/6	グッジョブウィーク：長者中学校 2 年 (2 人)
9/20	見学：函南保育園 (7 人)/ あずまや (8 人)		縄文土器作り・見学：根城小学校 6 年 (91 人)
	視察：八戸市議会 (7 人)/ 佐賀市教育委員会 (1 人)/		見学：認定こども園百石幼稚園 (90 人)/ 笑福クラブ (37 人)/
	岩手県文化スポーツ部 (10 人)		東成瀬村教育委員会 (6 人)/ 十四教会 (12 人)
9/21	見学：久慈市立久喜小学校 5 年 (8 人)/ 新郷村立野沢中学校 1・2・3 年 (16 人)	11/7	見学：八戸公共アテンドはちこ (2 人)/
9/22	見学：老健しもだ (14 人)		JXTG エネルギー株式会社 (7 人)
9/27	見学：バミス会 (20 人)/ 千寿の里 いちかわ (13 人)/ りんごの木 句会 (5 人)	11/8	見学：公益財団法人仙台市民文化事業団 (2 人)
9/28	滑石勾玉作り・見学：洋野町立中野小学校 4 年 (23 人)	11/9	滑石の勾玉作り・見学：長者小学校 6 年 (70 人)
	見学：八戸縄文保存協会 (1 人)		見学：八戸縄文保存協会 (1 人)/ 保育実践交流会東北ブロック (18 人)
9/29	縄文土器野焼き (18 人) 於分館	11/10	平成 30 年度遺跡調査報告会 (93 人)
	見学：岩手県北観光 (27 人)		企画展ギャラリートーク (2 人)
9/30	映画『縄文にハマる人々』上映後トークイベント (80 人)		見学：MMPG 北海道・東北会 (20 人)/ GP ネットワーク (5 人)
	於フォーラム八戸		下見：クラブツーリズム株式会社 (3 人)
10/1	見学：北秋田市商工会女性部 (30 人)/ あきた北観光バス株式会社 (1 人)		

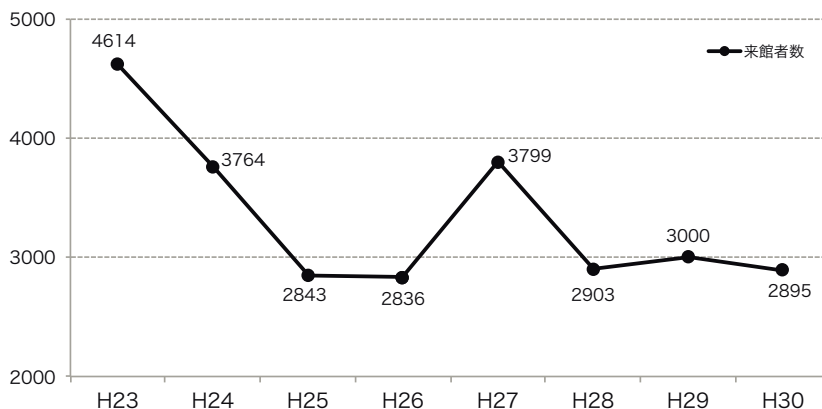
月/日	事項	
11/13	見学：TAS(29人)	取材：有限会社サウンドクリエイト(10人)/
11/14	火起こし・見学：吹上小学校5年(17人) 見学：八日市地区コミュニティ会議(13人)/水沢總和会(6人)/ 是川保育園(11人)	1/23 見学：北海道開発技術センター(12人)/視察：八戸市議会議事務局(5人) 1/26 縄文土器の拓本作り教室(6人) サポートスタッフ研修会②(9人) 見学：(株)近畿日本ツーリスト東北青森支店(3人) 取材：青森県交通政策課(1人)/株式会社デーリー東北新聞社(1人)
11/15	滑石の勾玉作り・見学：多賀台小学校6年(22人) 縄文土器作り・見学：青森県立青森養護学校中学部2年(5人) 見学：六ヶ所村泊婦人会(16人)/是川保育園(12人) 取材：株式会社メダリオンエンタープライズ(6人)	1/31 見学：八戸縄文保存協会(1人) 2/1 取材：株式会社東奥日報社(3人) 2/2 考古学講座⑥(54人) 2/3 見学：八戸縄文保存協会(1人) 2/8 見学：千葉幼稚園(6人) 2/9 これかわ考古学クラブ⑥(3人) サポートスタッフ研修会③(19人) 第3回は川縄文の里俳句大会表彰式 2/10 視察：北海道大学(4人) 2/13 火起こし：八戸市旭ヶ丘小学校6年(3人) 2/14 第2回は川縄文館運営協議会 2/15 見学・取材：八戸市観光課(2人) サポートスタッフ研修会④(12人) 見学：極東製薬工業㈱(4人)
11/16	火起こし・取材：株式会社メダリオンエンタープライズ(6人) 見学：秋田県総合保健事業団(13人)	2/17 火起こし：かがり火えんぶり(3人)於市庁前広場 見学：八戸縄文保存協会(2人) 見学：箱根カルチャー(22人)/ユーラシア旅行社(12人)/ JXTG エネルギー株式会社(4人)
11/17	ドングリで縄文 Cooking(12人) 企画展ギャラリートーク(3人) 見学：松戸東ロータリークラブ(15人)	2/19 是川縄文館懇談会(14人) 2/20 見学：東奥日報旅行センター(24人)/JXTG エネルギー株式会社(3人) 2/21 見学：八戸縄文保存協会(1人) 2/22 サポートスタッフ研修会⑤(12人) 2/23 滑石の勾玉作り・見学：きくよしスクール(19人) サポートスタッフ研修会⑥(19人) 見学：八戸縄文保存協会(1人)
11/18	取材：株式会社暮しの手帖社(4人)	2/24 天皇陛下御即位三十年記念慶賀事業(観覧無料) えんぶり鑑賞会(516人) 2/26 取材：TBS テレビ「ビビット」(3人) 2/27 視察：中央研究院(2人) 3/8 取材：株式会社自由企画社(4人) 3/9 縄文土器作り教室(15人) 3/10 見学：八戸縄文保存協会(1人) 3/13 縄文土器作り・見学：個人体験学習(1人) 3/16 火起こし・見学：きくよしスクール(10人) 見学：JXTG エネルギー株式会社(5人)
11/20	滑石の勾玉作り・見学：階上町立小舟渡小学校5・6年(9人) 滑石の勾玉作り・見学：柏崎小学校6年(114人) 滑石の勾玉作り・見学：八戸響学校6年(2人) 見学：町畑小学校5年(13人)	3/17 見学：ひだまりクラブ(23人)/学校法人光星学院(3人)/ 陝西現代日韓語職業培訓学校(4人)/八戸縄文保存協会(1人) 3/19 土製耳飾り作り・見学：ソラーズ小学校1年(44人) 視察：八戸市教育委員会 教育指導課(5人) 取材：テレコムスタッフ株式会社(7人) 見学：青都個人タクシー協会(1人) 取材：テレコムスタッフ株式会社(6人)/旅の手帖(2人) 見学：八戸縄文保存協会(1人) 3/24 見学：コサカ技研(4人) 3/27 見学：三八五交通株式会社(2人) 3/28 土製ペンダント作り・見学：ソラーズ小学校(47人) 3/30 縄文土器野焼き(18人)於分館
11/21	見学：東北医療福祉事業協同組合(11人) 見学：三八五バス(9人)	
11/22	第6回は川石器時代遺跡整備検討委員会 火起こし・見学：西園小学校6年(8人) 縄文土器作り・見学：八戸第一養護学校高等部(13人)	
11/23	見学：毎日新聞旅行(15人)	
11/24	縄文土器作り講座③(18人)於分館 企画展ギャラリートーク(16人) 見学：民教の会(24人)	
11/25	講話：はっち市2018「ちっちゃな街のまなび舎」(40人) 於八戸ポータルミュージアムはっち 講師：当館学芸員 見学：八戸縄文保存協会(2人)/クラブツーリズム株式会社(26人)	
11/28	見学：三戸町高齢者学級教室(30人)/八戸縄文保存協会(1人)	
11/29	見学：是川保育園(4人)/津軽みなみOB会(16人) 取材：NPO法人国際縄文学協会(3人)	
11/30	見学：新郷村納税貯蓄組合連合会(12人) 視察：東成瀬村教育委員会(20人)	
12/1	縄文土器作り・講話・見学：放送大学青森学習センター八戸SS(37人) 講師：当館学芸員 取材：株式会社デーリー東北新聞社(1人) 視察：青森県誘客交流課(13人)	
12/2	はちのへ縄文フェス(117人)於マチニワ 講座・見学：放送大学青森学習センター八戸SS(28人) 講師：当館学芸員 取材：株式会社デーリー東北新聞社(1人)	
12/4	滑石の勾玉作り・見学：白鷗小学校6年(43人)	
12/5	見学：新むつ小川原株式会社(5人)	
12/6	見学：また旅くらぶ(2人)	
12/7	滑石の勾玉作り：明治小学校5年(57人)於明治小学校 見学：八戸工業大学第一高等学校3年(61人)/山友会(7人)	
12/8	考古学講座④(44人) 講話：平成30年度「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録推進フォーラム(220人)於岩手教育会館 講師：当館学芸員	
12/11	見学：つるの湯温泉(30人)	
12/12	見学：八戸縄文保存協会(2人)	
12/14	パネル展「伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真」 内覧会：ボランティア(11人) 見学：妙水苑デイサービスセンター(10人)	
12/15	パネル展「伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真」 パネル展特別講演会(52人) 見学：株式会社ACプロモート(12人) 視察：青森県誘客交流課(2人) 取材：株式会社読売新聞社(1人)	
12/16	講話：平成30年度埋蔵文化財講座(70人) 於滝沢市埋蔵文化財センター 講師：当館学芸員	
12/18	取材：ミヤギテレビサービス(5人)/株式会社デーリー東北新聞社(1人) 視察：青森県教育庁文化財保護課(2人)	
12/19	講話：八戸工業大学地域学第13回授業(131人)於八戸工業大学 講師：当館学芸員 滑石の勾玉作り・取材：株式会社デーリー東北新聞社(3人) 見学：水沢總和会(6人)/株式会社ラボラトリーズ(3人)	
12/20	見学：是川保育園(1人)	
12/22	これかわ考古学クラブ⑤(3人)	
平成31(2019)年		
1/9	見学：是川保育園(1人)/八戸縄文保存協会(1人) 取材：有限会社サウンドクリエイト(3人)	
1/10	見学：八戸縄文保存協会(1人)/視察：株式会社丹青社(2人)	
1/12	サポートスタッフ研修会①(15人) 視察：東京藝術大学(4人)	
1/19	考古学講座⑤(59人) 見学：八戸縄文保存協会(1人)	
1/22	見学：八戸縄文保存協会(1人) 視察：八戸市広報統計課(2人)	

3. 来館者利用状況

月	個人				団体				減免入館者					有 料 観覧者	全額免除 観覧者	講座等 入館者	本館総 入館者	開館 日数	平 均 入館者	分館総 入館者	総計
	一般	大・高	小・中	計	一般	大・高	小・中	計	障がい	介護	高齢	優待	計								
4月	643	35	48	726	91	0	32	123	16	11	66	11	104	953	292	322	1,567	27	58	129	1,696
5月	1,224	31	116	1,371	89	47	0	136	22	20	133	19	194	1,701	927	369	2,997	28	107	323	3,320
6月	713	15	65	793	219	0	42	261	19	10	57	43	129	1,183	407	374	1,964	27	73	144	2,108
7月	828	12	53	893	213	1	87	301	31	19	128	7	185	1,379	547	461	2,387	29	82	149	2,536
8月	1,718	110	297	2,125	91	0	22	113	34	25	135	18	212	2,450	1,962	619	5,031	30	168	1,247	6,278
9月	883	22	55	960	205	0	20	225	21	18	105	15	159	1,344	722	301	2,367	27	88	230	2,597
10月	1,008	31	43	1,082	218	30	0	248	30	19	86	24	159	1,489	489	357	2,335	27	86	241	2,576
11月	834	8	30	872	141	0	2	143	20	12	113	19	164	1,179	1,174	418	2,771	27	103	236	3,007
12月	274	1	7	282	29	58	0	87	8	8	30	23	69	438	197	268	903	23	39	0	903
1月	386	11	24	421	0	0	0	0	6	5	41	24	76	497	161	232	890	23	38	2	892
2月	323	6	9	338	44	0	0	44	6	4	31	20	61	443	331	791	1,565	24	65	0	1,565
3月	493	34	31	558	25	0	91	116	12	11	71	19	113	787	239	283	1,309	26	50	194	1,503
計	9,327	316	778	10,421	1,365	136	296	1,797	225	162	996	242	1,625	13,843	7,448	4,795	26,086	318	82	2,895	28,981



本館における過去8年間の来館者数の推移



分館における過去8年間の来館者数の推移

※平成30年度より、12月から3月にかけて分館の受付は本館に集約している。

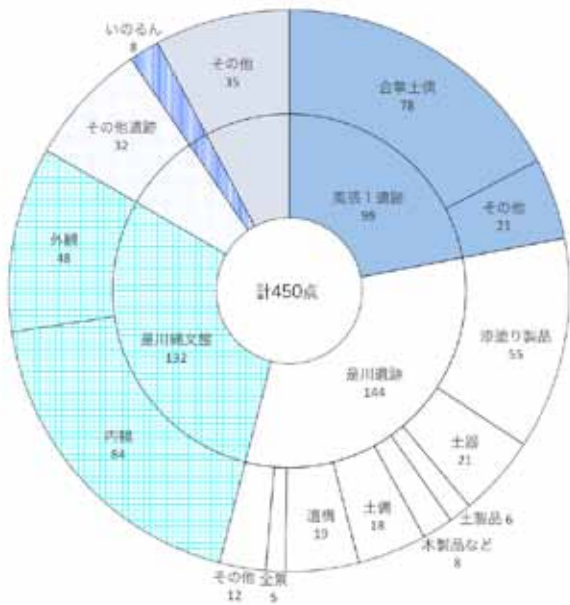
4. 市内小中学校利用状況

入館日	学校名	内容	人数	入館日	学校名	内容	人数	入館日	学校名	内容	人数
4/20	中居林小学校 6 年	見学・体験	62	8/27	是川小学校	見学・体験	35	11/6	根城小学校	見学・体験	86
5/1	旭ヶ丘小学校 6 年	見学・体験	69	8/29	是川小学校	見学・体験	29	11/9	長者小学校	見学・体験	66
5/2	白銀南小学校 6 年	見学・体験	77	8/31	是川小学校	見学・体験	47	11/14	吹上小学校	見学・体験	16
5/2	白山台小学校 6 年	見学	71	9/4	是川小学校	見学・体験	21	11/15	多賀台小学校	見学・体験	20
5/2	轟木小学校 1～6 年	見学	34	9/6	是川小学校	見学・体験	23	11/20	町畑小学校 5 年	見学	12
5/15	江陽小学校 6 年	見学	30	9/11	是川小学校	見学・体験	28	11/20	柏崎小学校 6 年	見学・体験	103
5/16	市川中学校 2 年	見学	17	9/13	小中野小学校	見学	61	11/20	八戸聾学校 6 年	見学・体験	1
5/18	下長中学校 1 年	見学	168	9/14	城北小学校	見学	74	11/22	西園小学校 6 年	見学・体験	6
5/30	城下小学校	見学・体験	39	10/4	根城中学校	見学	23	11/22	八戸第一養護学校	見学・体験	8
6/5	湊小学校	見学・体験	43	10/4	大久喜小学校	見学・体験	6	12/4	白鷗小学校	見学・体験	41
6/6	八戸第一養護学校	見学	1	10/12	根岸小学校	見学	68	1/22	是川中学校 1～3 年	体験	10
6/28	八戸第二養護学校	見学・体験	9	11/1	桔梗野小学校	見学・体験	6	2/14	旭ヶ丘小学校 6 年	体験	3
7/2	日計ヶ丘小学校	見学・体験	13	計 30 校 1,535 人 (見学 559 人 体験 13 人 見学・体験 963 人)							
7/3	吹上小学校	見学・体験	109								

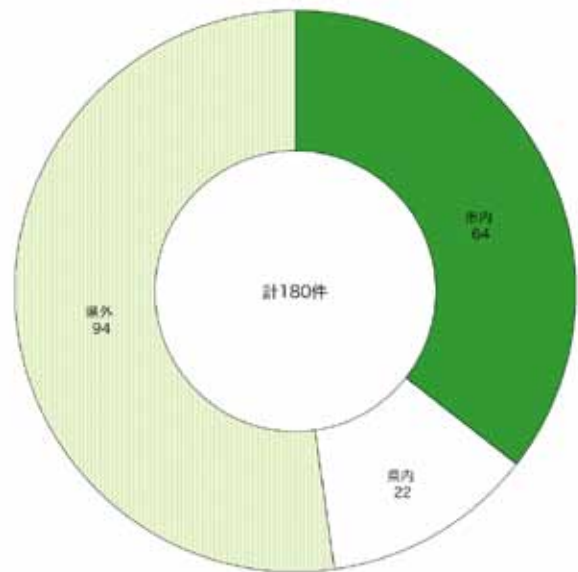
5. 資料利用状況

(1) 映像資料

平成 30 年度は、申請数 181 件、合計 450 点の利用申請があった。前年と比べ件数は増加したが、点数は減少した。今年度の申請者も昨年度に引き続き県外が最多となった。利用目的では、書籍等への掲載のほか、テレビ利用や個人の SNS への掲載等がある。



映像資料利用種別内訳



映像資料利用依頼先内訳

番号	申請者	資料名	点数	利用方法	許可	掲載先
1	株式会社 KADOKAWA 文芸・ノンフィクション局	是川中居遺跡出土 亀ヶ岡式土器集合画像	1	写真貸与・掲載	4/3	書籍『縄文土器・土偶』
2	株式会社やうトラベルサービス	亀ヶ岡式土器集合画像ほか	2	写真貸与・掲載	4/3	『大人の休日倶楽部』パンフレット等
3	青森県立八戸商業高等学校	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	4/3	アプリ『はちすご』ほか
4	株式会社小学館第三児童学習局	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	7	写真貸与・掲載	4/13	『1万3000年続いたオドロキの歴史 おもしろ謎解き『縄文』のヒミツ』
5	八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部 キャリア支援センター	是川縄文館内観ほか	2	写真貸与・掲載	4/17	2019年度大学案内
6	青森県長寿社会振興センター	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/17	『あすなろ倶楽部』104号
7	株式会社エディキューブ	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/24	書籍『歴史 REAL 日本人の起源 (仮)』
8	印西歴史愛好会	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	4/27	研究会における発表
9	株式会社 KADOKAWA 文芸局ノンフィクション編集部	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	4/30	『縄文土器・土偶』カバー
10	株式会社ビーエフエム	是川縄文館内観ほか	2	撮影	4/30	日刊紙
11	八戸市立旭ヶ丘小学校	体験の様子	1	撮影	5/1	卒業アルバム
12	株式会社平凡社	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶ほか	3	写真掲載	5/2	『新版 縄文美術館』
13	八戸市立藤木小学校	是川縄文館外観ほか	2	撮影	5/2	学校便り及び学年便り
14	株式会社グランフォート	是川縄文館外観ほか	2	撮影	5/2	八戸市立白銀南小学校卒業記念
15	有限会社スタジオ大島	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	5/2	八戸市立白台山小学校卒業アルバム
16	個人	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	5/4	Face Book
17	青森県八戸高等学校放送部	館内シアターの音声ほか	2	撮影・録音	5/5	『NHK 全全国高校放送コンテスト』応募作品
18	株式会社目の眼	常設展示室及び常設展示品ほか	3	撮影	5/8	月刊『目の眼』8月号
19	株式会社 KADOKAWA 文芸局 学芸ノンフィクション編集部	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	5/10	書籍版使用ポップ
20	株式会社田名部組	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	5/10	『Web コーミン』等
21	NHK 八戸支局	企画展示室ほか	2	撮影	5/11	ニュース番組
22	株式会社八戸テレビ放送	企画展示室及び展示品	1	撮影	5/11	ニュース番組
23	株式会社 4thFILM	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	5/12	テレビ番組
24	株式会社 KADOKAWA 文芸局	是川中居遺跡出土 足を曲げる土偶	1	写真掲載	5/13	書籍『縄文人の死生観』
25	NHK 大坂放送局 制作部	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	撮影	5/16	『歴史秘話ヒストリア』
26	八戸市立下長中学校	常設展示室及び常設展示品	1	撮影	5/18	文化祭展示
27	一般財団法人 あたらしい道	是川中居遺跡出土 木胎漆器ほか	2	写真貸与・掲載	5/22	『縄文の杜ふれあい館』展示
28	北海道・東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す道民会議	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	5/25	縄文夏まつり
29	朝日新聞東京本社企業事業本部 文化事業部	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	2	写真貸与・掲載	5/29	東京国立博物館『縄文』展グッズ
30	株式会社フラッグ	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶ほか	12	写真貸与・掲載	5/30	八戸バイオマス発電所紹介動画
31	びけプロダクション株式会社	常設展示室及び常設展示品	3	撮影	5/30	テレビ番組
32	びけプロダクション株式会社	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	撮影	5/31	テレビ番組
33	特定非営利法人三内丸山縄文発信の会	是川中居遺跡出土 漆塗り櫛ほか	7	写真貸与・掲載	6/1	書籍『縄文辞典【ポケット版】』
34	新郷村立戸来小学校	是川縄文館内観ほか	2	撮影	6/15	
35	朝日出版社	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	2	写真貸与・掲載	6/17	『縄文折紙』
36	株式会社 KADOKAWA 文芸局	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/17	『縄文土器・土偶』、『縄文人の死生観』のチラシ
37	アクトインディ株式会社	是川縄文館外観ほか	4	写真貸与・掲載	6/21	情報サイト『いこーよ』
38	株式会社はる制作室	是川中居遺跡出土 亀ヶ岡式土器集合ほか	2	写真貸与・掲載	6/21	『いまこそ知りたい縄文時代』
39	岩手県立美術館友の会	是川縄文館外観ほか	3	写真貸与・掲載	6/21	チラシ
40	凸版印刷株式会社	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真掲載	6/21	VRコンテンツ『DOGU 美のはじまり』広報物
41	観光課	是川縄文館外観	1	写真貸与・掲載	6/22	三陸ジオパークスタンプラリー リーフレット
42	読売新聞東京本社 八戸支局	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	6/23	日刊紙
43	青森県立八戸商業高校	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	6/23	課題研究
44	株式会社朝日新聞出版 週刊朝日	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	2	写真貸与・掲載	6/26	『週刊朝日』
45	特定非営利法人三内丸山縄文発信の会	風張 1 遺跡出土 土器	1	写真貸与・掲載	6/27	『縄文辞典【ポケット版】』
46	青森県立八戸第二養護学校	常設展示室及び常設展示品	1	撮影	6/28	調べ学習
47	有限会社スタジオ大島	常設展示室及び常設展示品	2	撮影	7/3	吹上小学校卒業アルバム
48	NHK 大坂放送局 制作部	中居遺跡出土 漆塗り注口土器	1	写真掲載	7/6	『歴史秘話ヒストリア』
49	株式会社タピックスジャパン	常設展示「風張の美」展示室内	1	写真貸与・掲載	7/6	カタログ
50	株式会社羽根木	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	2	写真貸与・掲載	7/6	
51	縄文文化発信サポーターズ	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	7/11	『縄文ジョウモン JOMON』チラシ
52	びけプロダクション株式会社	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶出土状況	2	写真貸与・掲載	7/11	テレビ番組『縄文 土偶ミステリー』
53	有限責任事業組合第 2 編集部	是川縄文館外観	1	写真貸与・掲載	7/14	ウェブサイト等
54	株式会社榎出版社	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	5	写真貸与・掲載	7/14	『Discover Japan』
55	東日本旅客鉄道(株)盛岡支社 八戸駅	常設展示室及び常設展示品	2	撮影	7/18	駅施設内での情報発信
56	株式会社青森テレビ 八戸支社	館内でのインタビュー映像	1	撮影	7/19	ニュース番組
57	公園緑地課	是川縄文館外観	12	写真貸与・掲載	7/20	体験学習施設の常設展示資料
58	NHK 青森放送局	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	掲載	7/20	ニュース番組
59	読売新聞東京本社 八戸支局	企画展示室及び展示品	1	撮影	7/21	日刊紙
60	株式会社毎日新聞社	企画展示室及び展示品	1	撮影	7/21	日刊紙
61	株式会社エムディーエヌコーポレーション	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	7/24	『月刊 m d N』9月号
62	株式会社 BOOTLEG(ブートレグ)ATLANTIS	中居遺跡出土 遮光器土偶	1	写真貸与・掲載	7/26	『ATLANTIS』
63	谷口 康浩	是川中居遺跡 復元漆器集合	2	写真貸与・掲載	7/31	『入門 縄文時代の考古学』
64	公園緑地課	是川中居遺跡発掘調査状況	4	写真貸与・掲載	8/1	体験学習施設の常設展示資料
65	青森県立八戸商業高等学校	是川縄文館イベント写真	3	写真貸与・掲載	8/1	ポスター
66	NPO 法人国際縄文学協会	是川中居遺跡出土 木胎漆器出土状況ほか	40	写真貸与・掲載	8/6	『JOMON vol.7』
67	八戸市立是川小学校	八戸市は川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	8/9	修学旅行バッグ
68	我妻 弘泰	是川縄文館外観ほか	2	写真貸与・掲載	8/11	web サイト『CHANTO』「東京ヘッドライン WEB」
69	株式会社集英社インターナショナル	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	8/11	『縄文世界を探索する』
70	株式会社テレビ朝日	是川中居遺跡出土 漆塗り櫛	1	写真貸与・掲載	8/11	テレビ番組『グッド！モーニング』
71	エコハ出版	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	8/15	『縄文の世界はおもしろい』
72	株式会社集英社インターナショナル	是川中居遺跡出土 漆塗り櫛ほか	5	写真貸与・掲載	8/15	『縄文世界を探索する』
73	株式会社ウェッジ	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	8/15	『日本史 10 人の女たち (仮題)』
74	個人	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	8/18	自由研究
75	デーリー東北新聞社	常設展示室及び常設展示品ほか	3	撮影	8/19	日刊紙
76	黎明舎	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	2	写真貸与・掲載	8/24	『マタギ (仮称)』
77	日本化学会関東支部	是川中居遺跡出土 漆塗り櫛	1	写真貸与・掲載	8/24	講演会「生活をいどうる化学」チラシ・ウェブサイト
78	株式会社ネクサス	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	8/28	テレビ番組『開運！なんでも鑑定団』
79	眞田造形研究所	風張 1 遺跡出土 榎杖土偶	1	写真貸与・掲載	9/4	職研新聞社「職研教室 Study Room」
80	北緯 40° ナニヤチャラ連邦会議産産業専門部会	是川中居遺跡 木胎漆器出土状況	1	写真貸与・掲載	9/11	チラシ
81	株式会社 P H P 研究所	風張 1 遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	9/11	『歴史街道』
82	株式会社総開書店	是川中居遺跡出土 土偶ほか	12	写真掲載	9/11	『ハマる縄文!』
83	フォトショップアイズ	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	9/13	小中野小学校卒業アルバム
84	イワタフォトスタジオ	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	9/14	城北小学校卒業アルバム
85	読売新聞東京本社 八戸支局	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	9/14	日刊紙

平成 30 年度映像資料利用依頼一覧(1)

番号	申請者	資料名	点数	利用方法	許可	掲載先
86	株式会社ユーキャン	是川中居遺跡出土 遮光器土偶	1	写真掲載	9/15	新聞広告
87	公益財団法人城陽市民余暇活動センター	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	9/15	パネル展示
88	株式会社アム・プロモーション	是川中居遺跡出土 遮光器土偶	1	写真貸与・掲載	9/19	「縄文カレンダー」
89	第58回東北連合小学校長会研究協議会青森大会	八戸市は川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	9/19	「大会集録」
90	新郷村立野沢中学校	常設展示室及び常設展示品	2	撮影	9/21	学年だより
91	八戸市博物館	市子林遺跡土坑墓調査風景	2	写真貸与・掲載	9/26	特別展「丹後平古墳群と蝦夷の世界」
92	下西 恵梨	是川縄文館内観ほか	2	写真貸与・掲載	10/2	webサイト「トリップノート」
93	郵船クルーズ株式会社	是川縄文館内観ほか	2	写真貸与・掲載	10/2	飛鳥IIパンフレット
94	市民連携推進課	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶出土状況ほか	4	写真貸与・掲載	10/5	第60回外国人による日本語学大会
95	黎明舎	是川中居遺跡出土 漆塗り弓	2	写真貸与・掲載	10/2	『マタギ(仮称)』
96	八戸市立根城中学校	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	10/4	総合学習
97	八戸市立大久喜小学校	常設展示室及び常設展示品ほか	3	撮影	10/4	卒業アルバム
98	八戸市博物館	田面木遺跡調査区全景ほか	3	写真貸与・掲載	10/5	特別展「丹後平古墳群と蝦夷の世界」
99	青森県立八戸高等学校	体験交流室	1	撮影	10/10	活動記録
100	有限会社スタジオ大島	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	10/12	卒業アルバム
101	読売新聞東京本社 八戸支局	企画展示室及び展示品ほか	2	撮影	10/13	日刊紙
102	田子町立清水頭小学校	常設展示室及び常設展示品	1	撮影	10/17	活動記録の資料
103	株式会社造事務所	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	10/26	「縄文時代の不思議と謎」
104	公益財団法人せたがや文化財団	是川中居遺跡出土 皿形土器ほか	6	写真貸与・掲載	10/26	生活工房事業「祝の衣服展 赤をめぐる旅展 vol.3」
105	第58回東北連合小学校長会研究協議会青森大会	八戸市は川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	10/26	「大会集録」
106	八戸縄文鑑賞会	八戸市は川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」	2	写真貸与・掲載	10/27	「めぐろ世界文化遺産縄文フェス」ポスター
107	青森県立八戸商業高等学校	八戸市は川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	11/2	いのるんエコバッグ
108	青森観光企画課	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶ほか	4	撮影	11/2	企画書
109	株式会社グランフォート	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	11/9	卒業アルバム
110	認定こども園百石幼稚園	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	11/6	園だより
111	有限会社スタジオ大島	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	11/6	根城小学校卒業アルバム
112	新山 尊	常設展示室及び常設展示品	1	撮影	11/7	SNS
113	新美術館建設推進室	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶ほか	7	写真貸与・掲載	11/13	写真展ワークショップ
114	北海道・東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す道民会議	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	11/13	縄文雪まつり
115	一般社団法人 八戸建設業協会	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶ほか	2	写真掲載	11/15	年賀状
116	株式会社メダリオエンタープライズ	常設展示室及び常設展示品ほか	3	撮影	11/15	みちたん
117	株式会社暮らしの手帖社	展示室及び展示品ほか	2	撮影	11/18	「暮らしの手帖」
118	株式会社新泉社	是川中居遺跡 漆塗り土器集合	1	写真貸与・掲載	11/20	「世界から見た北の縄文」
119	イワタデフォトスタジオ	常設展示室及び常設展示品	1	撮影	11/20	卒業アルバム
120	八戸市立西園小学校6学年	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	11/22	パンフレット作成
121	青森県立八戸第一養護学校	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	11/22	字級通信
122	有限会社タンドリーチキン	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	11/27	会員誌
123	デーリー東北新聞社	是川縄文館内観	1	撮影	12/1	取材
124	観光課	是川中居遺跡出土 藍胎漆器ほか	14	写真貸与・掲載	12/4	第2回全国連携展示
125	株式会社造事務所	是川中居遺跡出土 篋形木製品	1	写真貸与・掲載	12/4	「縄文時代の不思議と謎」
126	株式会社雄山閣	一王寺遺跡からみつかった貝層	1	写真貸与・掲載	12/5	『季刊考古学』146号
127	八戸工業大学第一高等学校	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	12/7	学校ウェブサイトで・学年新聞
128	河村 好光	風張(1)遺跡出土 ヒスイ玉類	1	写真掲載	12/15	『考古学研究』第65巻第3号
129	株式会社朝日旅行	是川中居遺跡出土 木胎漆器	2	写真貸与・掲載	12/15	ツアー広告等
130	読売新聞社	常設展示室及び常設展示品	1	撮影	12/15	読売新聞
131	株式会社ミヤギテレビサービス	常設展示室及び常設展示品	2	撮影	12/18	ミヤギテレビ「oh!パンドス」
132	デーリー東北新聞社	パネル展	1	撮影	12/18	取材
133	デーリー東北新聞社	常設展示室及び常設展示品ほか	2	撮影	12/19	『シニョ』1月号
134	NPO法人国際縄文学協会	是川中居遺跡出土 飾り太刀ほか	4	写真貸与・掲載	12/26	「縄文」30号
135	株式会社テレビ朝日	是川中居遺跡出土 漆塗り飾	1	写真掲載	12/26	テレビ番組『グッド!モーニング』
136	山形県立博物館	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	12/26	「冬の博物館まつり」
137	株式会社テレビマンユニオン	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶の映像	1	映像使用	12/26	テレビ番組『世界ふしぎ発見!』
138	一般社団法人 八戸グリーンプランツ	八戸市は川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	12/26	刺し子
139	株式会社グレイ	是川中居遺跡 赤染人骨出土状況	1	写真貸与・掲載	12/27	「最新発掘調査でわかった「日本の神話」(仮称)」
140	国立大学法人 弘前大学人文社会学部	熊野堂遺跡第6地点の調査成果及びSK481出土イネ種子	1	写真貸与・掲載	12/27	『日本の出土土米IV 東日本編』
141	信濃毎日新聞社	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	12/28	「信濃毎日新聞」
142	株式会社造事務所	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶ほか	2	写真掲載	12/28	「縄文時代の不思議と謎」電子書籍版
143	デーリー東北新聞社	中居遺跡出土 動物遺存体ほか	16	写真貸与・掲載	1/5	『シニョ』1月号
144	メディアコート八戸西病院	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	1/8	チラシ
145	青森県環境生活部県民生活文化課	是川中居遺跡出土 土偶ほか	32	写真掲載	1/22	青森県史デジタルアーカイブ
146	有限会社サウンドクリエイト	常設展示室	1	撮影	1/22	テレビ番組『わっち!!』
147	株式会社近畿日本ツーリスト東北青森支店	常設展示室及び展示品ほか	2	撮影	1/26	「Japan Travel」
148	デーリー東北新聞社	常設展示室及び展示品	1	撮影	1/26	日刊紙
149	おいらせ町教育委員会	「海と火山と縄文人」映像資料	1	映像使用	1/27	阿光坊古墳群を学ぼう講座
150	青森県観光国際戦略局誘客観光課	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	1/30	青森県観光コンテンツ説明会の資料
151	株式会社造事務所	是川中居遺跡出土 篋形木製品	1	写真掲載	1/30	客室専用誌「たのやく」
152	東奥日報社	常設展示室及び展示品ほか	2	撮影	2/1	日刊紙
153	滝沢市埋蔵文化財センター	落とし穴による狩猟園	1	写真貸与・掲載	2/5	常設展示パネル
154	新潟県立歴史博物館	是川中居遺跡出土 遮光器土偶	1	写真貸与・掲載	2/6	平成31年度年間リーフレット
155	観光課	常設展示室及び展示品ほか	3	撮影	2/15	観光パンフレット
156	茅野市尖石縄文考古館	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/20	『茅野市縄文ガイドブック』
157	株式会社ジェイアール東日本企画	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/22	旅行商品ポスター・看板・チラシ
158	株式会社フォルテ	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	2/26	縄文ガイドアプリ
159	株式会社TBSテレビ	常設展示室及び展示品ほか	3	撮影	2/26	テレビ番組『ビビット』
160	青森県観光国際戦略局誘客観光課	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶の3Dデータ	1	写真貸与・掲載	2/27	商品開発
161	青森県教育庁文化財保護課	是川遺跡を調査した研究者たち	1	写真貸与・掲載	3/1	青森県内の具塚遺跡群重点調査事業報告書
162	株式会社自由社	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	3/5	中学社会教科書
163	テレコムスタッフ株式会社	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	2	写真貸与・掲載	3/6	テレビ番組『英雄たちの選択』
164	川口印刷工業株式会社	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	3/8	八戸市市制施行90周年記念誌
165	新光印刷株式会社	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	1	写真貸与・掲載	3/8	八戸広域ガイドマップ
166	長野県立歴史館	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	2	写真貸与・掲載	3/8	「国宝土偶展」
167	株式会社 自由企画社	常設展示室及び展示品ほか	2	撮影	3/8	自由民主党発行月刊誌『りぶる』
168	個人	常設展示室及び展示品ほか	2	撮影	3/10	フェイスブック
169	株式会社ジェイアール東日本企画 盛岡支店	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶ほか	2	写真貸与・掲載	3/12	びゅうパンフレット
170	株式会社造事務所	是川中居遺跡出土 篋形木製品	1	写真掲載	3/14	客室専用誌「たのやく」

平成30年度映像資料利用依頼一覧(2)

VI 管理運営概要等

番号	申請者	資料名	点数	利用方法	許可	掲載先
171	テレビ朝日映像株式会社	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶(正面)	1	写真貸与・掲載	3/14	テレビ番組『99人の壁』
172	株式会社山川出版社	是川中居遺跡出土 浅鉢形土器ほか	3	写真貸与・掲載	3/14	『図説 歴史散歩事典』
173	株式会社NHK エデュケーショナル	中居遺跡出土 透光器土偶	1	写真貸与・掲載	3/15	『NHK 高校講座 日本史』
174	テレコムスタッフ株式会社	常設展示室及び展示品ほか	2	撮影	3/19	テレビ番組『英雄たちの選択』
175	株式会社日経カルチャー	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶(正面)	1	写真貸与・掲載	3/20	ツアー広告
176	青森県鉄道整備促進期成会	是川縄文館外観	1	写真貸与・掲載	3/20	新幹線PRリーフレット
177	株式会社交通新聞社	風張1遺跡出土 国宝 合掌土偶	5	写真貸与・掲載	3/20	旅行雑誌『旅の手帖』6月号
178	株式会社交通新聞社	常設展示室及び展示品ほか	3	撮影	3/20	『旅の手帖』
179	八戸市博物館	館平遺跡出土 常滑甕ほか	3	写真貸与・掲載	3/20	『八戸市博物館研究紀要』
180	特定非営利活動法人はちのへ未来ネット	八戸市是川縄文館マスコットキャラクター「いのるん」	1	写真貸与・掲載	3/28	チラシ・ポスター・看板
181	東北グレンネットサービス株式会社	常設展示品及び展示品	1	撮影	3/30	グッズ製作

平成30年度映像資料利用依頼一覧(3)

(2) 実物資料

平成30年度は合計10件の貸出を許可した。このうち、国宝・合掌土偶は、東京国立博物館で開催された特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」と、続いてパリ日本文化会館で開催された特別展「縄文ー日本における美の誕生」において、縄文時代を代表する美術工芸品として、来場者の注目を集めた。

No.	申請者名	資料名	貸出期間	利用先
1	八戸市博物館	中居遺跡出土 甕形土器・管玉、是川遺跡出土 骨角器、八戸城跡出土 土偶様壺形土器他 計46点	H30.4.1～ H31.3.31	常設展示
2	東京国立博物館	風張1遺跡出土 国宝・合掌土偶、中居遺跡出土 大洞式土器・イモガイ形土製品 計13点	H30.6.20～ H30.9.11	特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」
3	東北歴史博物館	中居遺跡出土 ヤス軸柄・掘り棒・繊維製品等(漆瀧し布・縄)・サンショウ・クルミ・トチ・石斧(複製品)他 風張(1)遺跡出土 トチ他 計15点	H30.6.29～ H30.10.19	特別展「タイムスリップ!縄文時代」
4	青森中央学院大学	雷遺跡出土 人骨・石橋遺跡出土 人骨 計19体	H30.7.24～ H31.2.28	日本学術振興会科研費プログラム「ひらめき・ときめきサイエンス」での実見
5	東京国立博物館	風張1遺跡出土 国宝・合掌土偶 1点	H30.9.12～ H30.12.21	特別展「縄文ー日本における美の誕生」(於パリ日本文化会館)
6	八戸市博物館	市子林遺跡・田面木遺跡出土品 計388点	H30.9.26～ H30.11.22	特別展「丹後平古墳群と蝦夷の世界」
7	御所野縄文博物館	風張1遺跡出土 国宝・合掌土偶(複製品)・是川中居遺跡出土 藍胎漆器(復元製作品) 計2点	H30.11.6～ H30.11.22	企画展「縄文から続くカシオペアの伝統文化」
8	八戸市博物館	田向冷水遺跡出土 イノシシ形土製品・風張(1)遺跡出土 イノシシ形土製品・原生イノシシ全身骨格標本 計3点	H30.12.14～ H31.2.15	新春ミニ企画「えと展 ーいのししー」
9	八戸市博物館	根城跡岡前館・下町出土品 計412点	H30.12.2～ H31.3.31	史跡根城跡岡前館整備方針検討
10	浅間縄文ミュージアム	長七谷地貝塚出土貝類 一式	H31.2.14～ H31.3.14	企画展「海山に暮らした家族の記憶のカケラ」

平成30年度実物資料貸出一覧

6. 資料収蔵

(1) 収蔵対象

是川縄文館では、八戸市内の遺跡から発掘調査等によって出土した遺物や、写真・図面等の調査記録、関連図書の収集・収蔵・保管を実施している。また、是川縄文の里整備事業において活用するため、漆器生産等に関連する民族・民俗資料も収蔵対象としている。

(2) 出土遺物等

出土遺物等については、平成元年度以降に八戸市教育委員会が実施した発掘調査によって出土した資料のほか、寄贈品等を収蔵している。収蔵施設には特別収蔵庫及び一般収蔵庫がある。特別収蔵庫には重要文化財、保存処理が完了した木製品・金属製品等の約700点を収蔵している。一般収蔵庫にはそのほかの土器、石器、土製品、石製品等が約3,000箱収蔵されている。収蔵庫内は資料を適切な状態で保管するため、常時温湿度管理を行っており、消火設備を備えている。資料は掲載されている調査報告書の図版ごとに平箱に収納している。

平成30年度は発掘調査で出土した遺物のうち、整理作業が終了した1,071点、30箱を新たに収蔵した。

(3) 写真・図面等

写真・図面等の調査現場における記録のほか、整理作業の過程で作成された遺物実測図等は調査記録保管室で収蔵保管している。八戸市教育委員会の発掘調査では、35mmフィルムカメラとデジ

タルカメラを併用して記録写真を撮影している。発掘調査の記録には恒久的な保管が求められるが、デジタルデータの長期的な保管方法については課題とされてきた。記録媒体として光ディスクを用いる場合、初期の書き込み品質の確保と、定期的な品質検査による媒体移行が必要となる。

そこで平成27年度からは、デジタルデータの長期保存運用方法の規格であるJIS Z6017に準拠したアーカイブBDドライブ（パイオニア製 BDR-PRIMC-U-AL）及びブルーレイディスクを導入することとした。現在、蓄積されてきたデジタルデータを媒体に移行する作業を順次進めており、今後定期的な品質検査・媒体移行を実施していく予定である。

(4) 図書

図書については、50,965冊を所蔵している。各地の地方自治体等が刊行している発掘調査報告書等の考古学・歴史学に関連する図書が大半を占める。蔵書のうち24,243冊は故・江坂輝彌氏による寄贈図書である。江坂図書は学史上重要な文献から外国語文献に至るまで多岐にわたる資料を含んでおり、調査・研究に活用されている。図書は書庫・研究室に収蔵されているほか、一部は閲覧コーナーにおいて一般開放している。

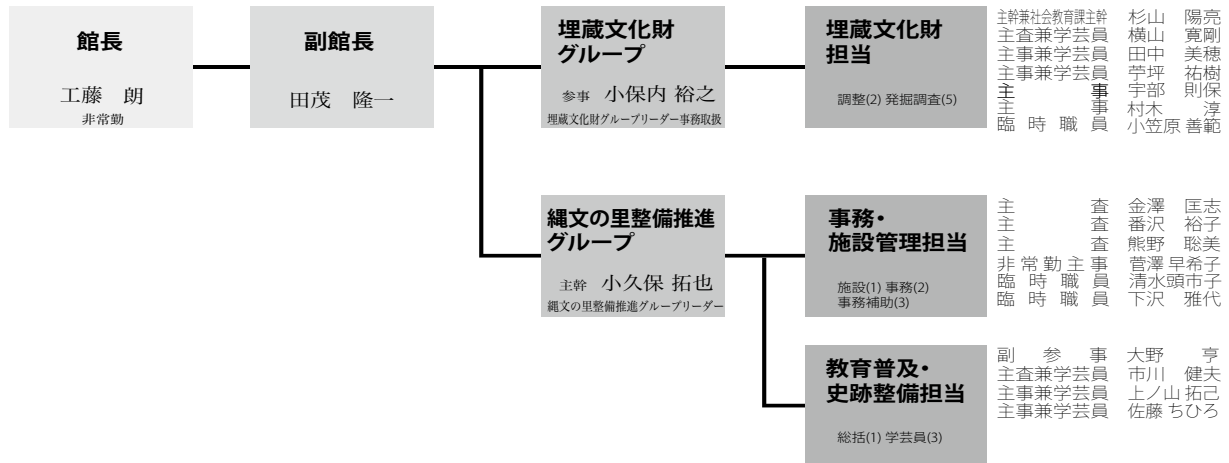
平成30年度は729冊（うち寄贈651冊、購入78冊）を新たに追加した。

7. 予算概要 ※補正予算の記載がない額は当初予算額を示す。職員人件費は含まない。

予算内容		予算額 (円)	備考
運営経費		98,801,000	
《内訳》	施設維持管理経費	80,091,000	
	一般管理事務経費	18,710,000	
特別展・体験事業等開催事業費		29,107,000	
《内訳》	特別展経費	12,186,000	
	企画展経費	10,628,000	
	共同研究経費	137,000	
	教育普及経費	6,156,000	
是川縄文の里整備事業費		64,023,000	
発掘調査事業費		84,108,000	
《内訳》	八戸市内遺跡発掘調査事業費	53,624,000	
	八戸城跡発掘調査事業費	9,506,000	
	八戸城跡(その2)発掘調査事業費	12,852,000	補正予算
	櫛引遺跡発掘調査事業費	1,847,000	
	新井田古館遺跡発掘調査事業費	1,544,000	
	雷遺跡発掘調査事業費	2,100,000	補正予算
	文化財調査管理事務経費	2,635,000	
埋蔵文化財保存活用費		16,049,000	
《内訳》	埋蔵文化財活用活性化事業費	10,624,000	
	是川遺跡出土品保存修理事業費	5,425,000	
合計		292,088,000	

VII 組織・関係団体

1. 組織及び職員構成



2. 八戸縄文保存協会

【設立年】平成 7 年 【会員数】145 名(法人会員含む)

【目的・活動】

縄文文化の重要性を認識し、縄文遺跡及びその出土品の保存に協力するとともに、その活用を図り、もって地域文化・経済の振興に寄与することを目的に発足。当協会では、目的を達成するために次の事業を行う。

- ①縄文文化についての研修
- ②是川縄文館に関連する事業への協力
- ③縄文是川ボランティアへの支援
- ④縄文遺跡及びその出土品等の宣伝紹介
- ⑤文化財保護思想の啓蒙など

さらに、是川縄文館内でミュージアムショップ・喫茶コーナー「これカフェ」を運営し、来館者の利便性向上を図っている。

このほか、毎年 8 月には「これかわ縄文まつり」を催し、弓矢体験や縄文土器・土偶作り、火起こし等の縄文体験、スタンプラリーといったイベントと各種ステージの企画・実施を通じ、縄文遺跡の魅力について広く普及啓発を図っているほか、地域の活性化に寄与している。平成 30 年度は、8 月 19 日(日)に 23 回目となる「これかわ縄文まつり」を開催した。天候に恵まれ、ステージイベントが行われたほか、縄文体験コーナーや縄文鍋・トチもちのふるまいな

どの各種イベントも好評であった。また、昨年に引き続き近隣の大学による出店も行われ、平成 30 年度は約 980 人の来場者があった。

冬には、「第 3 回は川縄文の里俳句大会」を開催し、学生の部・一般の部あわせて 481 作品の応募があった。その中から優秀な作品を選考し、縄文館内で表彰を行った。

また、当協会は、「青森県の縄文遺跡群 世界遺産をめざす会」や「北の縄文文化回廊づくり推進協議会」に加盟し、縄文遺跡群の世界文化遺産登録推進に係る普及啓発を行っている。



これかわ縄文まつりの様子

3. 是川文化財愛護会

【設立年】昭和 49 年 【会員数】13 人

【目的・活動】

是川遺跡とその出土品をはじめとする八戸市内の文化財の愛護事業に協力し、その活用を図り、地域文化の向上に資することを目的として発足した。主な活動として、是川遺跡の紹介や環境整備・保全活動、及び文化財愛護思想の啓蒙等がある。

特に環境整備等の活動では、平成 6 年に実施された分館敷地内の復元竪穴住居における燻し等の保守管理活動や、縄文時代に生育されていたと考えられる植物の植栽活動等を継続的に実施している。

平成 24・25 年度には復元竪穴住居 2 棟の修繕を実施した。

4. 是川縄文隊

【設立年】平成24年 【会員数】9人

【目的・活動】

是川地域住民の宝である、是川縄文遺跡の保存・活用に寄与するとともに、是川縄文館を核とした「是川縄文の里」の地域振興を図ることを目的に発足。

当団体では、下記の行事を行う。

- ①是川縄文館来館者への地域のPR
- ②是川縄文館来館者増につながる地域特性を活かした活動
- ③是川縄文遺跡の保存・活用・PRにつながる活動

平成30年6月23日から11月10日までに是川縄文館敷地内において、地域振興を図ることを目的に来館者へ周辺ガイドマップを配布したほか、是川産直野菜を販売するなど地域のPR活動を行った（10回開催）。



是川縄文隊の活動の様子

5. 縄文是川ボランティア

【設立年】平成8年 【会員数】45人

【目的・活動】

是川遺跡及びその出土品をはじめ縄文時代の調査・研究の成果を活用して、八戸市の縄文遺跡や縄文文化の素晴らしさを市民に伝え、八戸市埋蔵文化財センターは川縄文館の教育普及活動を支援することを目的とし、下記の活動を行っている。

- ①縄文体験コーナー②土曜日体験教室③グループ・団体の体験学習の指導④縄文土器野焼き⑤学校・公民館等での体験学習の指導⑥研究・研修・学習会⑦是川縄文館本館・分館の展示室や是川遺跡のガイド

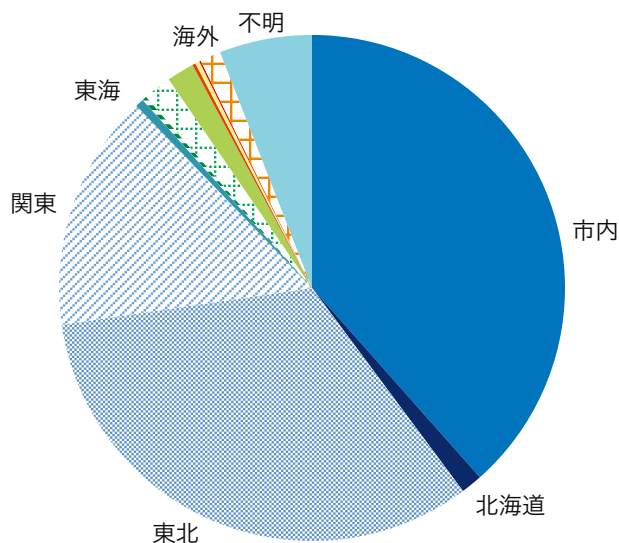


サポートスタッフ研修会の様子

【活動実績】※体験学習指導の詳細については、III-3教育普及の実績、VI-2日記抄を参照されたい。

月	開館日数	延人数	一日平均人数
4	27	214	8
5	28	225	8
6	27	206	8
7	29	274	10
8	30	256	9
9	27	218	8
10	27	214	9
11	27	238	9
12	23	162	7
1	23	144	6
2	24	173	7
3	26	219	7
計	318	2,543	8

縄文是川ボランティア活動人数



縄文是川ボランティア展示解説 地方別利用状況

※縄文是川ボランティアの聞き取りにより把握

都道府県	人数
八戸市内	1,931
北海道	69
東北	1,650
関東	759
信越	27
北陸	15
東海	90
近畿	88
中国	10
四国	0
九州	14
沖縄	5
海外	67
不明	297
総計	5,022

利 用 案 内

○開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

○観覧料

区 分	個 人	団 体
一般	250 円	130 円
大学生・高校生	150 円	80 円
中学生・小学生	50 円	30 円

※市内65歳以上、障がい者手帳等をお持ちの方と同伴者1名は半額。特別展は料金が異なります。

○休館日 毎週月曜日（第一月曜日・祝日・振替休日の場合は開館）

祝日・振替休日の翌日（土・日曜日、祝日の場合は翌日）

年末年始（12月27日～1月4日）

※上記以外の臨時開館・臨時休館があります。

○交 通 バス：JR八戸駅から土日祝日のみ南部バスで22分

ラピアバスターミナル・中心街から南部バス（J42、J112）で約25分

中心街バスターミナル3（中央通）南部バスで約20分

自動車：八戸自動車道・八戸ICから約10分

タクシー：JR八戸駅東口より約15分 ※距離：約8km 料金：約3,000円

○駐車場 本館：普通車86台 大型バス6台 障がい者用3台

分館：普通車30台

○所在地 本館：青森県八戸市大字是川字横山1 TEL 0178-38-9511 FAX0178-96-5392

分館：青森県八戸市大字是川字中居3-1 TEL 0178-96-1484

○ホームページ <https://www.korekawa-jomon.jp/>

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館
年 報
第 8 号 -平成 30 年度-

発 行 日 2019 年 6 月 12 日
編 集 ・ 発 行 八戸市教育委員会
八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館
〒 031-0023 青森県八戸市大字是川字横山 1
TEL 0178 (38) 9511 FAX 0178 (96) 5392
印 刷 有限会社 三陽印刷
〒 031-0801 青森県八戸市江陽四丁目 1- 2
TEL 0178 (24) 2002 FAX 0178 (24) 2001